

別冊資料編

# 標茶町 高齢者保健福祉計画 第7期介護保険事業計画

健やかに暮らせるまちづくり

『計画期間：平成30（2018）～平成32（2020）年度』



北海道標茶町

# 標茶町 高齢者実態調査 結果報告書



# も く じ

<b>I. 調査の概要</b> . . . . .	<b>1</b>
1. 調査の目的 . . . . .	1
2. 調査対象及び調査方法等 . . . . .	1
3. 回収結果 . . . . .	1
4. 本報告書の見方について . . . . .	2
<b>II. 日常生活圏域ニーズ調査</b> . . . . .	<b>3</b>
回答者について . . . . .	3
問1 あなたの家族や生活環境について . . . . .	6
問2 からだを動かすことについて . . . . .	13
問3 食べることについて . . . . .	23
問4 毎日の生活について . . . . .	33
問5 地域での活動について . . . . .	51
問6 たすけあいについて . . . . .	54
問7 健康について . . . . .	62
問8 保健福祉施策について . . . . .	70
<b>III. 在宅介護実態調査</b> . . . . .	<b>80</b>
回答者について . . . . .	80
A票 あて名のご本人について . . . . .	85
B票 主な介護者の方について . . . . .	108
<b>IV. 自由意見</b> . . . . .	<b>112</b>
1. 日常生活圏域ニーズ調査 . . . . .	112
2. 在宅介護実態調査 . . . . .	115

# I. 調査の概要

## 1. 調査の目的

この調査は、平成30～32年度までの3年間に標茶町が取り組むべき高齢者福祉施策や介護保険事業を総合的に展開するための第7期高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画策定の基礎資料とするために実施しました。

「日常生活圏域ニーズ調査」は、地域の高齢者の状況を把握することで地域課題を把握するとともに、地域の実情に合った新しい総合事業の運営・管理や高齢者の生活状態に合った介護予防事業実施のための基礎資料とすることを目的に実施しました。

「在宅実態調査」は、要介護認定者の適切な在宅生活の継続と家族等介護者の就労継続の実現に向け、介護サービスの在り方を検討し、計画に反映させることを目的として実施しました。

## 2. 調査対象及び調査方法等

調査種類	① 日常生活圏域ニーズ調査 ② 在宅介護実態調査
調査対象	① 65歳以上の一般高齢者及び要支援1・2の認定を受けて、在宅で生活されている方から無作為で520名を任意抽出 ② 要介護1～5の認定を受けて、在宅で生活されている方から190名を無作為で抽出
調査地域	町内全域
調査基準日	平成29年4月1日
調査期間	平成29年7月4日～7月31日
実施方法	① 郵送による配布・回収 ② 郵送による配布・回収

## 3. 回収結果

区分	③ 日常生活圏域ニーズ調査	④ 在宅介護実態調査	合計
配布数 A	520	190	710
回収数	328	93	421
有効回収数 B	328	93	421
有効回収率 $B \div A \times 100$	63.1%	48.9%	59.3%

## 4. 本報告書の見方について

本報告書を読むに当たって、以下の点に留意してください。

- (1) 比率はおおむね百分率(%)で表し、小数第2位を四捨五入して算出しました。したがって、合計が100%を上下する場合があります。
- (2) 基数になるべき実数は、表中では「全体」(n=〇〇〇)と表記し、回答者数を表します。各比率は回答者数に対する割合として算出しました。
- (3) 横帯グラフのデータは、小数第1位を四捨五入して算出し、整数表示としました。したがって、n数(母数)にグラフ中の割合を掛けても文中の(〇人)とは必ずしも一致しません。
- (4) ある質問の特定の回答を選んだ人のみが答える質問は、「限定質問」といい、その場合の基数nは特定の回答数です。
- (5) 質問の終わりに「3つまでに〇」あるいは「あてはまるものすべてに〇」などとある場合は、1人の回答者が2つ以上の回答選択肢を選んでよい質問であり、したがって比率合計はほとんどが100%を超えます。
- (6) 図表の中の「不明」という表示は、無回答若しくは指示通り回答していない場合で、「非該当」という表示は、限定質問の回答資格がない場合を指しています。

## Ⅱ. 日常生活圏域ニーズ調査

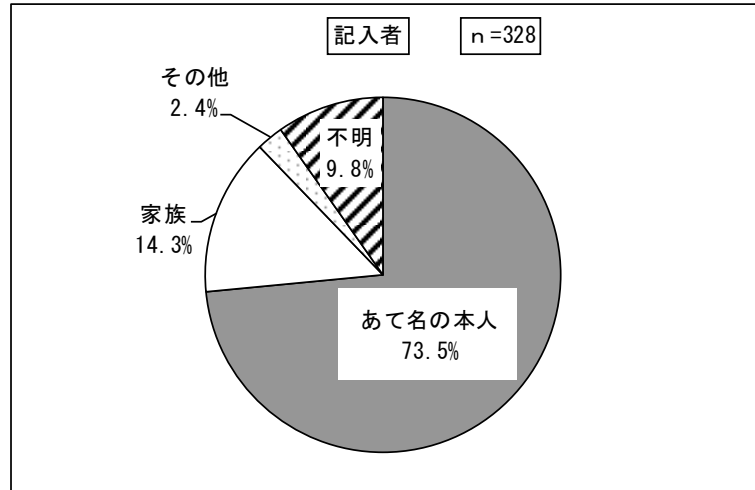
### 回答者について

(1) 調査票を記入されたのはどなたですか。

アンケートの記入者は「あて名の本人」が73.5%を占め、「家族」が14.3%です。

#### 『その他』

担当ケアマネジャー (3)

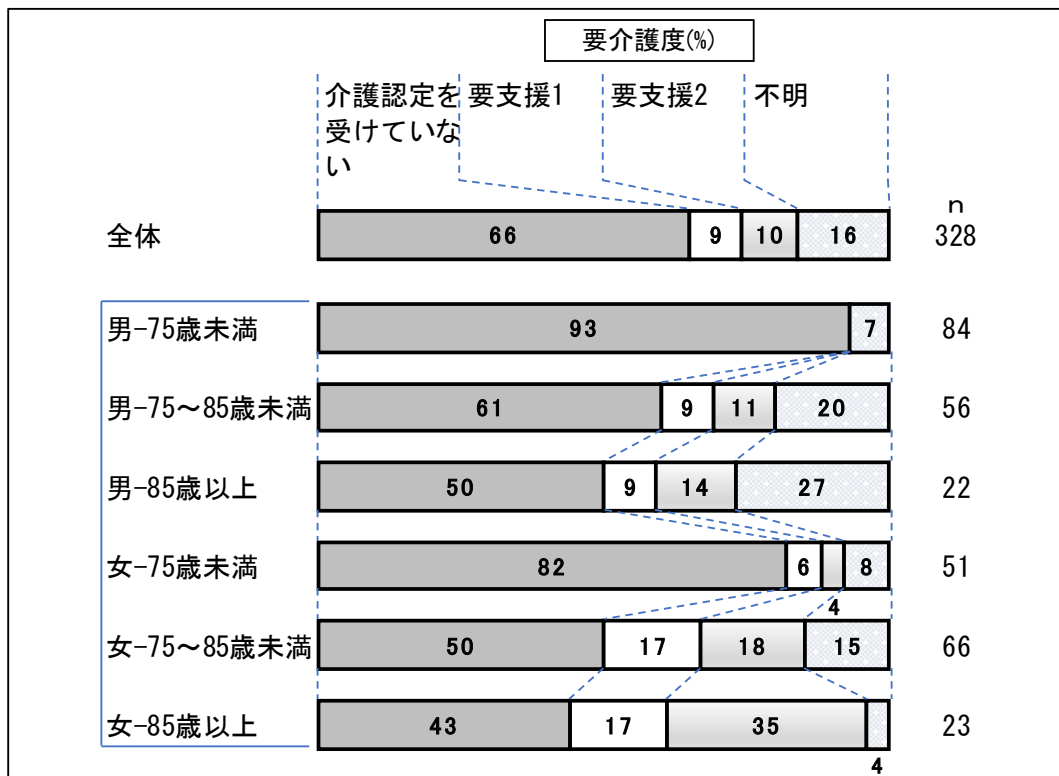


(2) 要介護度

全体で見ると、66%が認定を受けていません。(以下、このグループを一般高齢者とします。)

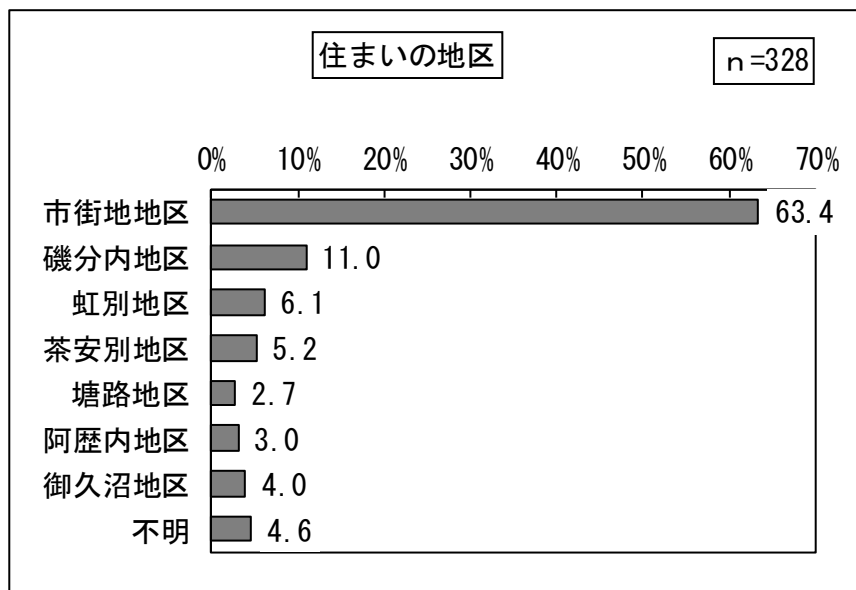
「要支援1」と「要支援2」の合計は19%です。

男女年齢別で見ると、年齢が上がるほど要支援認定者の割合が高くなります。



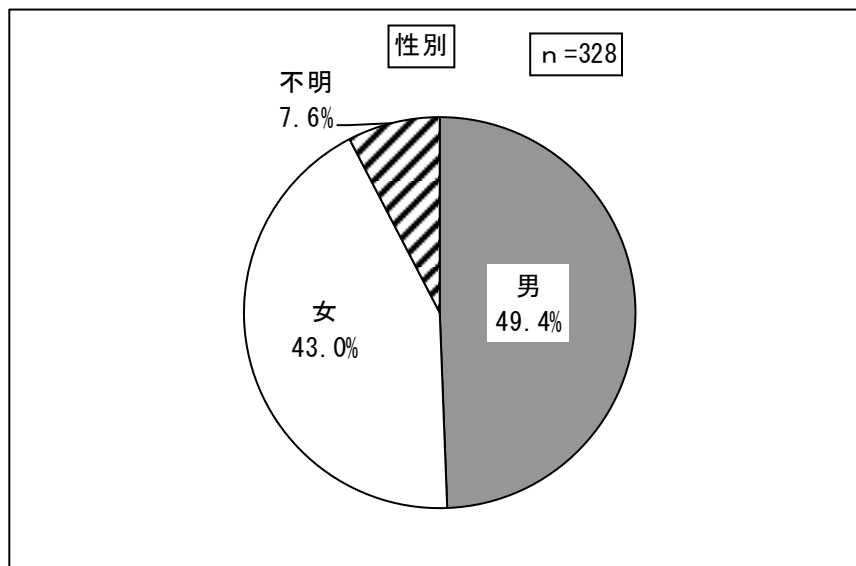
### (3) お住まいの地区

回答者の 63.4%は市街地地区に住んでいます。



### (4) 性別

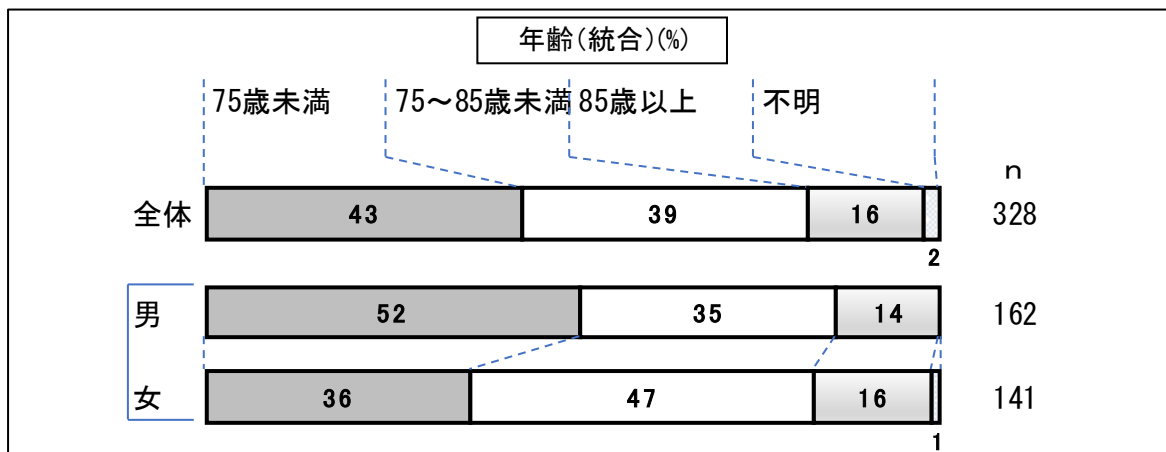
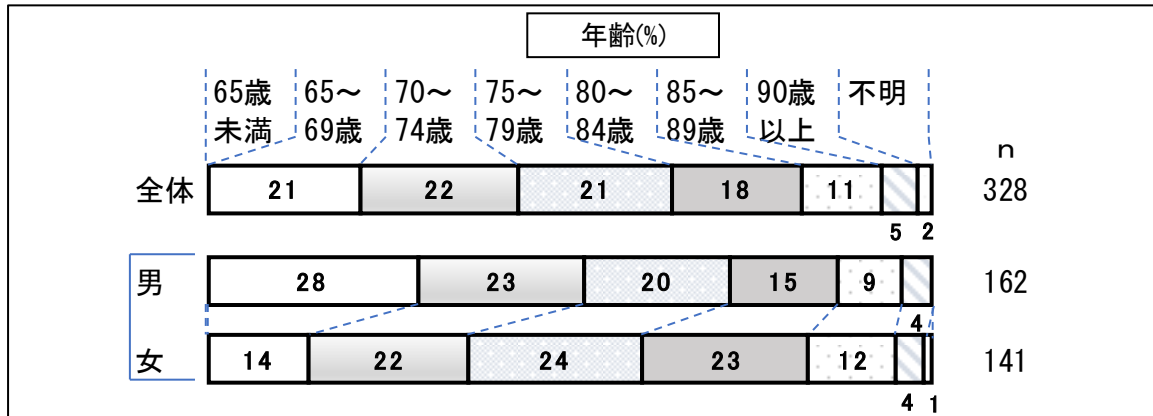
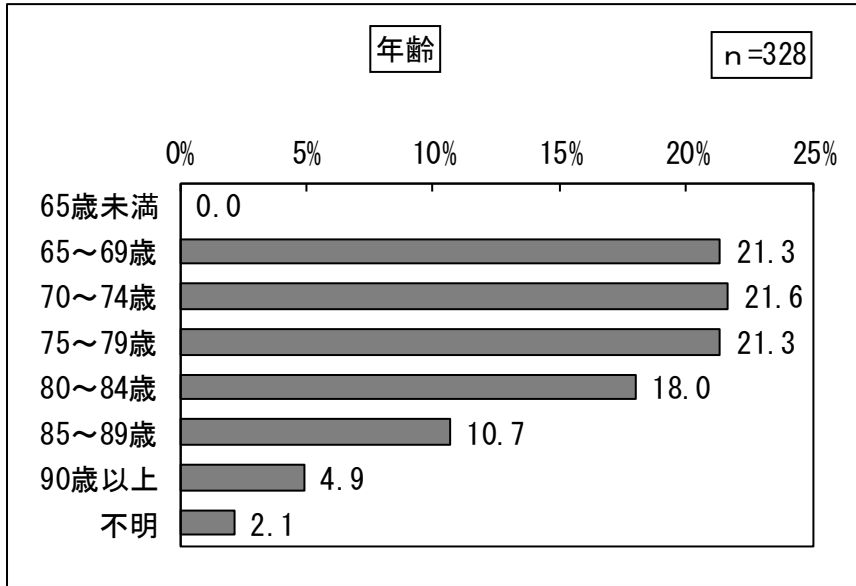
回答者の性別は、「男性」が 49.4%、「女性」が 43.0%です。



(5) 年齢

回答者の年齢階級をみると、「65歳未満」(0%)、「85～89歳」(10.7%)、「90歳以上」(4.9%)を除いた各年齢階級は約20%ずつです。

統合した3階級でみると、「75歳未満」が43%、「75歳以上85歳未満」は39%、「85歳以上」は16%で、男女別では、男性の方が「75歳未満」が多く半数以上を占めます。





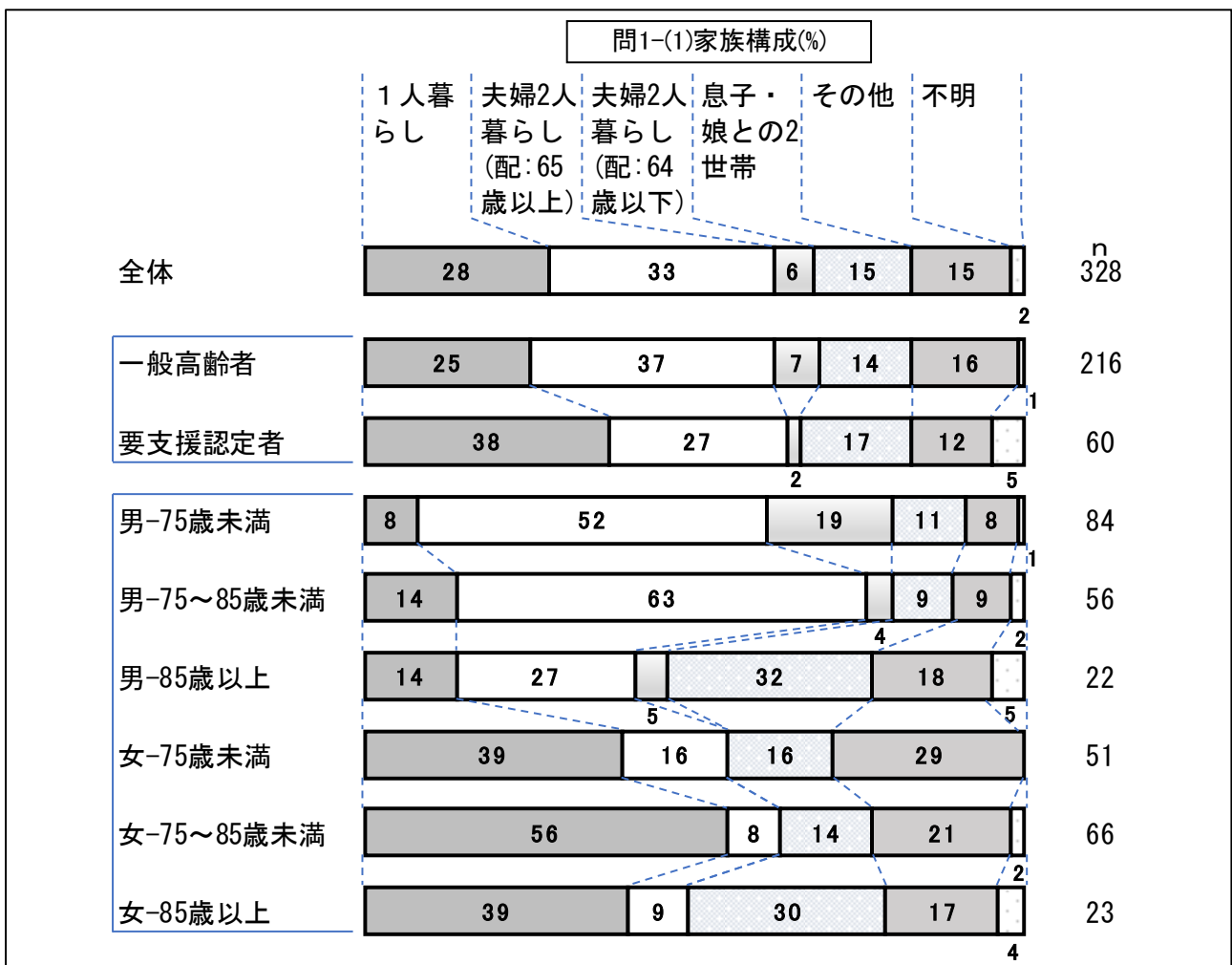
# 問1 あなたの家族や生活環境について

## (1) 家族構成をお教えてください。

全体でみると、「夫婦2人暮らし（配偶者65歳以上）」が33%で最も多く、次いで「1人暮らし」が28%となっています。

介護認定別でみると、要支援認定者は「1人暮らし」が38%と多くなっています。

男女年齢別でみると、女性は各年齢階級とも男性より「1人暮らし」が多く、85歳以上でも39%となっています。

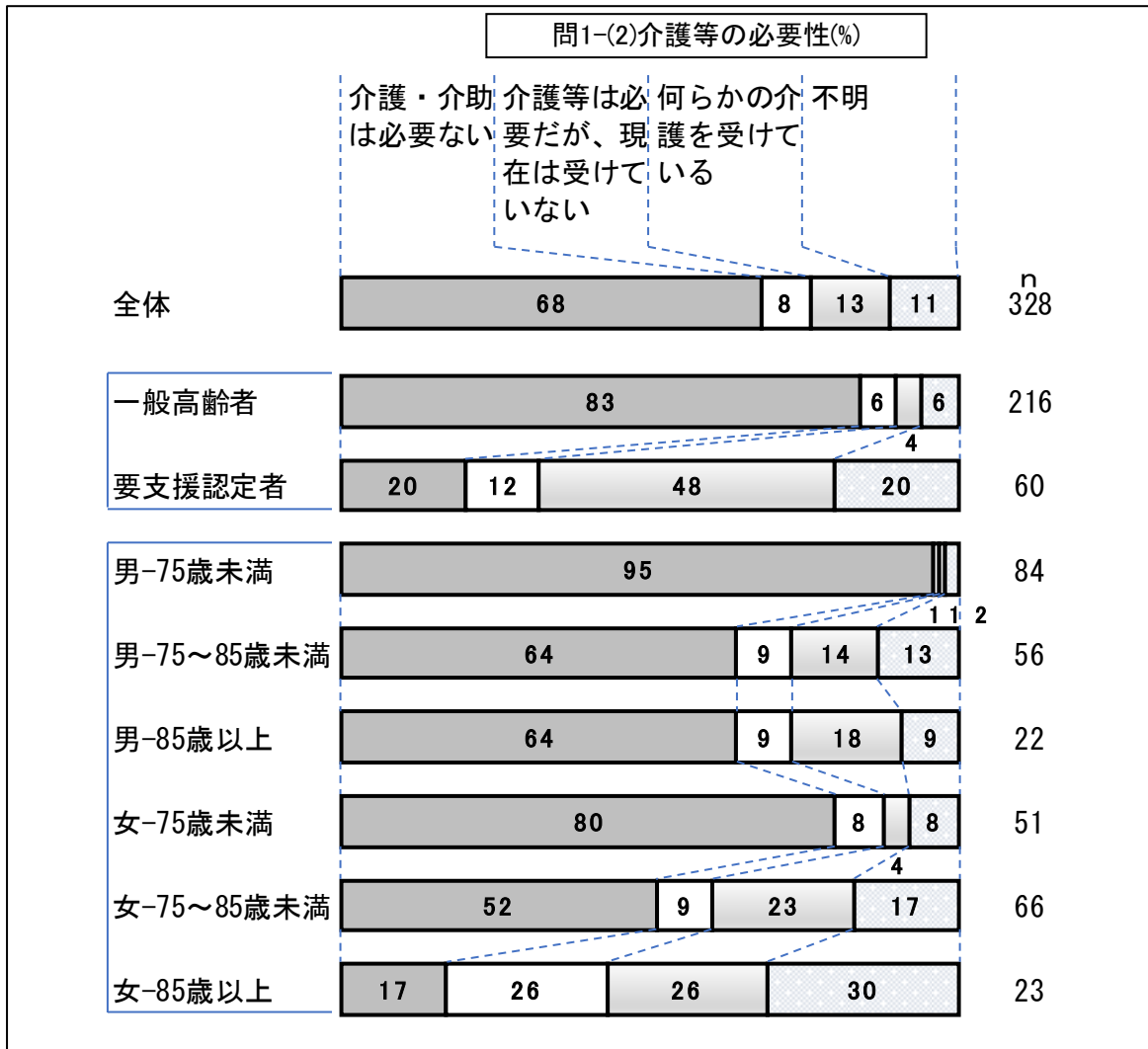


(2) あなたは、普段の生活でどなたかの介護・介助が必要ですか。

全体で見ると、「介護・介助は必要ない」が68%を占めていますが、「現在、何らかの介護を受けている」は13%と少数ながら存在しています。

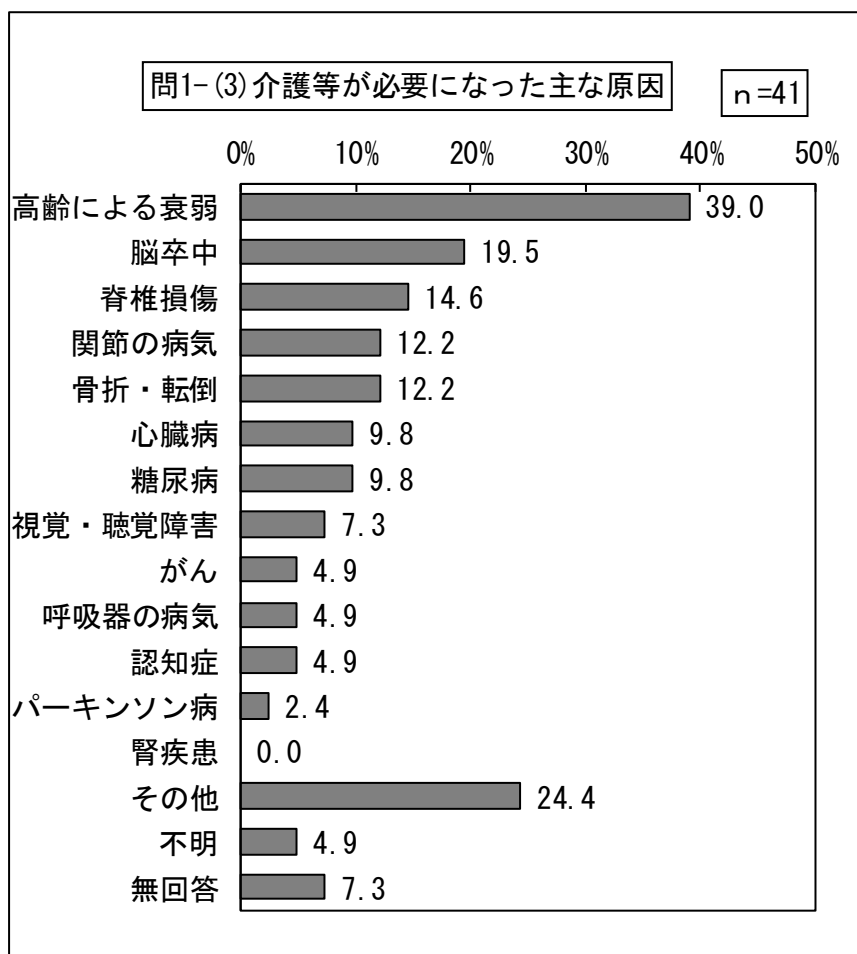
介護認定別で見ると、要支援認定者は、「現在、何らかの介護を受けている」が48%になります。

男女年齢別で見ると、年齢が上がるほど「現在、何らかの介護を受けている」が高くなり、85歳以上のその割合は、男性18%、女性26%となっています。



### (3) 介護・介助が必要になった主な原因は何ですか。

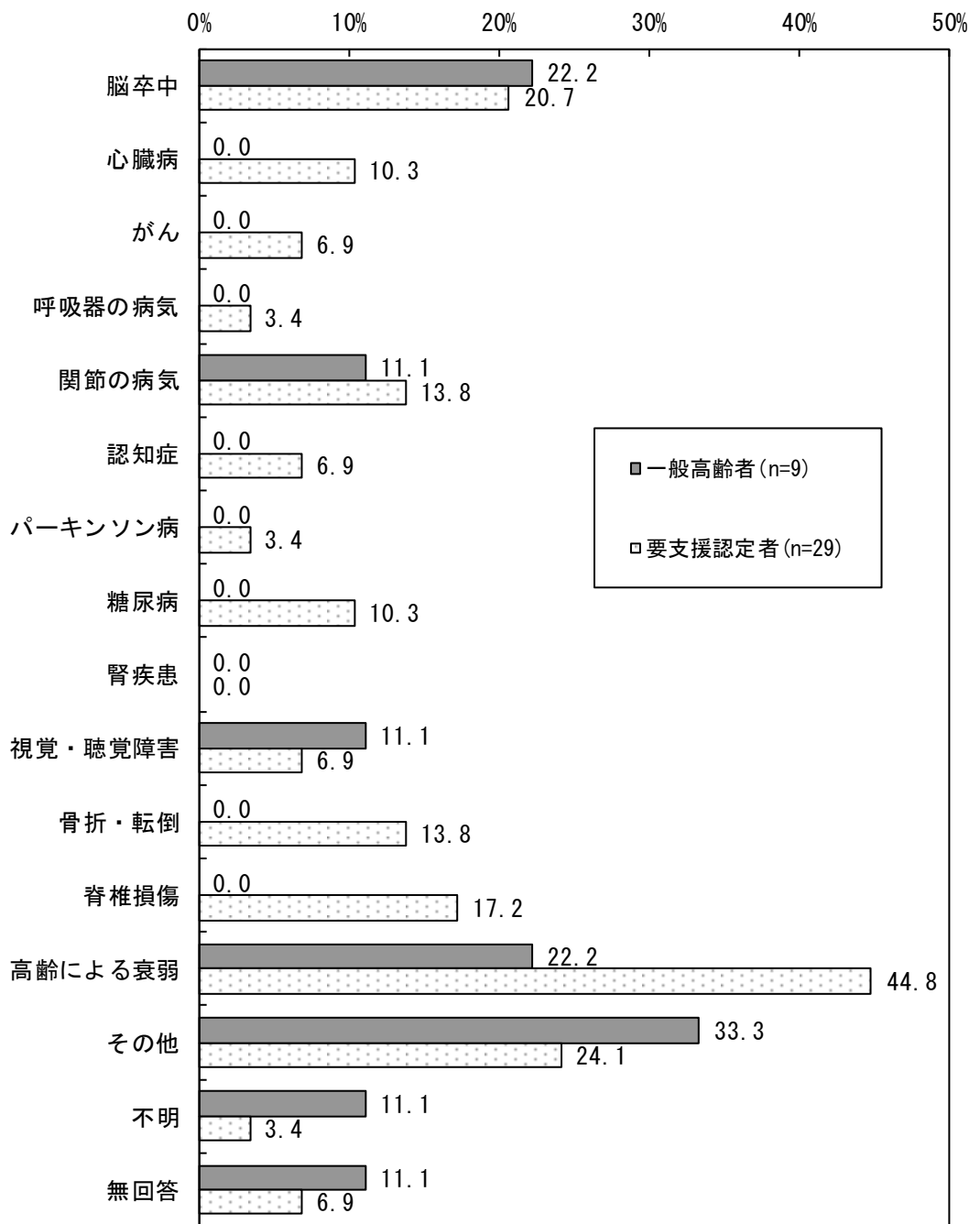
問(2)で「現在、何らかの介護を受けている」と回答した41人に聞きました。  
41人の内訳は、一般高齢者が9人、要支援認定者は29人で3人は要介護度が不明です。  
全体でみると、「高齢による衰弱」が39.0%で最も多く、第2位の脳卒中の19.5%より約20ポイント高くなっています。  
介護認定別でみると、要支援認定者の「高齢による衰弱」は44.8%です。



#### 『その他』

- うつ病
- 体調不良
- 脊柱管狭窄症、腎機能低下
- 腰の手術
- 腰痛の悪化
- 喘息
- 足

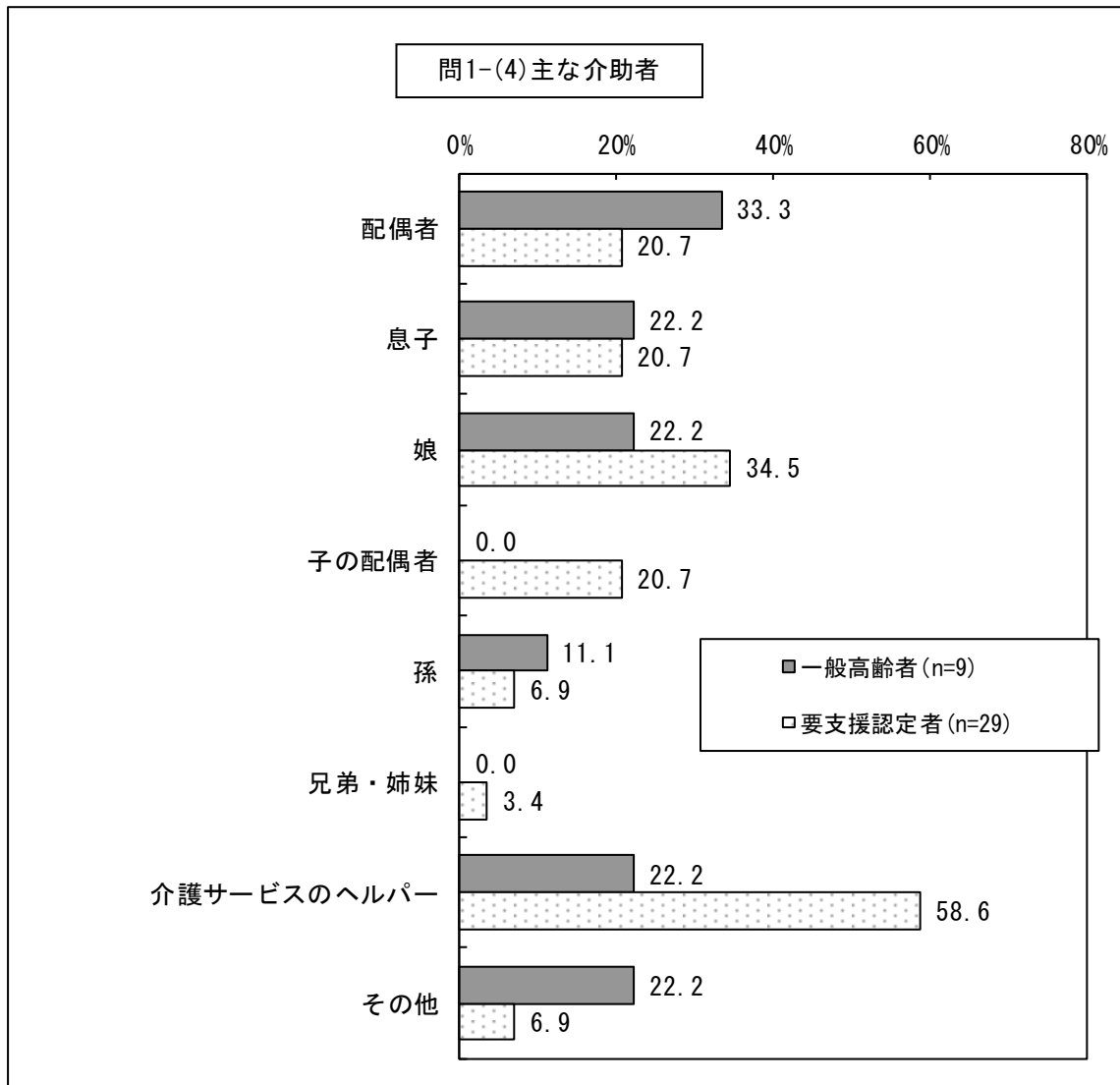
問1-(3)介護等が必要になった主な原因



(4) 主にどなたの介護、介助を受けていますか。

問(2)で「現在、何らかの介護を受けている」と回答した41人に聞きました。

一般高齢者の第1位は「配偶者」(33.3%)、要支援認定者のそれは「介護サービスのヘルパー」(58.6%)となっています。



『その他』

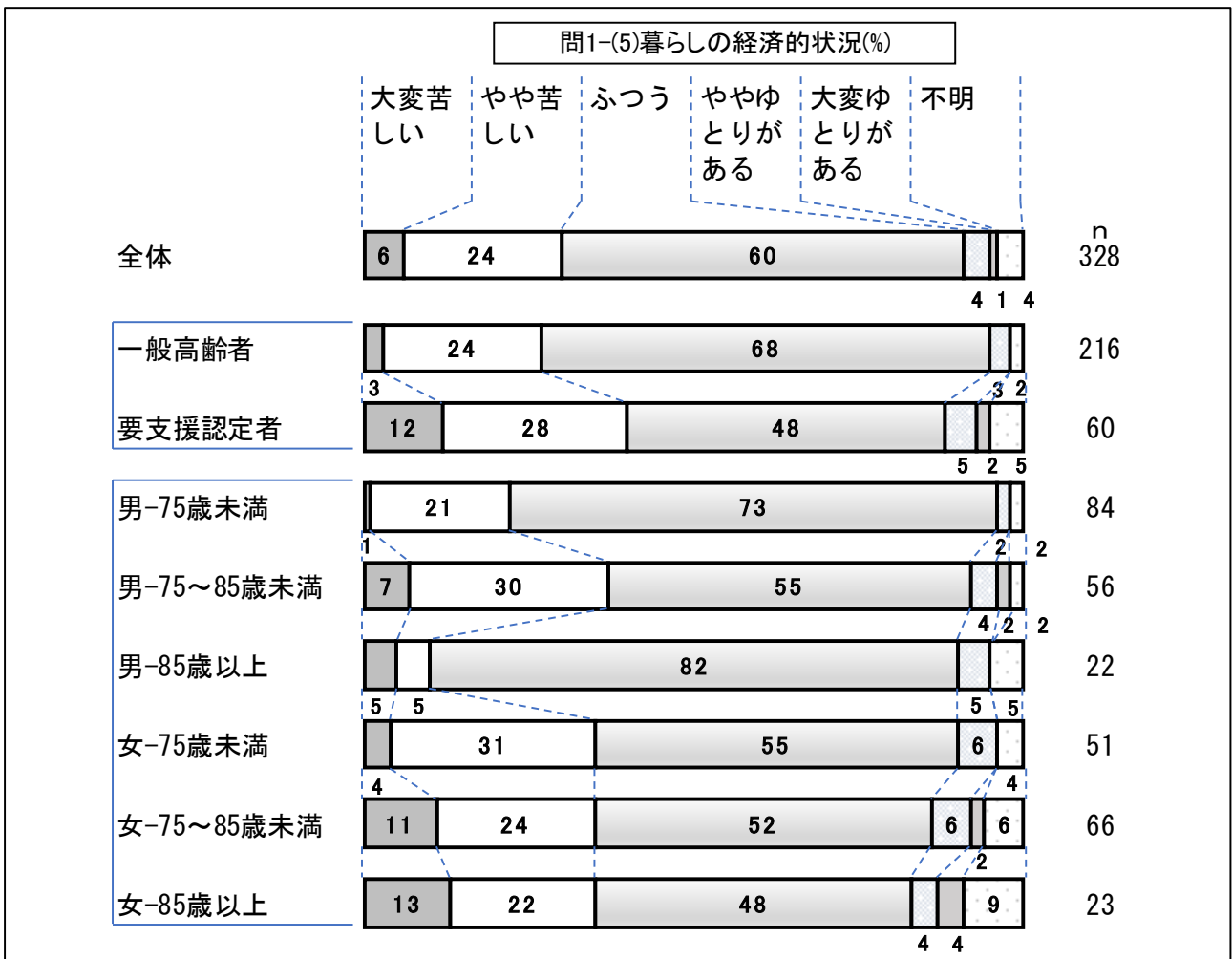
- 介護施設
- 友人
- 母が受けてる
- 本人
- デイサービス

(5) 現在の暮らしの状況を経済的にみてどう感じていますか。

全体で見ると、「ふつう」が60%を占めていますが、「大変苦しい」(6%)と「やや苦しい」(24%)の合計は30%となっています。

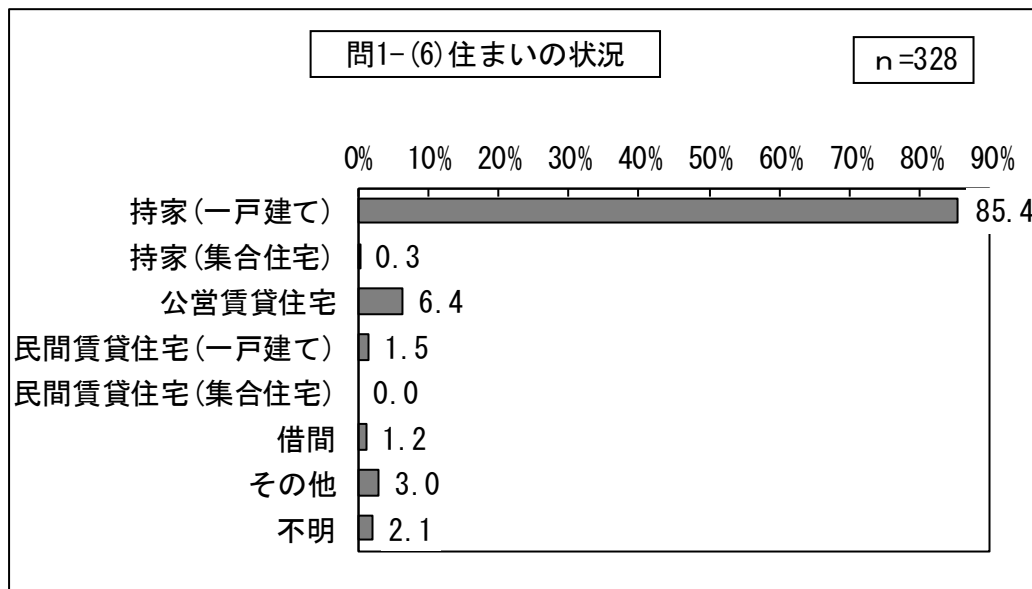
介護認定別で見ると、要支援認定者は「大変苦しい」(12%)と「やや苦しい」(28%)の合計は40%となっています。

男女年齢別で見ると、85歳以上の男性では、「大変苦しい」と「やや苦しい」の合計が低くなっています。



(6) お住まいは一戸建て、または集合住宅のどちらですか。

「持家（一戸建て）」が全体の 85.4%を占めており、次いで「公営賃貸住宅」が 6.4%が続いています。

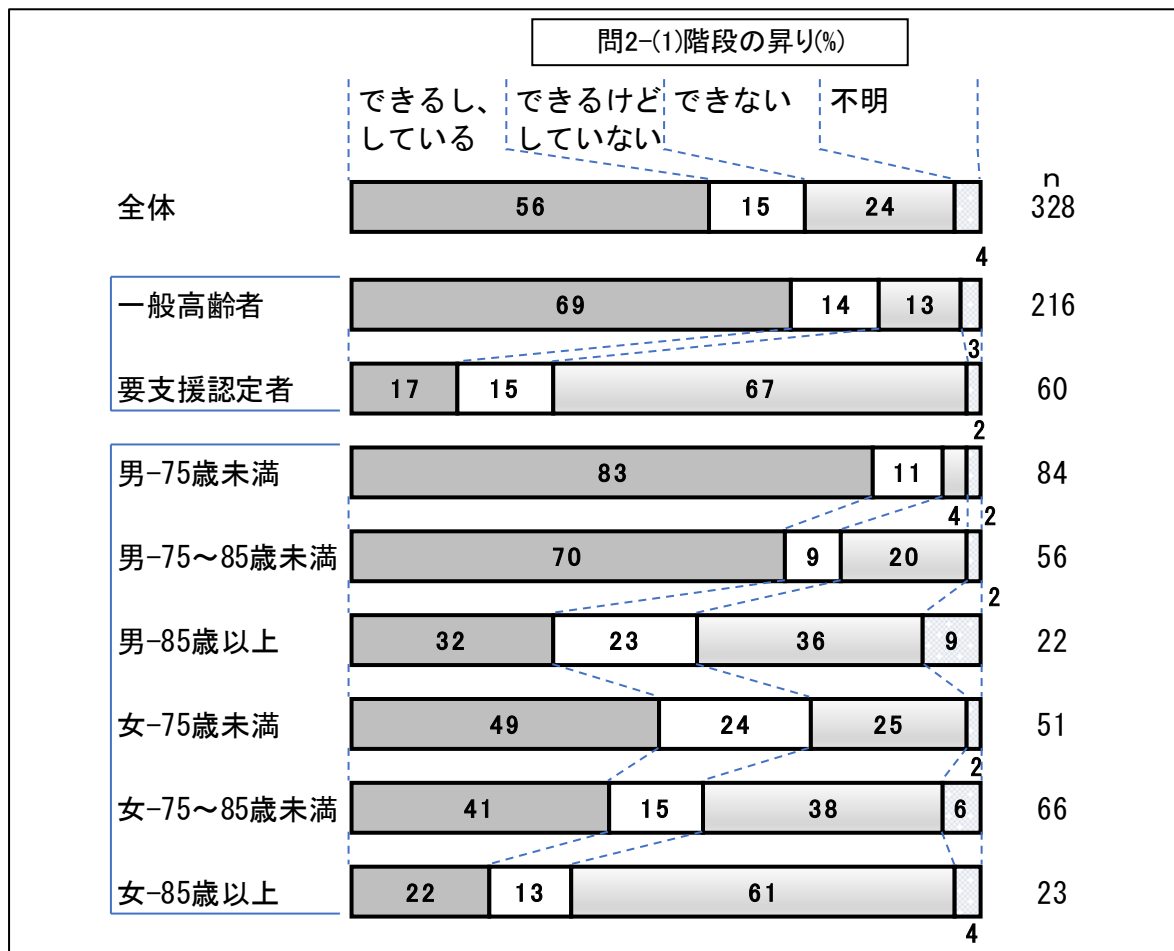


## 問2 からだを動かすことについて

(1) 階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか。

全体で見ると、「できない」は24%ですが、要支援認定者は「できない」が67%と非常に高くなっています。

男女年齢別で見ると、男女ともに、年齢が上がるほど「できるし、している」が低くなり、「できない」が高くなっています。「85歳以上」では、女性は男性より「できない」の割合が高くなり、男女の差が25ポイントです。



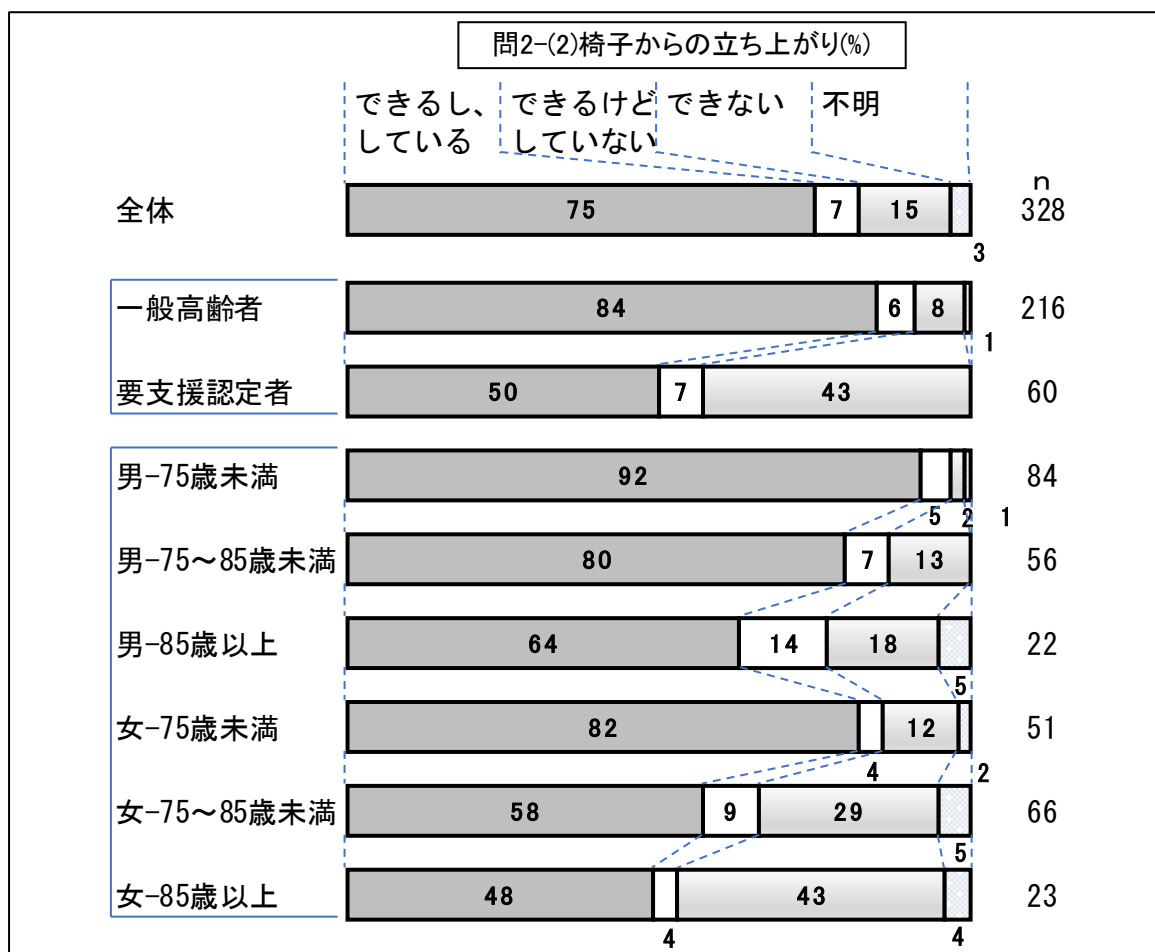


(2) 椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか。

全体でみると、「できるし、している」は75%で、「できない」は15.0%となっています。

介護認定別でみると、要支援認定者は「できない」が43%と高くなっています。

男女年齢別でみると、男女ともに、年齢が上がるほど「できるし、している」が低くなり、「できない」が高くなっていますが、女性の「できない」の割合は各年齢とも男性より高く、85歳以上の女性では43%と男性の18%より25ポイント高くなっています。

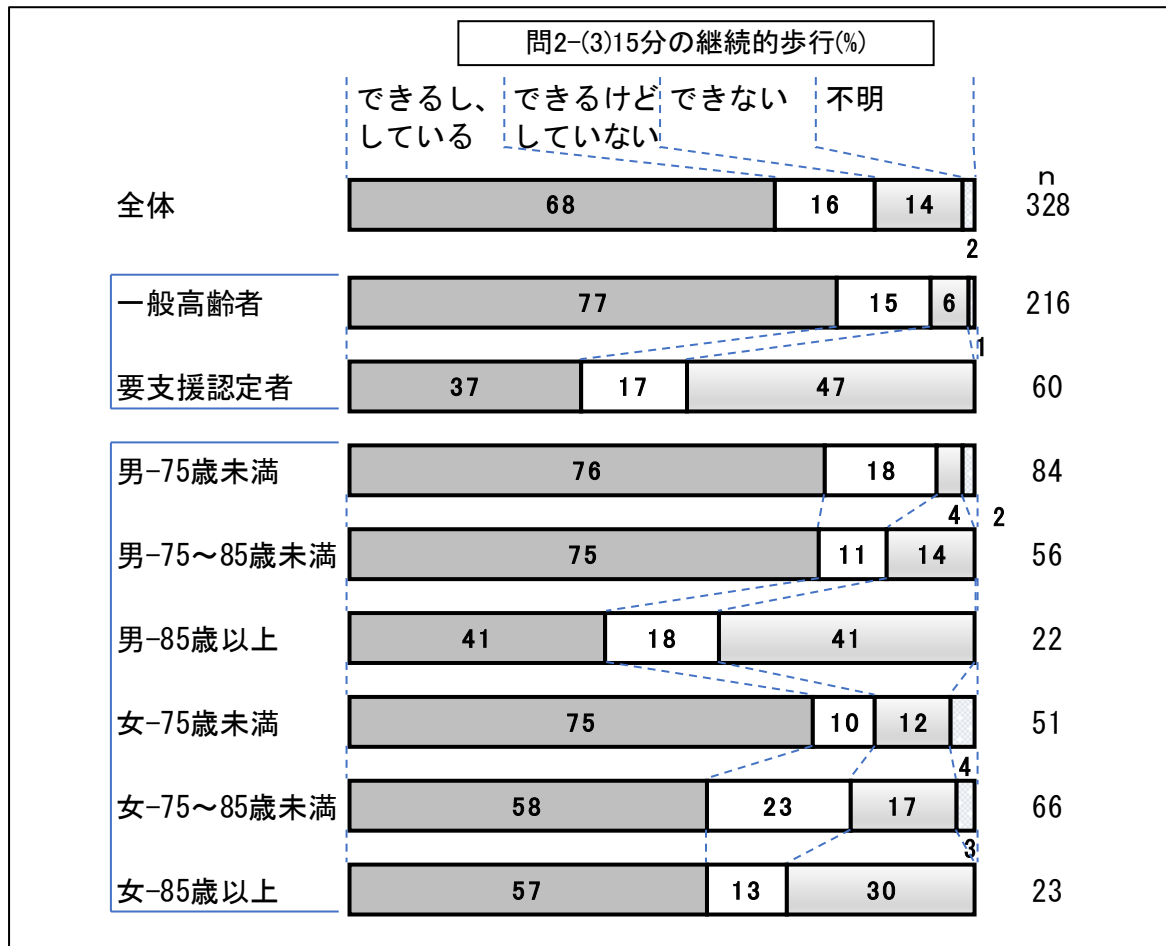


(3) 15分位続けて歩いていますか。

15分位続けて歩いている人は全体で見ると68%で、「できない」は14%となっています。

要支援認定者は、「できない」の割合が47%と半数近くになっています。

男女年齢別で見ると、男女ともに年齢が上がるほど「できない」の割合が高くなっており、85歳以上の男性のそれは41%で、女性より11ポイント高くなっています。

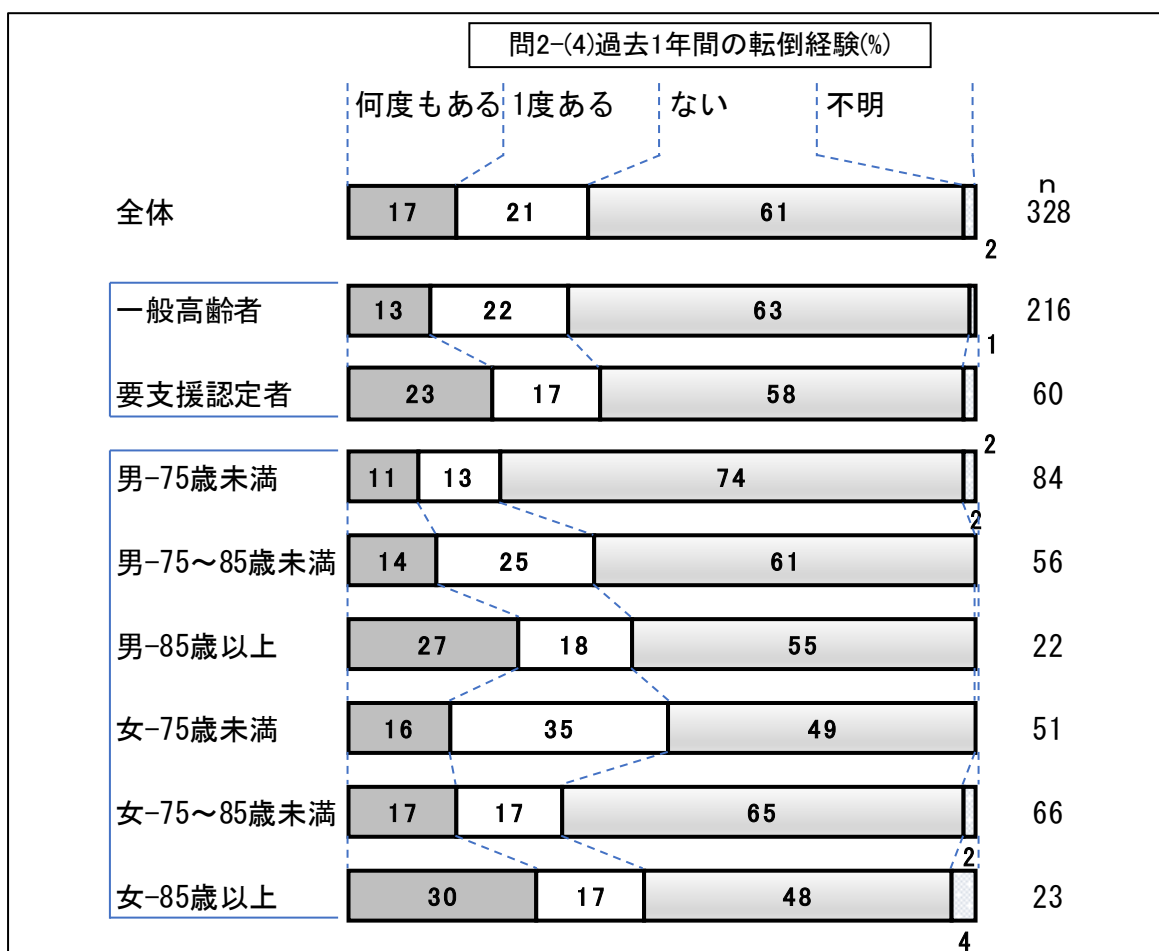


(4) 過去1年間に転んだ経験がありますか。

過去1年間に転倒した経験について、「何度もある」(15%)と「1度ある」(25%)の合計は全体では38%となっています。

要支援認定者は「何度もある」が23%となっており、一般高齢者より10ポイント高くなっています

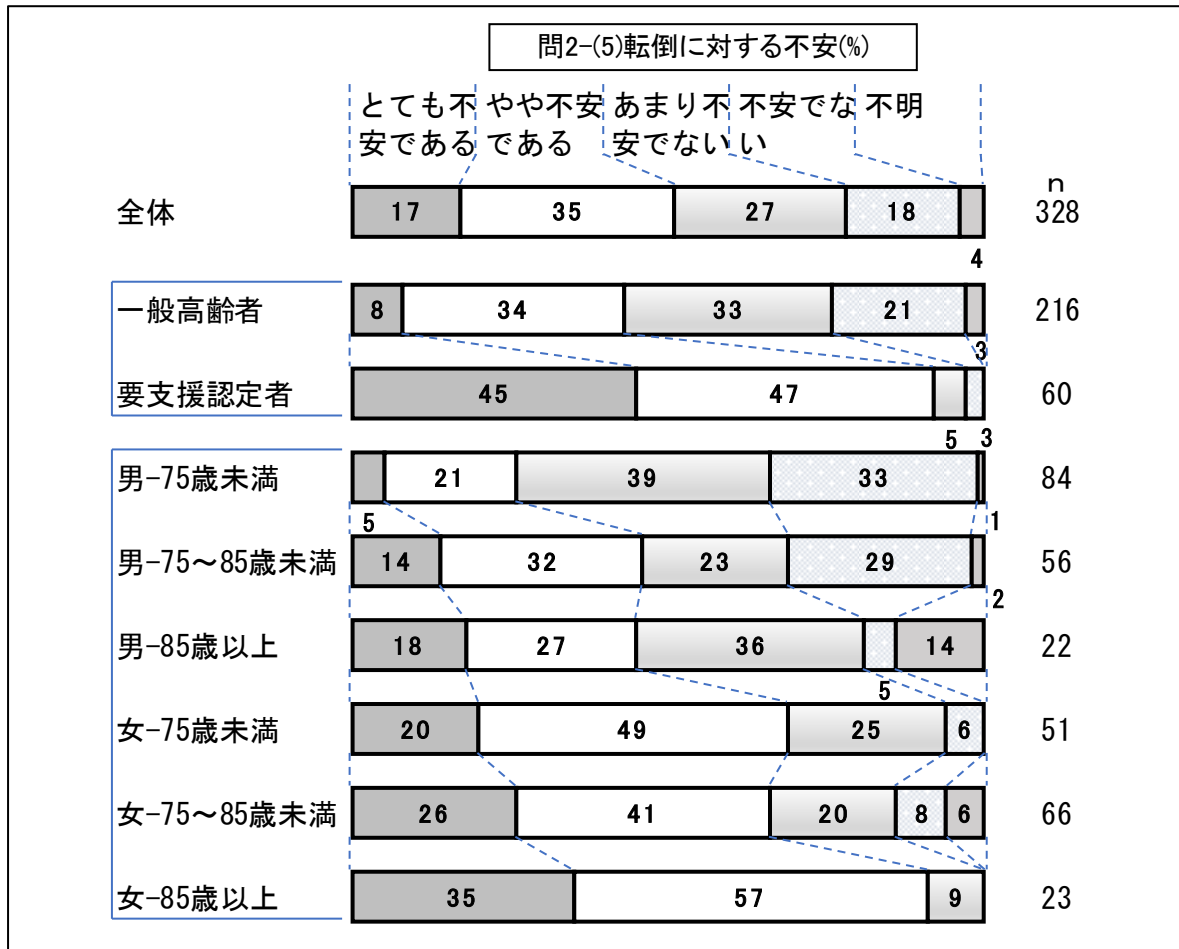
男女ともに年齢が上がるほど「何度もある」の割合が高くなっています。



(5) 転倒に対する不安は大きいですか。

転倒に対する不安について、「とても不安である」(17%)と「やや不安である」(35%)の合計は52%と半数を超えており、特に要支援認定者は「とても不安である」(45%)が非常に高くなっています。

男女年齢別で見ると、各年齢階級ともに、女性の方が「とても不安である」の割合は高くなっています。

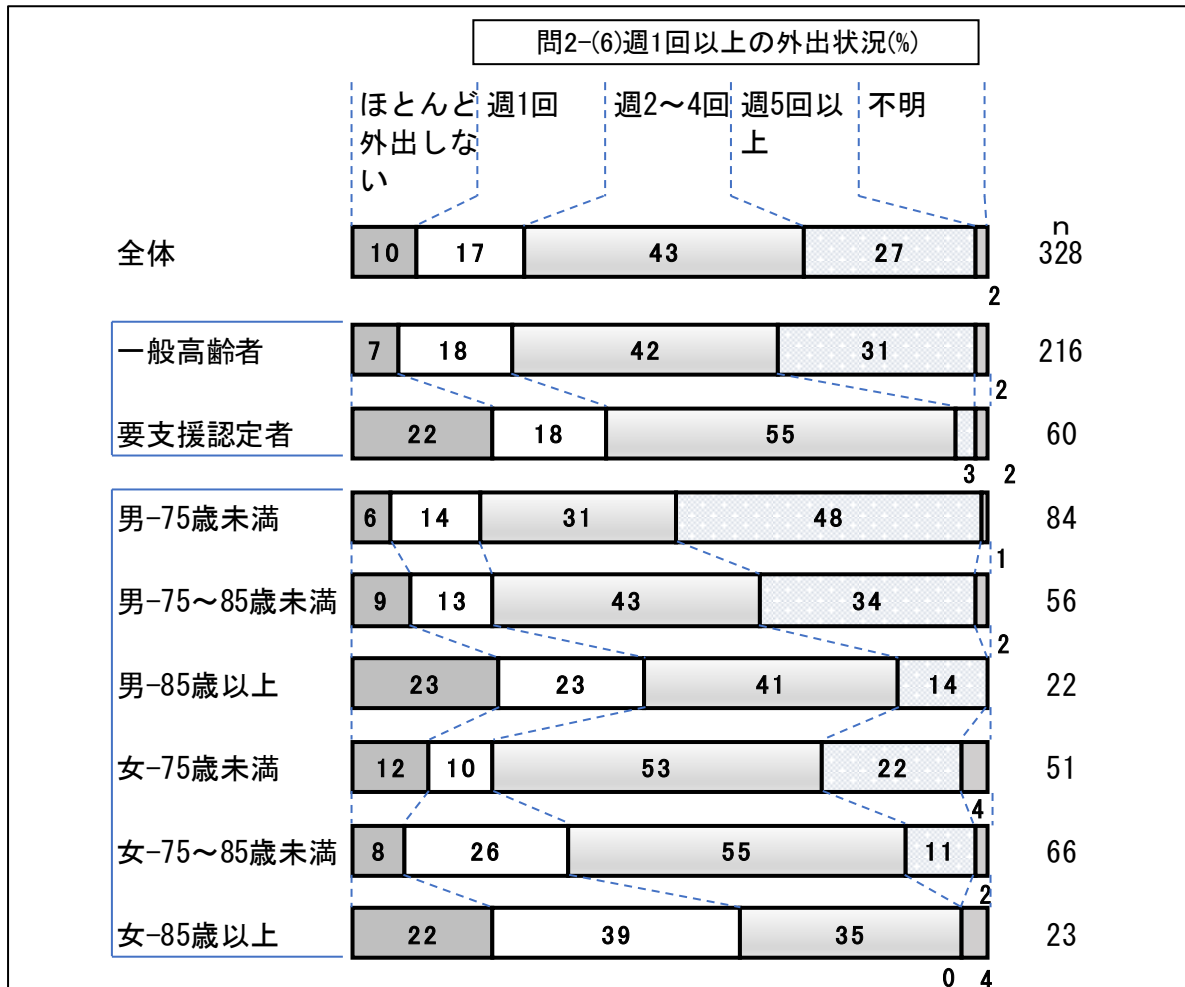


(6) 週に1回以上は外出していますか。

全体でみると、1週間の外出回数は「週2~4回」が43%で最も高く、「週5回以上」が27%で続いています。

一般高齢者と比べて、要支援認定者は外出の頻度が下がっており、「ほとんど外出しない」が22%となっています。

また、男女年齢別でみると、男女とも、年齢が上がるほど外出回数は減少しています。85歳以上の女性は「ほとんど外出しない」(22%)と「週1回」(39%)の合計が61%となっています。

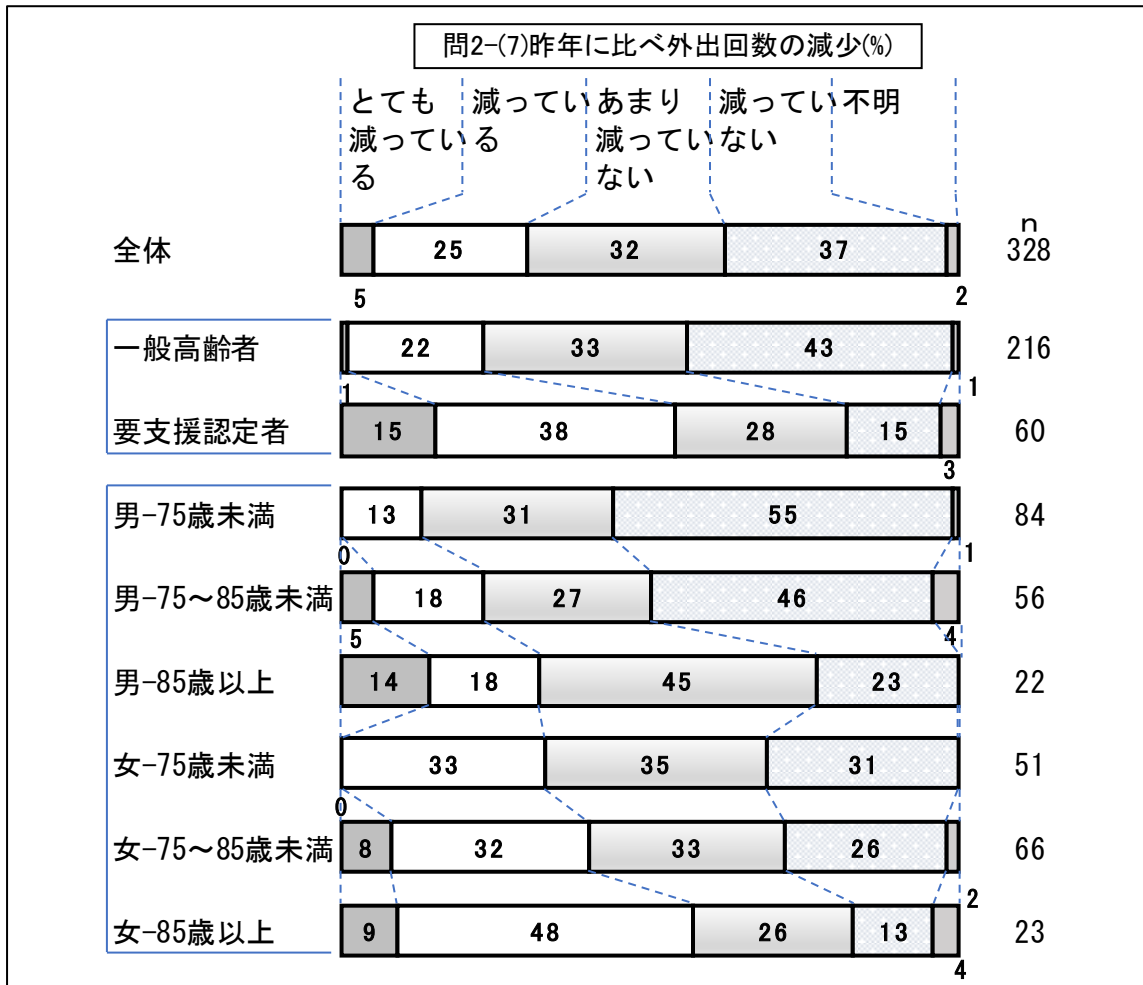


(7) 昨年と比べて外出の回数が減っていますか。

全体では、昨年と比較した外出回数は「とても減っている」(5%)と「減っている」(25%)の合計が30%です。

要支援認定者については外出回数の減少がうかがえ、「とても減っている」(15%)と「減っている」(38%)の合計は53%です。

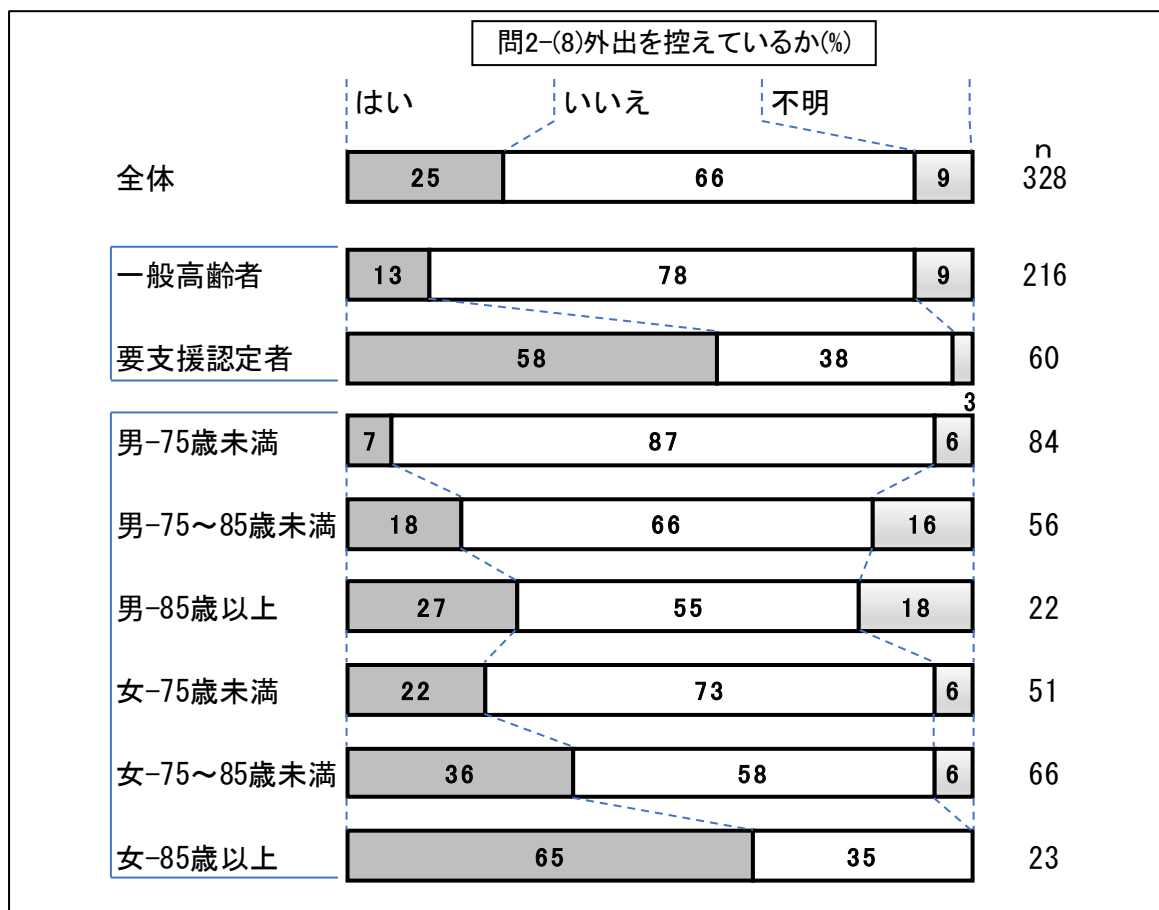
男女ともに、年齢が上がるほど外出回数が減っており、85歳以上の女性は「とても減っている」(9%)と「減っている」(48%)の合計は57%となっています。



(8) 外出を控えていますか。

外出を控えていると回答した人は、一般高齢者は13%、要支援認定者は58%と大きな差がみられます。

男女年齢別で見ると、年齢が上がるほど外出を控える人が多くなっており、その傾向は女性で顕著で、特に85歳以上の女性では65%が外出を控えていると回答しています。

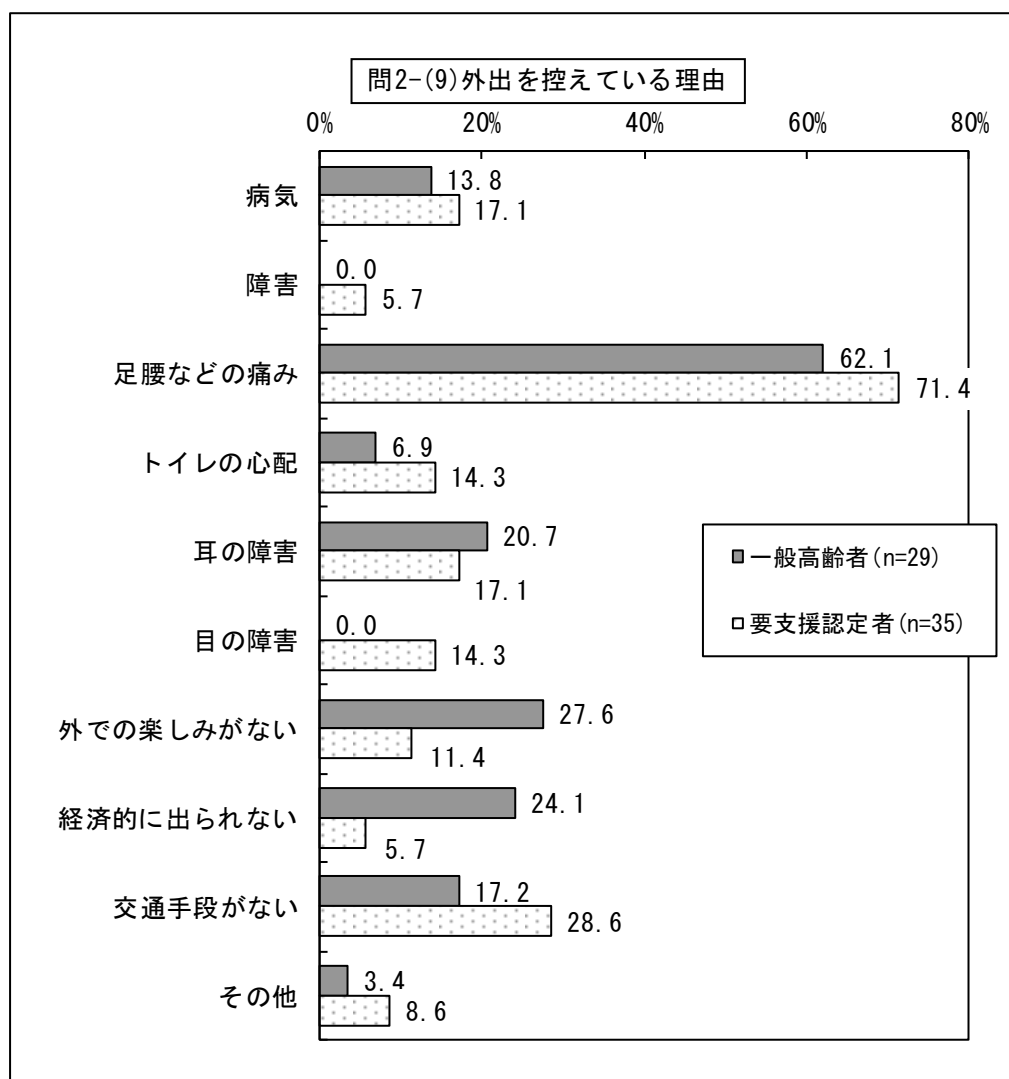


### (9) 外出を控えている理由は、次のどれですか。

前問(8)で、外出を控えていると回答した一般高齢者29人と要支援認定者35人にその理由について聞きました。

外出を控えている理由をみると、「足腰などの痛み」が最も大きな理由となっていますが、要支援認定者ではその割合が71.4%と高く、次いで「交通手段がない」(28.6%)が続いています。

一方、一般高齢者は、「足腰などの痛み」(62.1%)に次いで、「外での楽しみがない」(27.6%)、「経済的に出られない」(24.1%)が続きます。



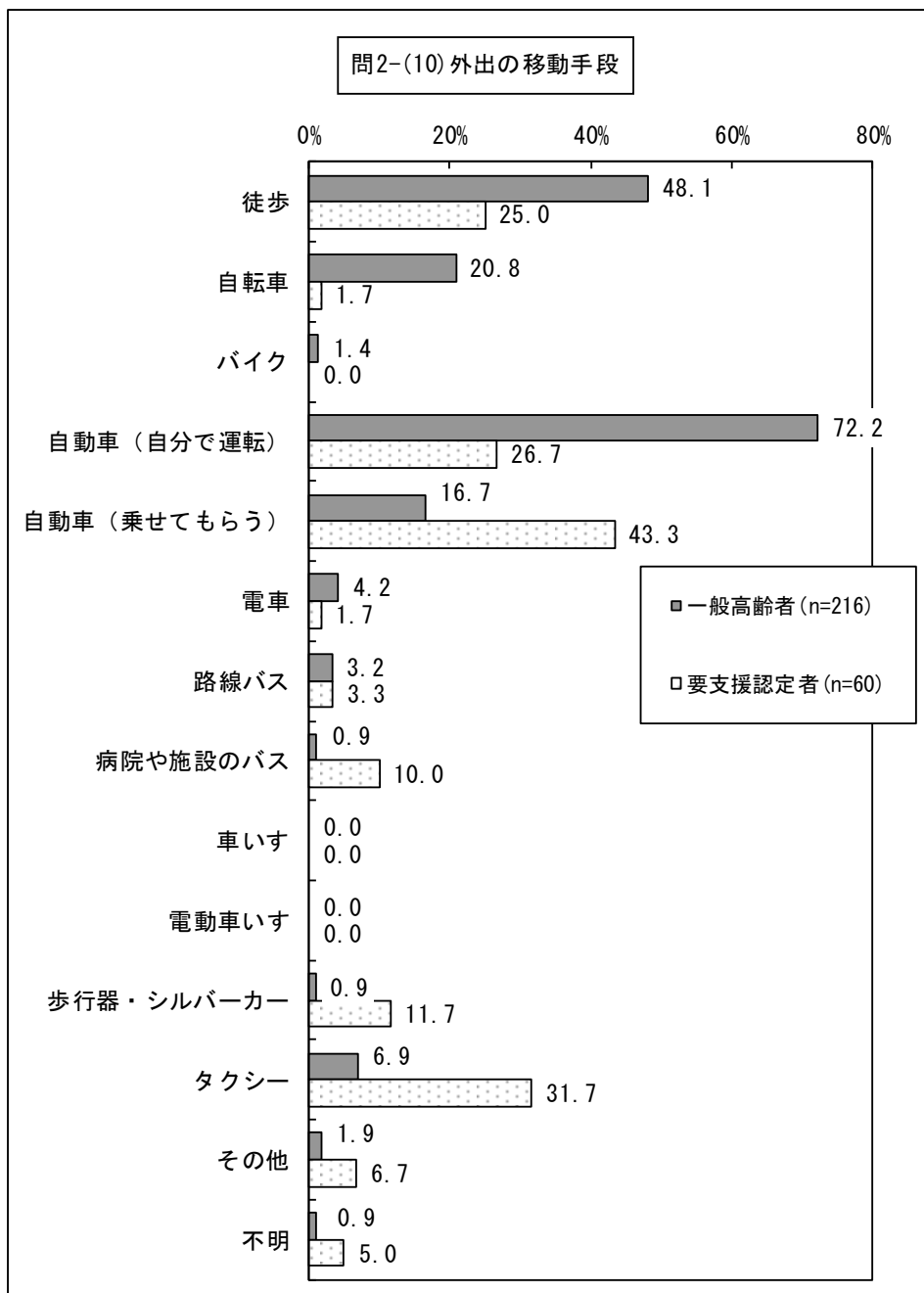
#### 『その他』

- 手、足のシビレ、ふらつき等
- 仕事以外に体力を使いたくないし、ガソリン代等経済面もあるのでなるべく用事は一回の外出で済ます様にしている
- 外出の必要性がないため



(10) 外出する際の移動手段は何ですか。

介護認定別で見ると、両者には大きな違いがみられ、一般高齢者は「自動車（自分で運転）」が72.2%を占めます。一方、要支援認定者は「自動車（人に乗せてもらう）」（43.3%）が第1位で、次いでタクシー（31.7%）が続いています。



『その他』

- 知人・友人の車（2）
- 家の人（息子）につれて行ってもらう（2）
- 福祉タクシー（2）
- 家の近くまで来たらバスに乗るが遠くまで歩くのは無理
- 杖
- 鉄道路線

### 問3 食べることについて

#### (1) 身長・体重

身長と体重から、肥満度の指標の1つであるBMIを算出しました。BMIとは、体重(kg)を身長(m)の2乗で割った値で、18.5未満が「低体重」、25.0以上が「肥満」とされます。

「低体重」に該当する人をみると、全体では5%ですが、要支援認定者は12%となっています。

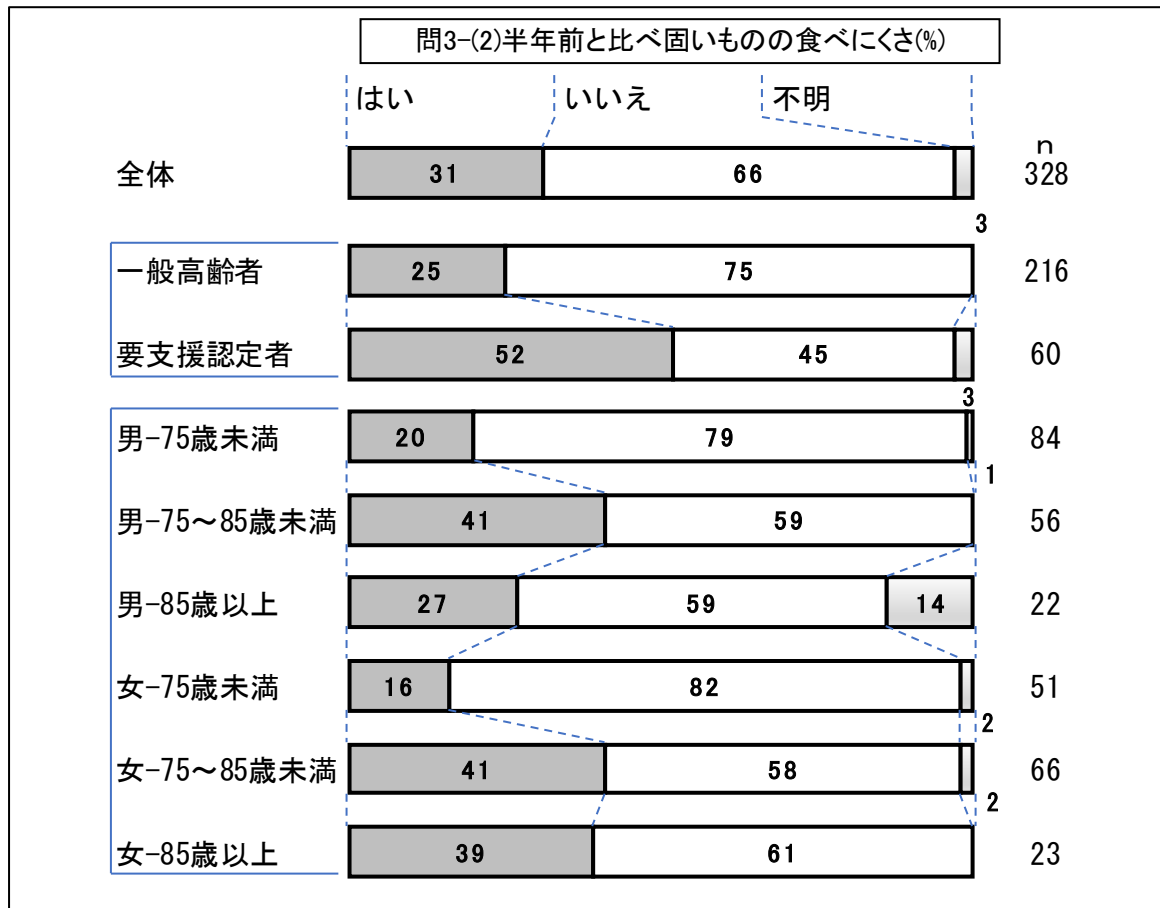
「肥満」に該当する人をみると、全体では33%ですが、75歳未満の男性はその割合が43%で、他の男女別年齢階級より高くなっています。

	BMI (%)				n
	低体重	標準	肥満	不明	
全体	5	54	33	8	328
一般高齢者	3	55	36	6	216
要支援認定者	12	50	32	7	60
男-75歳未満	4	52	43	1	84
男-75~85歳未満	7	57	34	2	56
男-85歳以上	5	77	9	9	22
女-75歳未満	2	53	31	14	51
女-75~85歳未満	9	42	38	11	66
女-85歳以上	9	61	17	13	23

(2) 半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか。

全体で見ると、半年前に比べて固いものが食べにくくなったと答えた人は31%ですが、要支援認定者ではその割合が52%と高くなっています。

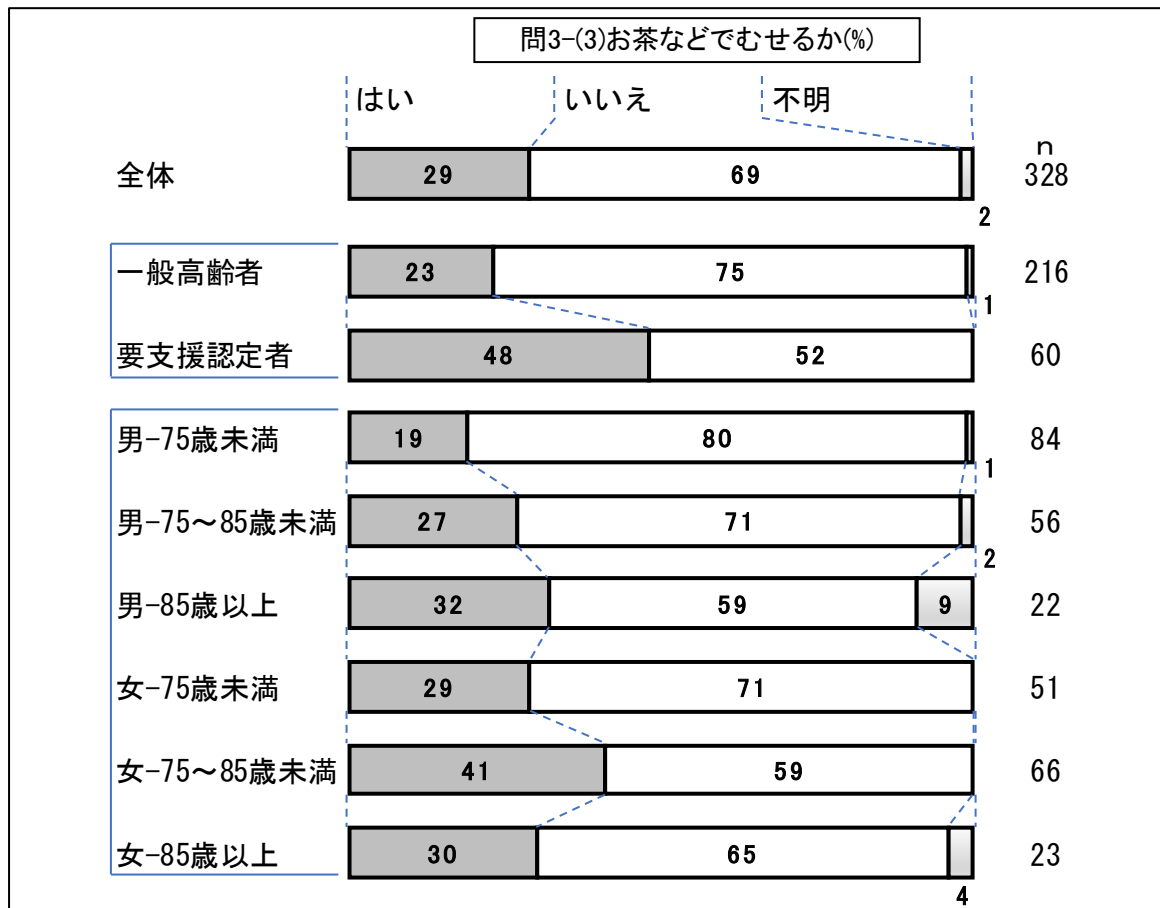
男女年齢別で見ると、75歳を境に「固いものが食べにくくなった」割合が高くなります。



(3) お茶や汁物等でむせることがありますか。

全体で見ると、お茶や汁物等でむせる人は29%ですが、要支援認定者はその割合が48%となっています。

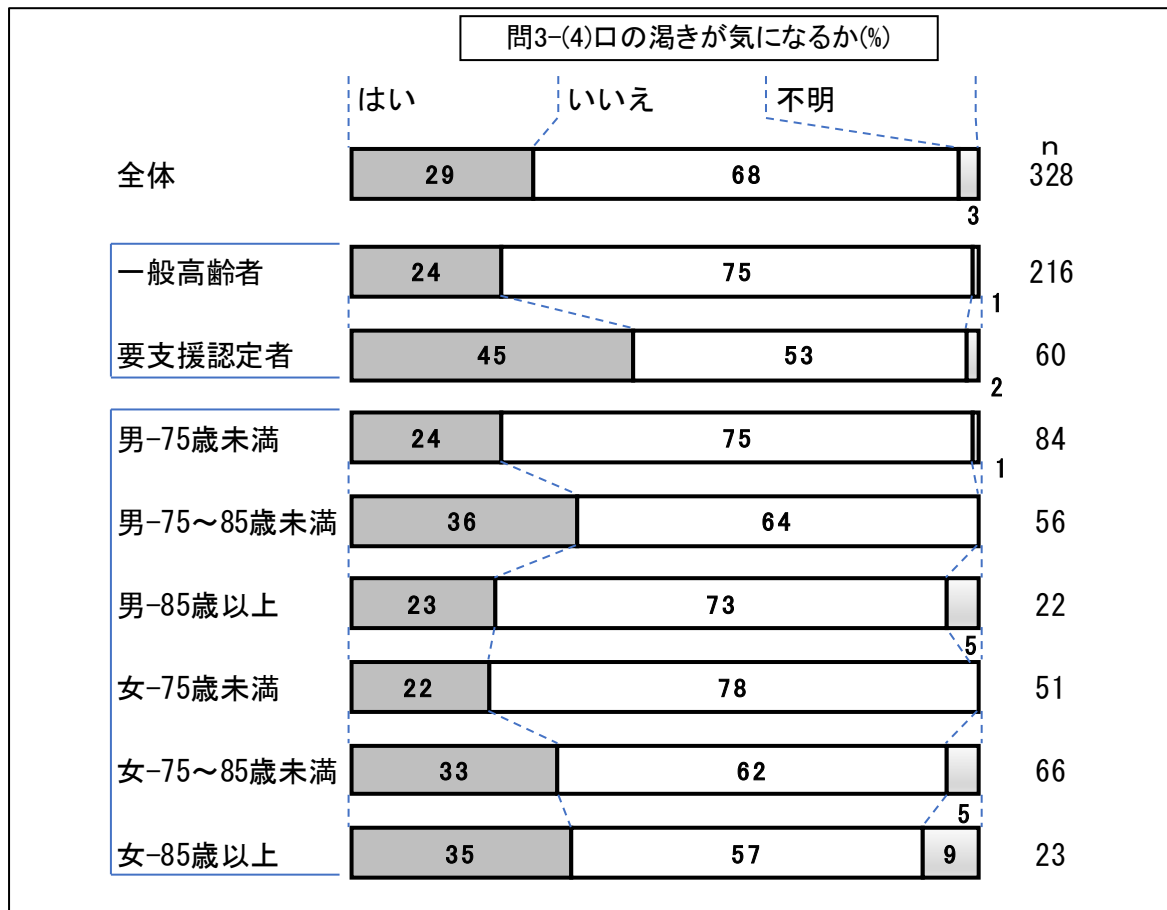
男女年齢別で見ると、女性の方が各年齢階層でお茶や汁物等でむせる人の割合が高くなっています。



(4) 口の渇きが気になりますか。

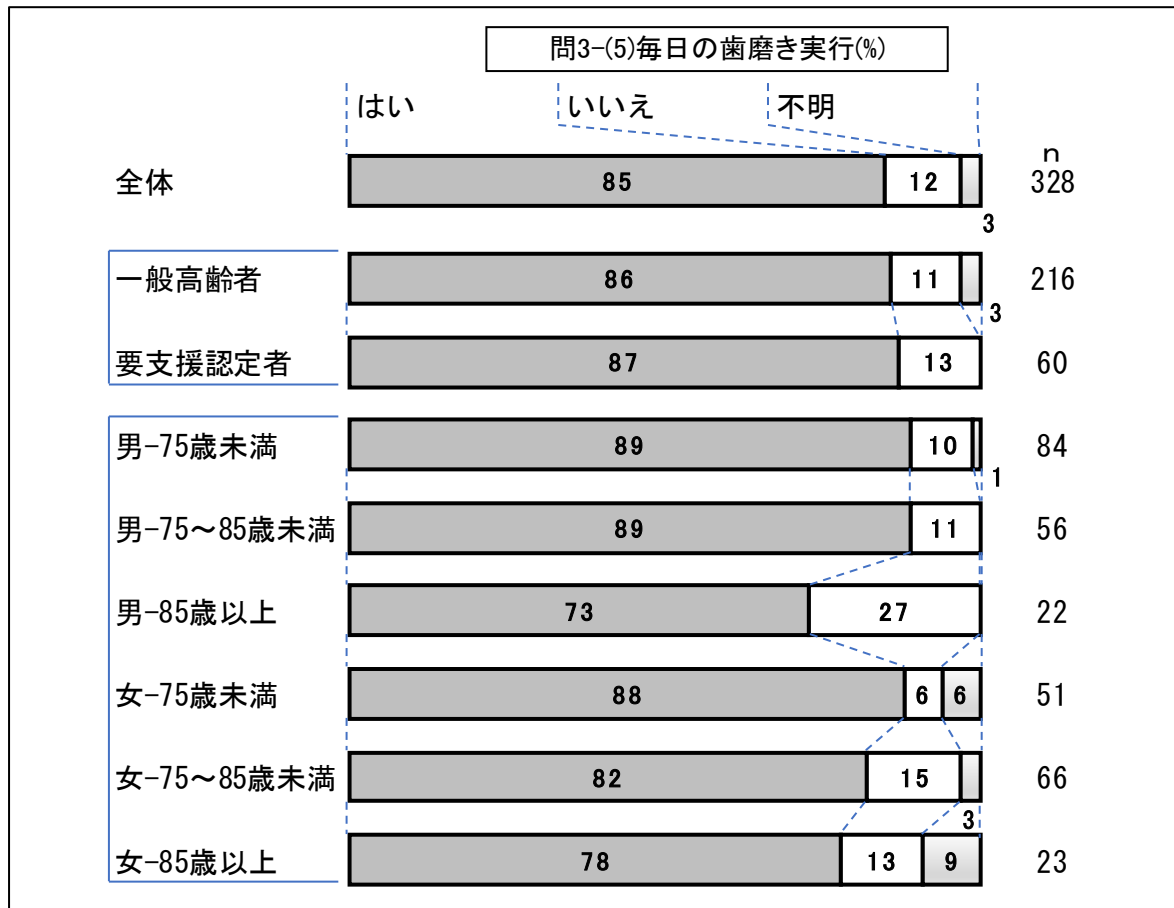
全体で見ると、口の渇きが気になる人は29%ですが、要支援認定者はその割合が45%となっています。

男女年齢階級別で見ると、女性では、口の渇きが気になる人の割合は年齢とともに高くなっています。



(5) 歯みがき（人にやってもらう場合も含む）を毎日していますか。

全体で見ると、歯磨きを毎日している人は85%を占めており、その割合は認定を受けてるか否か、男女別の違いはほとんど見られません。しかし、85歳以上では、男女とも歯磨きをしている人の割合が低くなっています。



(6) 歯の数と入れ歯の利用状況をお教えてください。

歯の数と入れ歯の利用状況を全体で見ると、「自分の歯は19本以下、かつ入れ歯を利用」が37%と最も高く、次いで「自分の歯は20本以上、入れ歯の利用なし」が18%となっています。入れ歯利用に関係なく自分の歯が20本以上ある人は24%にすぎません。

要支援認定者は「自分の歯は20本以上」の割合は低く11%です

男女年齢別で見ると、年齢があがるほど「自分の歯は20本以上」の割合が低くなっています。

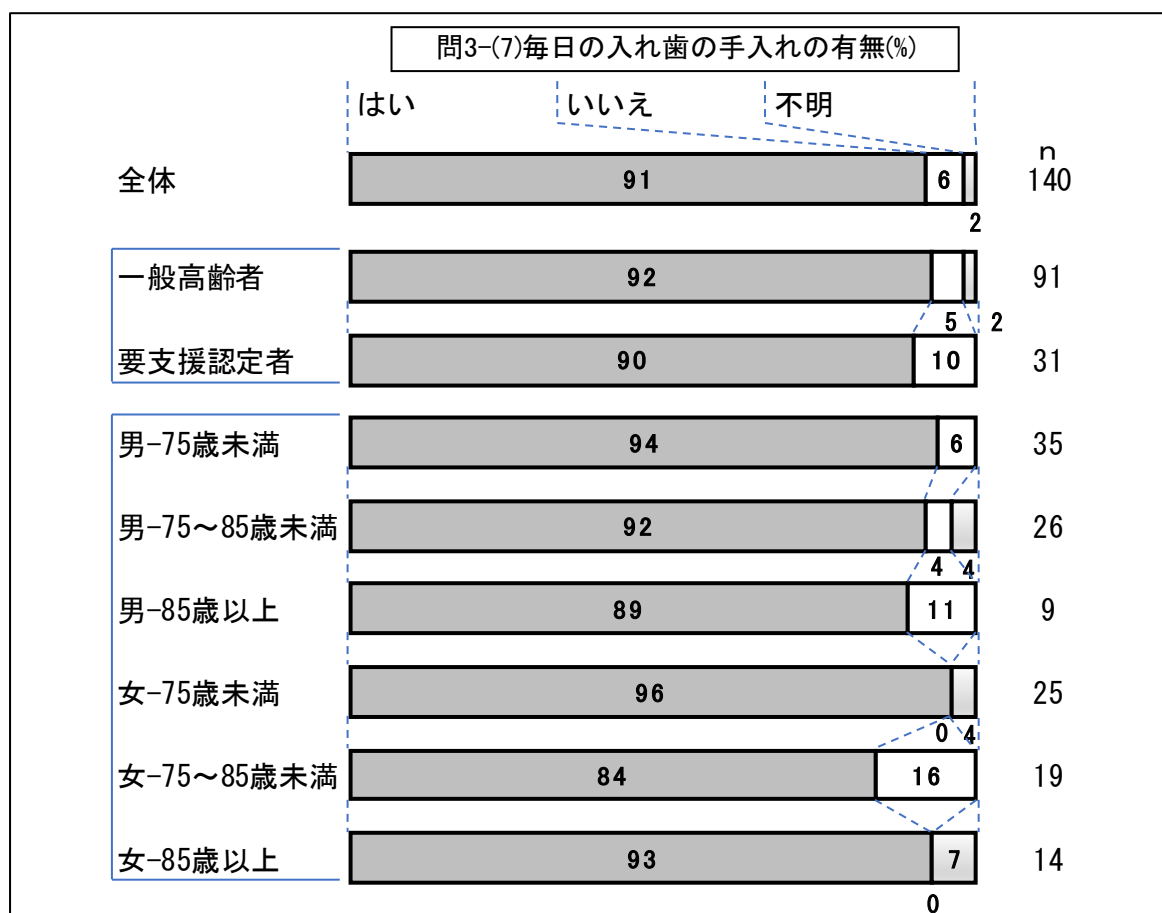
		問3-(6)歯の数と入れ歯の状況(%)					
		自分の歯 20本以上 かつ入れ 歯利用	自分の歯 20本以上 かつ入れ 歯利用な し	自分の歯 19本以下 かつ入れ 歯利用	自分の歯 19本以下 かつ入れ 歯利用な し	不明	
全体		6	18	37	9	30	n 328
一般高齢者		8	22	34	10	25	216
要支援認定者		8	48	8	32		60
男-75歳未満	3	7	29	35	12	18	84
男-75~85歳未満		9	20	38		29	56
男-85歳以上	5	9	14	32	9	36	22
女-75歳未満		6	18	43	12	22	51
女-75~85歳未満		17	29	11		44	66
女-85歳以上	0	9	52			39	23
		0			0		

(7) 毎日入れ歯の手入れをしていますか。

入れ歯を利用していると回答した 140 人に聞きました。

全体でみると、毎日入れ歯を手入れしている人は 91%を占めています。

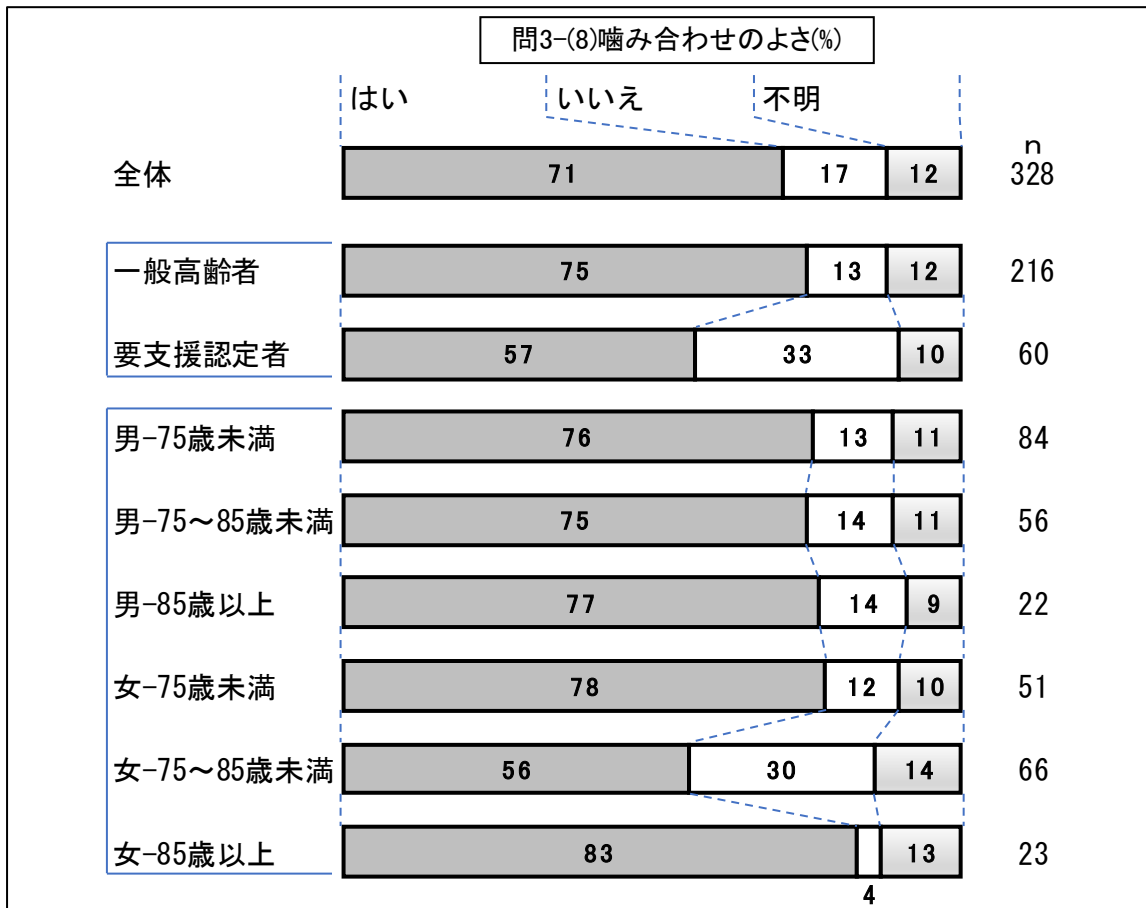
男女年齢別でみると、75～85 歳未満の女性は毎日入れ歯を手入れしている人の割合が低くなっています。





(8) 噛み合わせはよいですか。

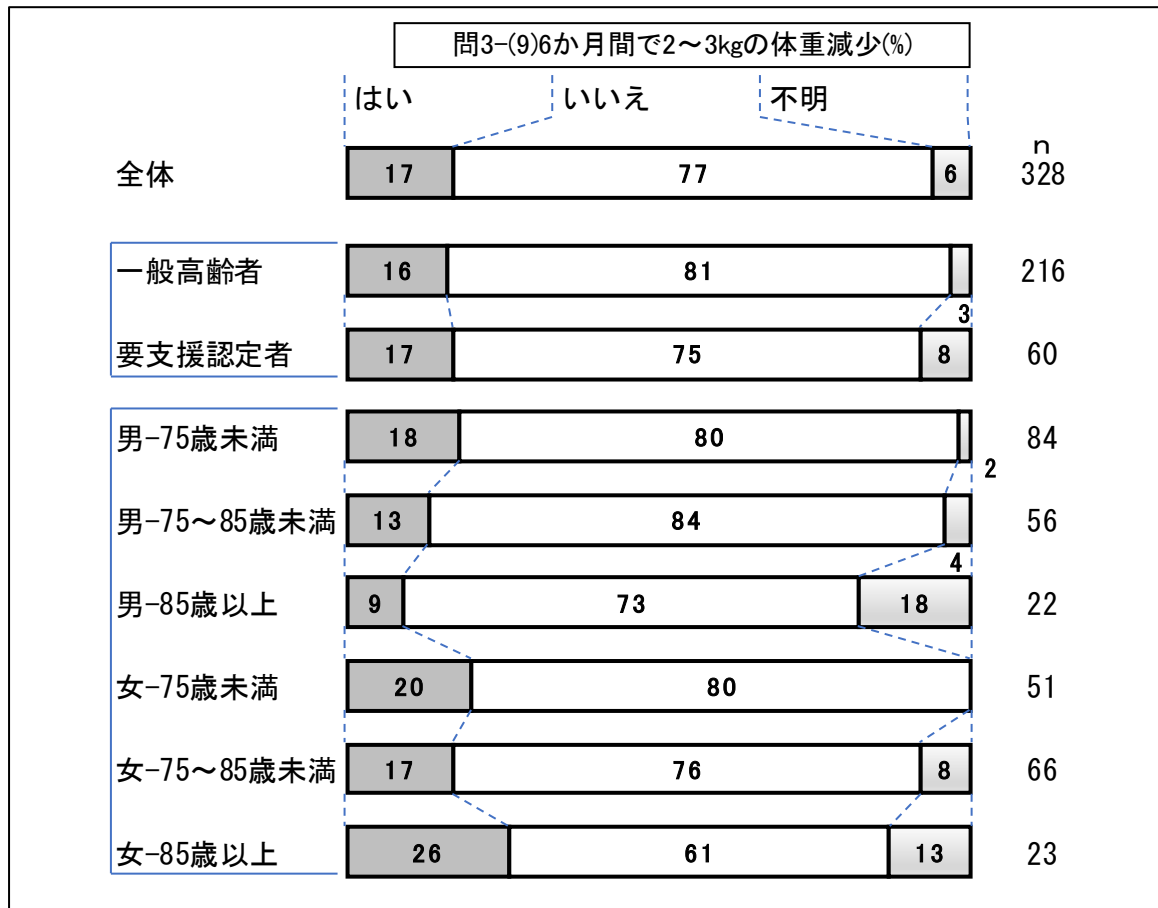
全体で見ると、「歯の噛み合わせがよい人」は71%を占めています。  
 要支援認定者は「歯の噛み合わせがよい人」の割合は低く57%です  
 男女年齢別で見ると、問(7)で75～85歳未満の女性は毎日入れ歯を手入れしている人の割合が低くなっていましたが、噛み合わせがよい人の割合も低く、56%です。



(9) 6か月間で2～3kg以上の体重減少がありましたか。

全体で見ると、6か月間で2～3kg以上体重減少した人は17%ですが、要支援認定者との違いはありません。

男女年齢別で見ると、85歳以上の女性は6か月間で2～3kg以上体重減少した人が26%と多くなっています。



(10) どなたかと食事をとにもする機会がありますか。

全体でみると、誰かと食事をとにもする機会が「毎日ある」は38%ですが、「年に何度かある」(16%)、「ほとんどない」(8%)は合計で24%となっています。

介護認定別でみると、違いはほとんどありません。

男女年齢別でみると、75～85歳未満の女性は「毎日ある」が26%と他の年齢階級より低くなっています。

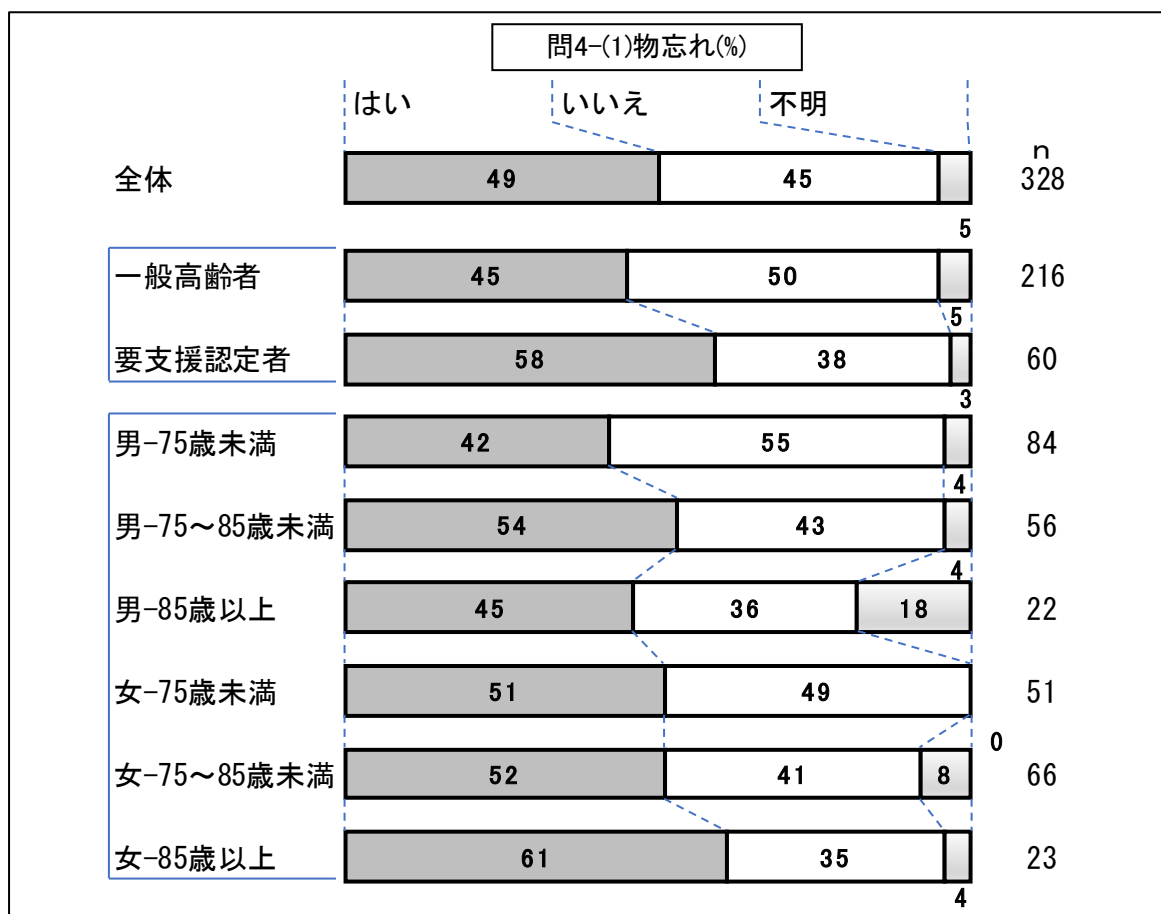
		問3-(10)ともに食事する機会の有無(%)						
		毎日ある	週に何度かある	月に何度かある	年に何度かある	ほとんどない	不明	
全体		38	11	21	16	8	5	n 328
一般高齢者		39	11	23	16	7	4	216
要支援認定者		38	17	20	13	7	5	60
男-75歳未満		51		12	19	11		84
男-75～85歳未満		32	13	13	25	11	7	56
男-85歳以上		41	9	9	18	18		22
女-75歳未満		43	12	24	16	6		51
女-75～85歳未満		26	12	38	18			66
女-85歳以上		30	17	17	17	9	9	23

## 問4 毎日の生活について

(1) 物忘れが多いと感じますか。

全体で見ると、物忘れが多いと感じている人は49%ですが、要支援認定者はその割合が58%と高くなっています。

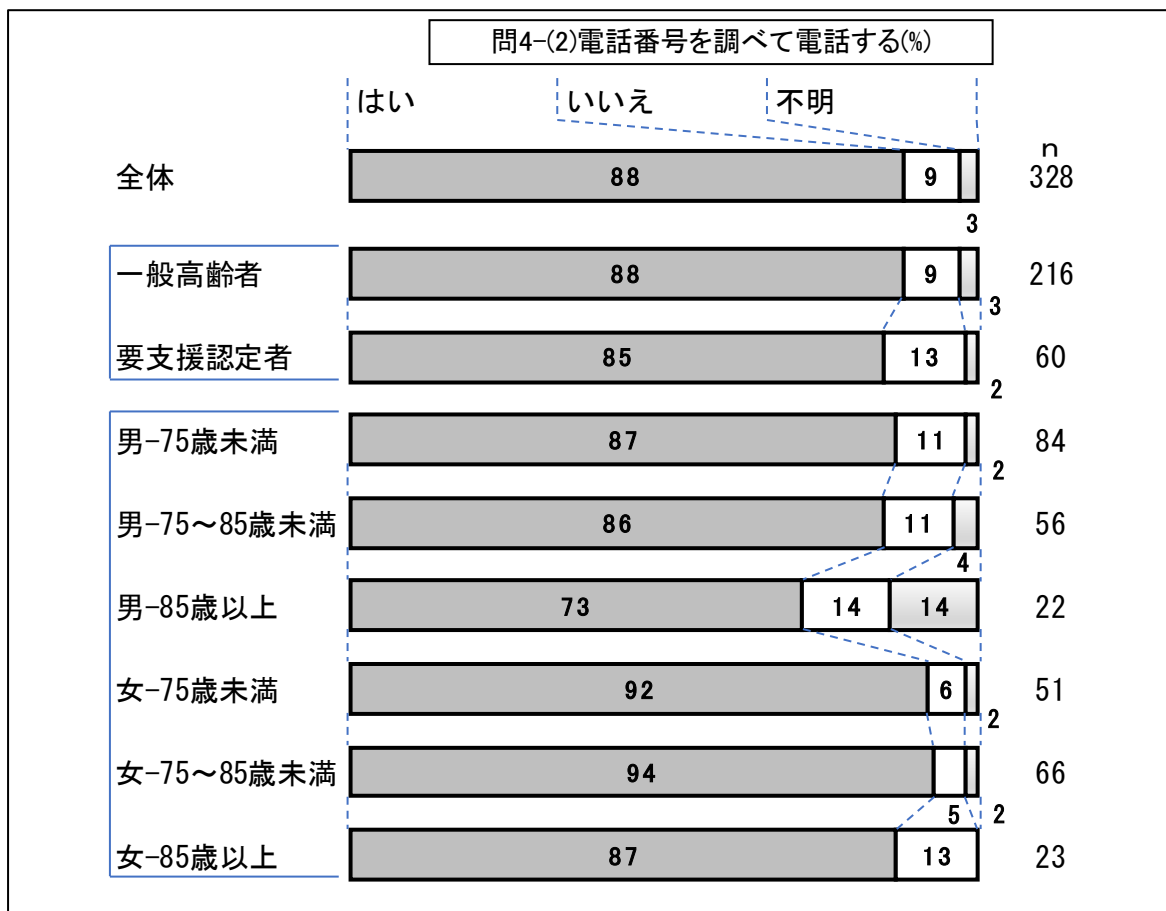
男女年齢別で見ると、物忘れが多いと感じている人の割合は、85歳以上の女性で61%と高くなっています。



(2) 自分で電話番号を調べて、電話をかけることをしていますか。

全体で見ると、自分で電話番号を調べて電話をかけている人は88%となっており、要支援認定者のその割合は85%で大きな違いはありません。

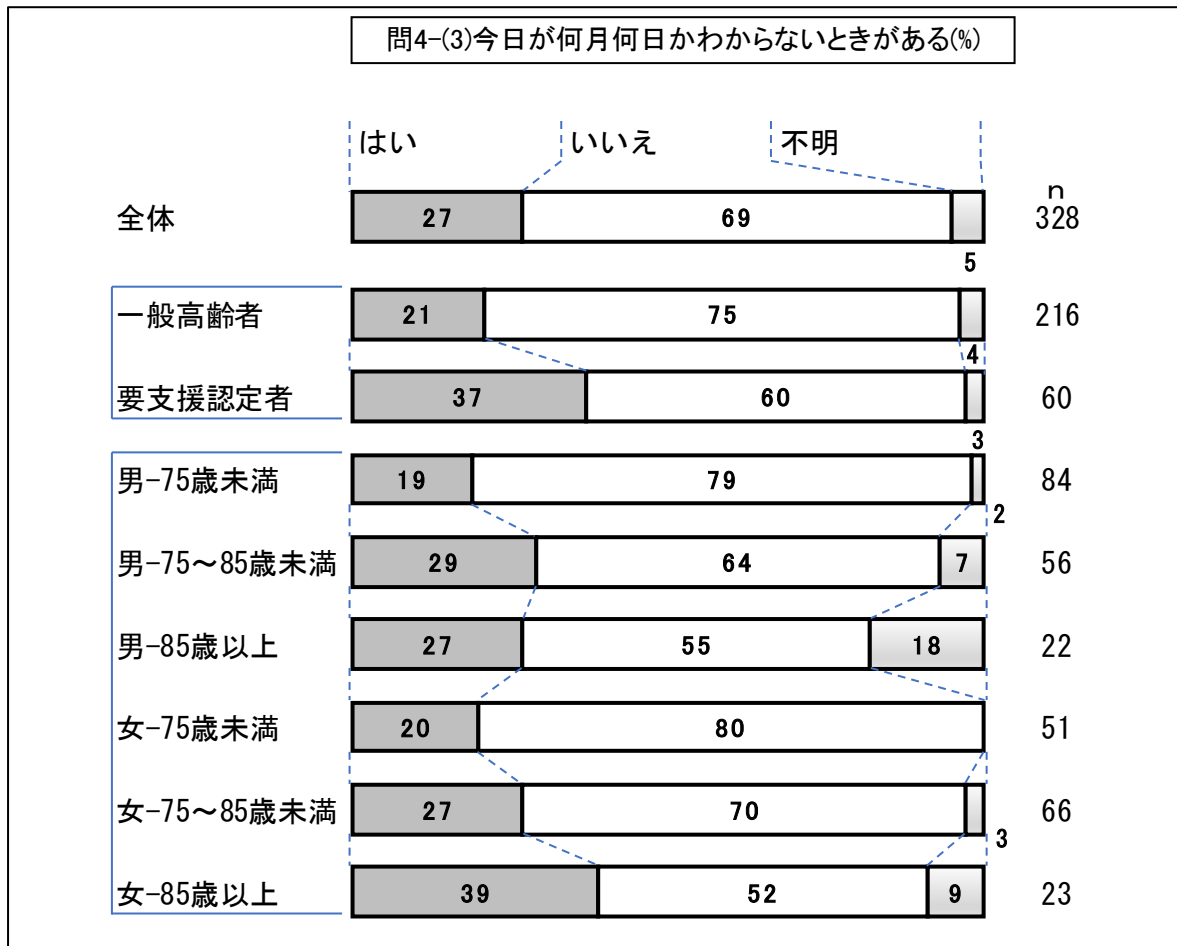
男女年齢別で見ると、85歳以上の男性で、自分で電話番号を調べて電話をかけている人の割合が低くなっています。



(3) 今日が何月何日かわからないときがありますか。

全体で見ると、今日が何月何日かわからないときがある人は27%ですが、要支援認定者はその割合が37%と高くなっています。

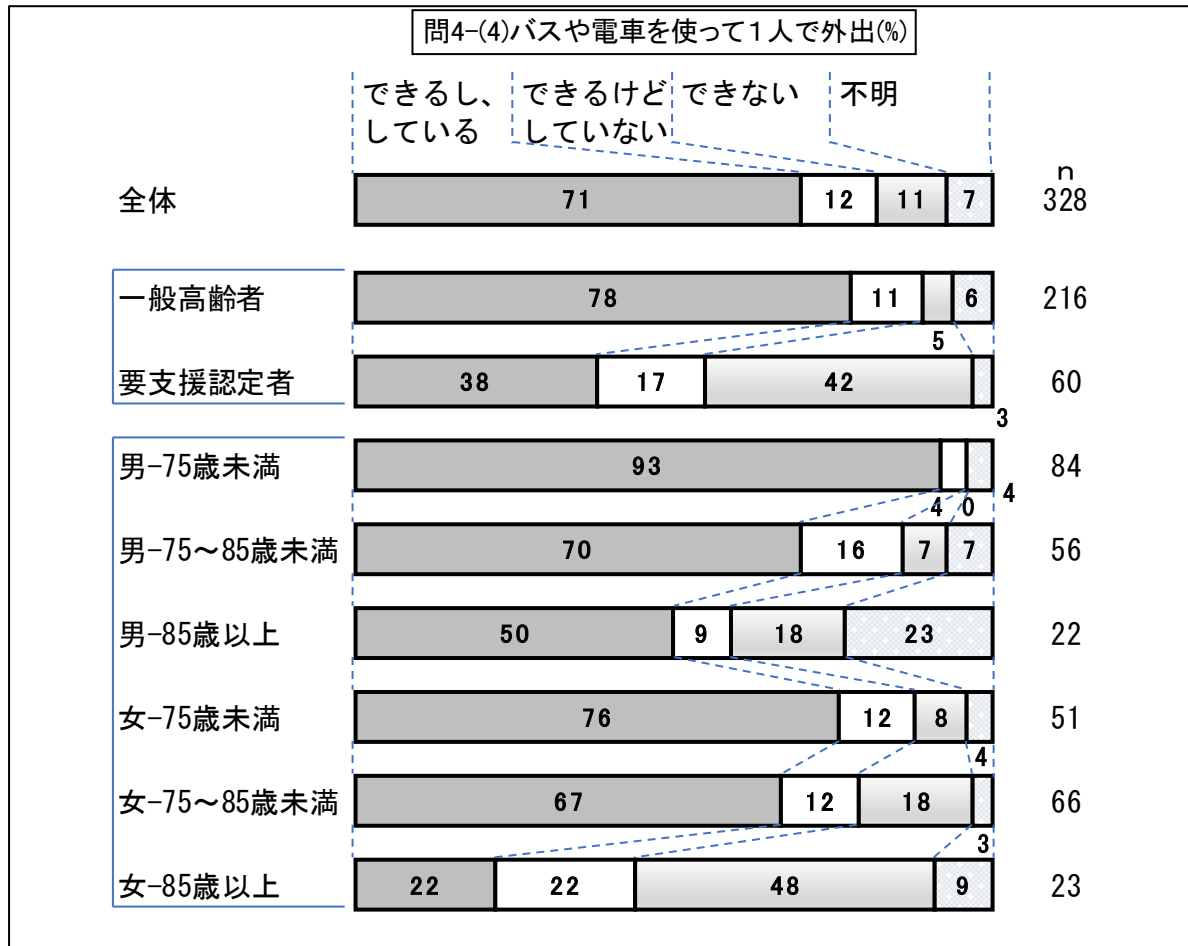
男女年齢別で見ると、85歳以上の女性で、今日が何月何日かわからないときがある人の割合が高くなっています。



(4) バスや電車を使って1人で外出していますか（自家用車でも可）。

全体でみると、「できるし、している」が71%を占めていますが、要支援認定者はその割合が38%と低くなっています。

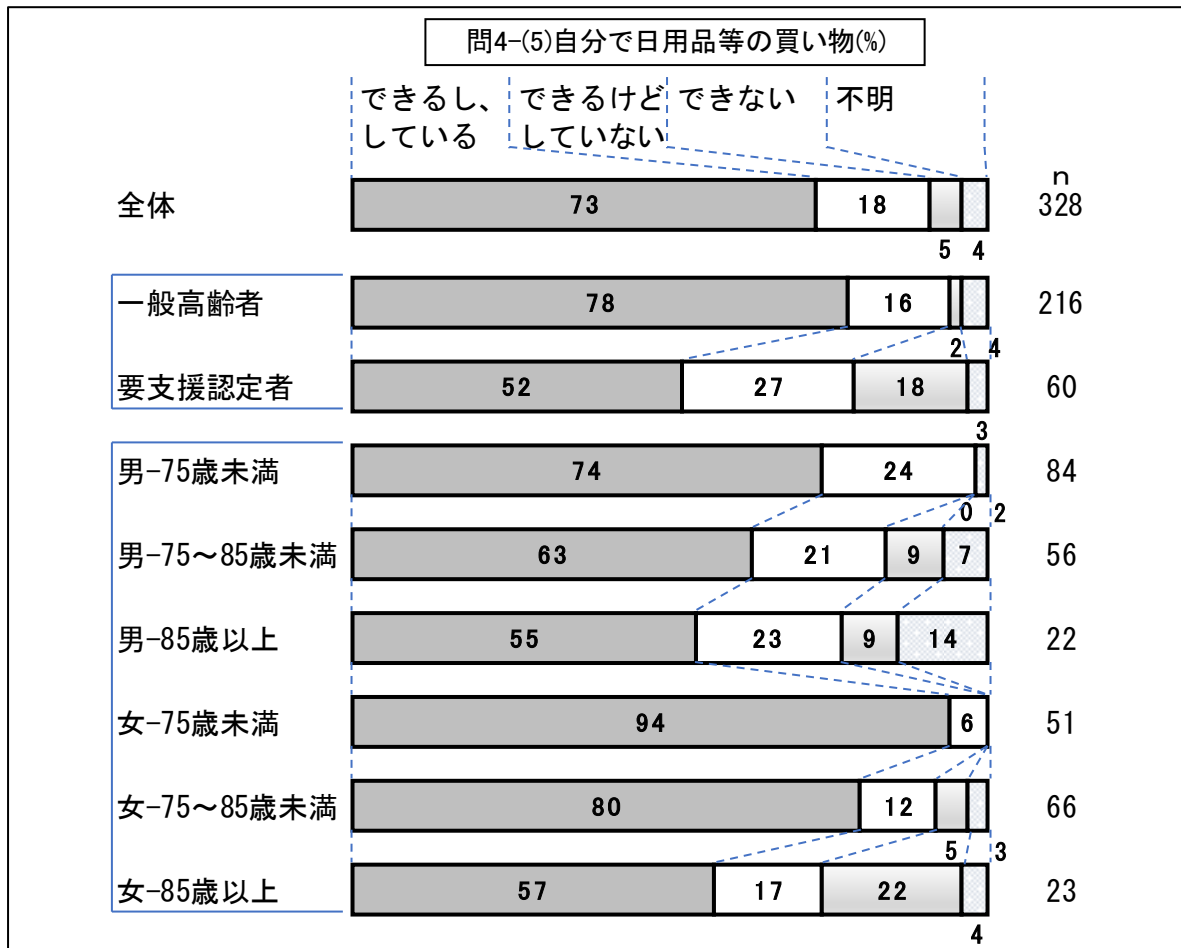
男女年齢別でみると、男女ともに年齢が上がるほどバスや電車を使って1人で外出する人の割合が低くなっていますが、各年齢階級とも、女性の方がその割合は低くなっています。



(5) 自分で食品・日用品の買い物をしていますか。

全体でみると、「できるし、している」が73%を占めていますが、要支援認定者はその割合が52%と低くなっています。

男女年齢別でみると、男女ともに年齢が上がるほど自分で食品・日用品を買いものする人の割合が低くなっていますが、各年齢階級とも、男性の方がその割合は低くなっています。しかし、男性は「できるけどしていない」が高く、合計すると大きな違いはありません。

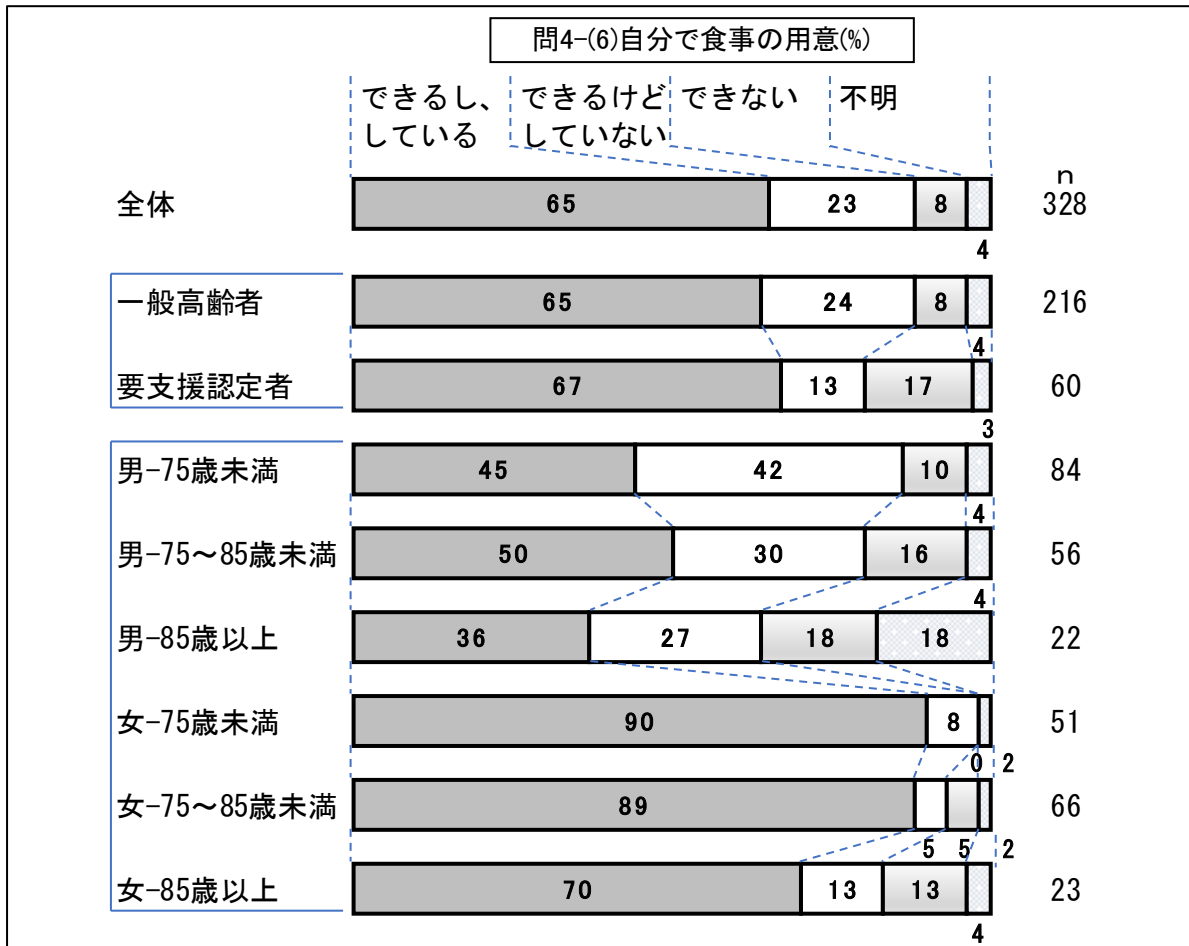




(6) 自分で食事の用意をしていますか。

全体でみると、「できるし、している」が65%を占めています。介護認定別での違いは見られません。

男女年齢別でみると、男性の「できるし、している」割合が各年齢階級とも女性より大幅に低くなっていますが、「できるけどしていない」割合は高く、日常的に女性が食事の用意の役割を担っているものと思われます。

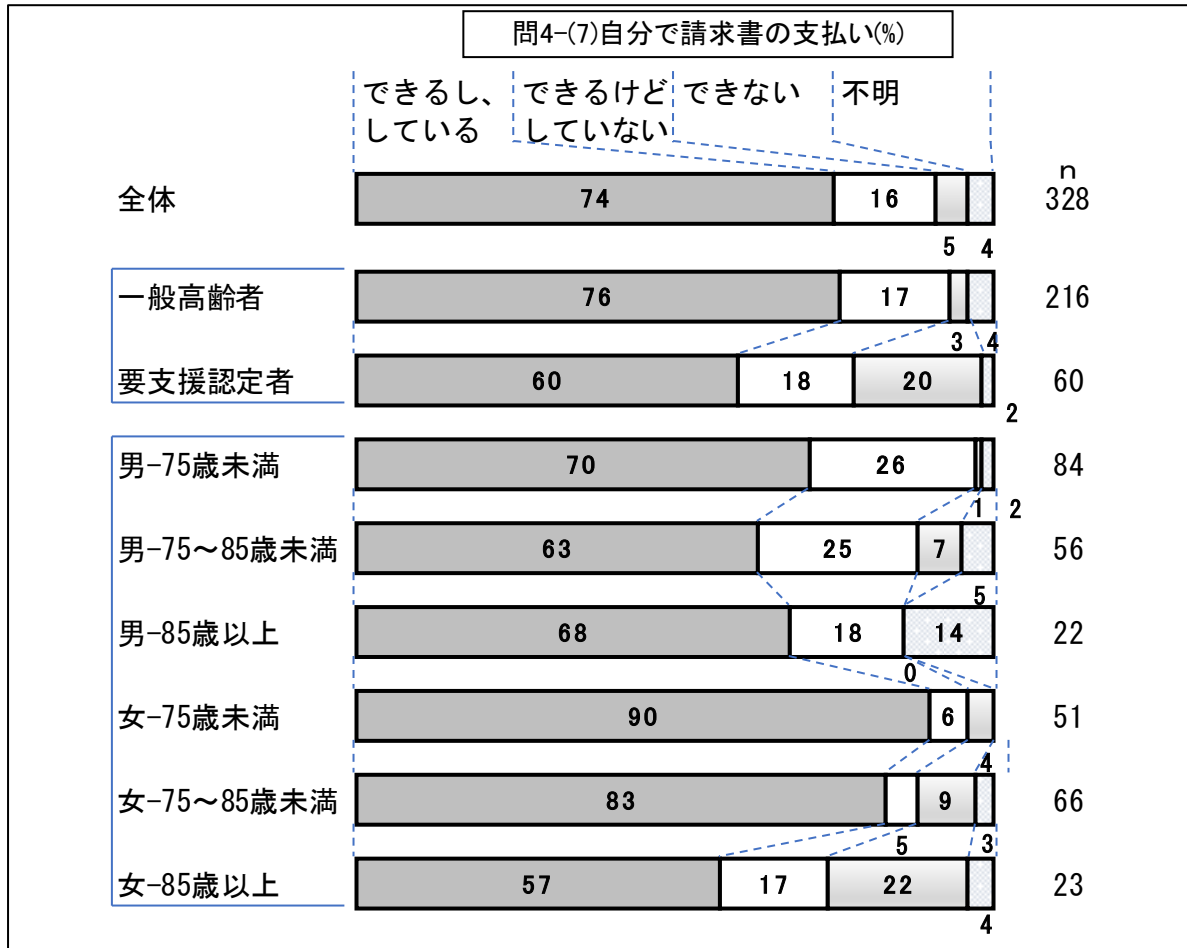


(7) 自分で請求書の支払いをしていますか。

全体で見ると、「できるし、している」が74%を占めています。

要支援認定者は「できるし、している」が60%と低くなります。

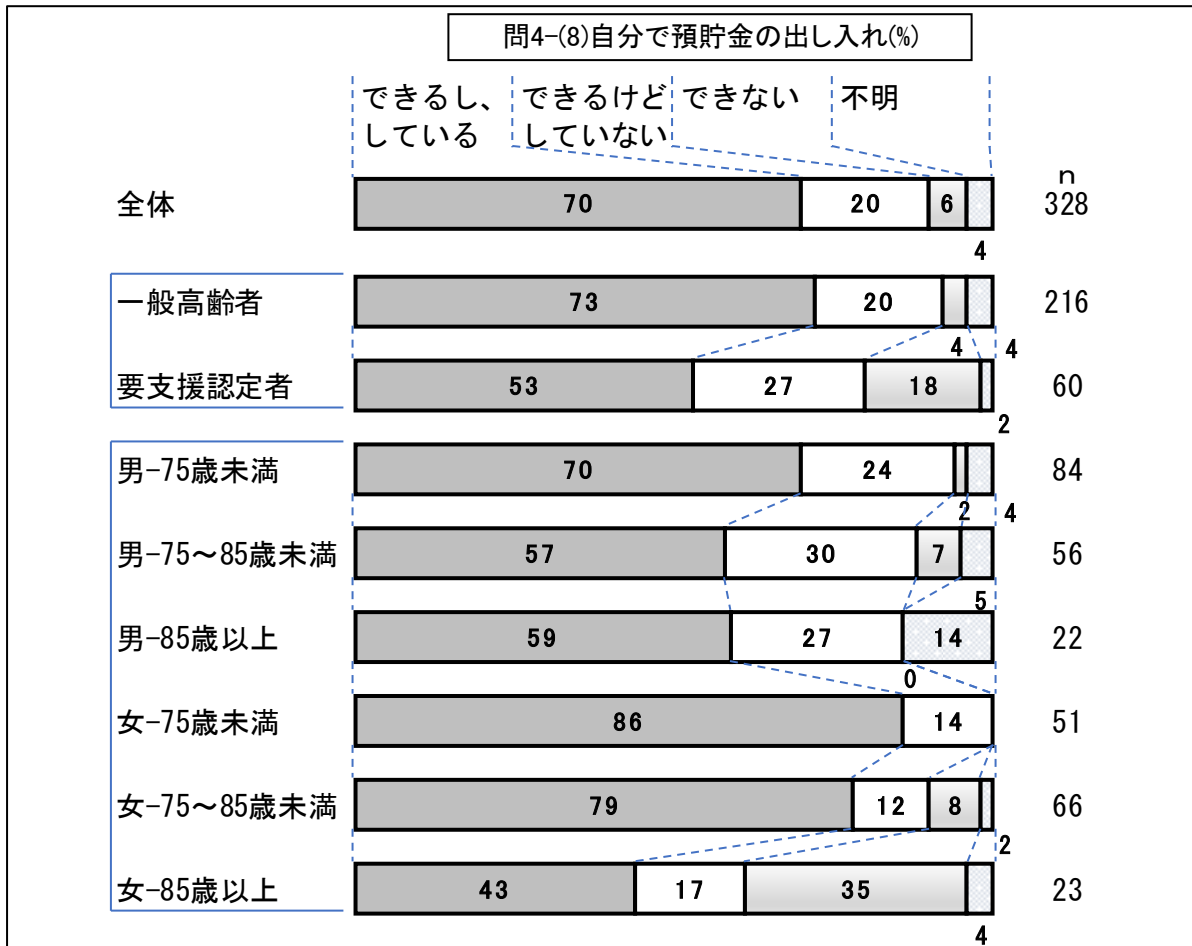
男女年齢別で見ると、男性の「できるし、している」割合が低くなっていますが、「できるけどしていない」割合を合計すると男女の大きな差はなく、食事の用意と同様に、日常的に女性がその役割を担っているものと思われます。



(8) 自分で預貯金の出し入れをしていますか。

全体で見ると、「できるし、している」が70%を占めています。要支援認定者は、その割合は53%と低くなります。

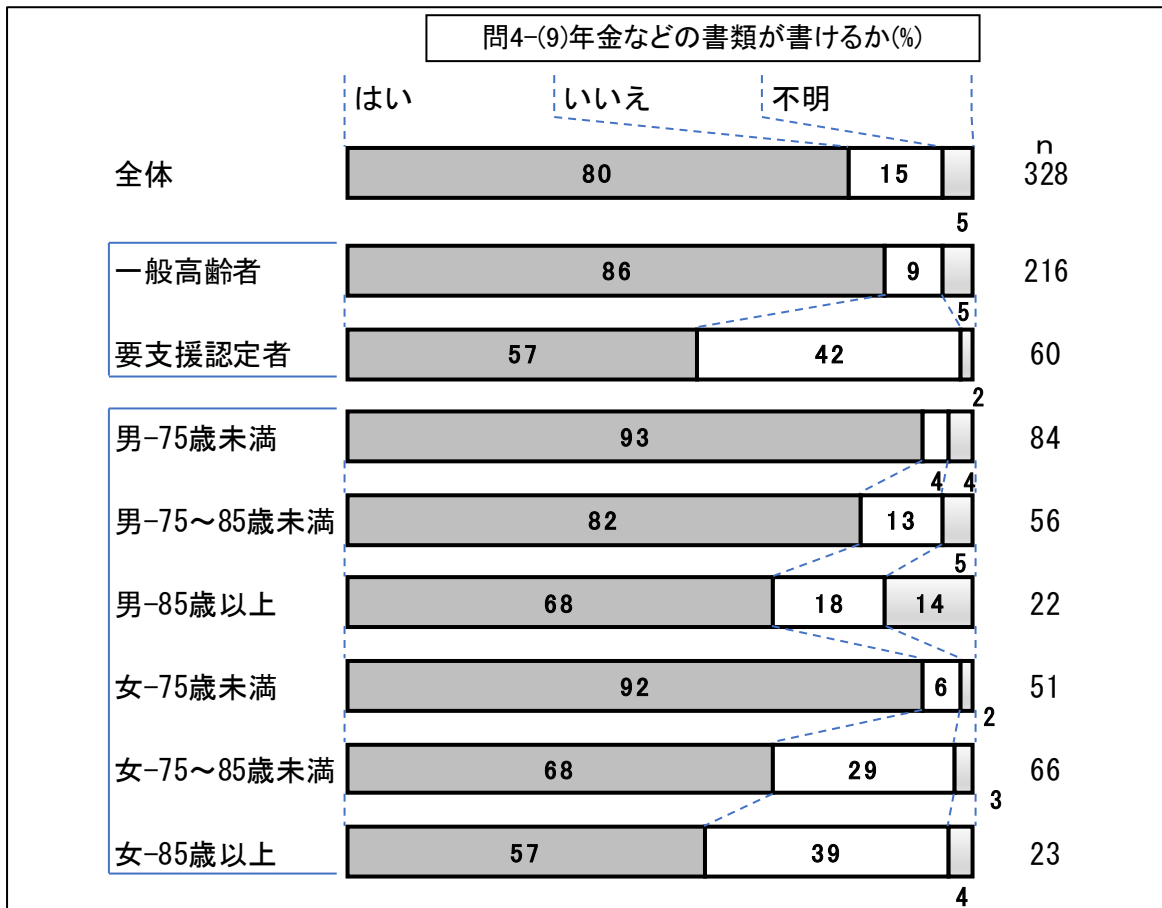
男女年齢別で見ると、男女ともに年齢が上がるほど自分で預貯金の出し入れをしている人の割合は低くなっています。男性の「できるし、している」割合が低くなっていますが、「できるけどしていない」割合を合計すると、85歳以上を除いて男女の大きな差はありません。



(9) 年金などの書類（役所や病院などに出す書類）が書けますか。

全体で見ると、年金などの書類が書ける人が80%を占めていますが、要支援認定者のその割合は57%と低くなっています。

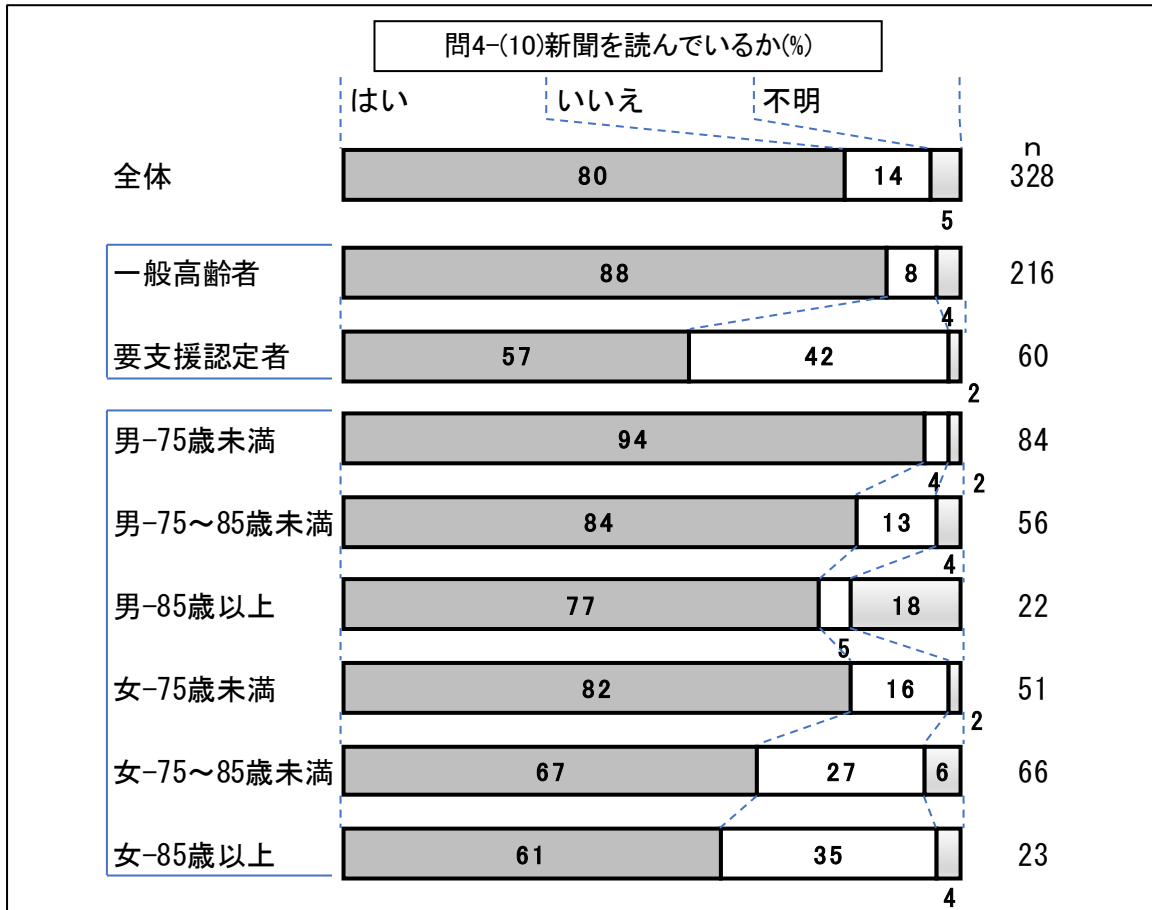
男女年齢別で見ると、男女とも、年齢が上がるほど年金などの書類が書ける人の割合が低くなっています。



(10) 新聞を読んでいますか。

全体で見ると、新聞を読んでいる人が80%を占めていますが、要支援認定者のその割合は57%と低くなっています。

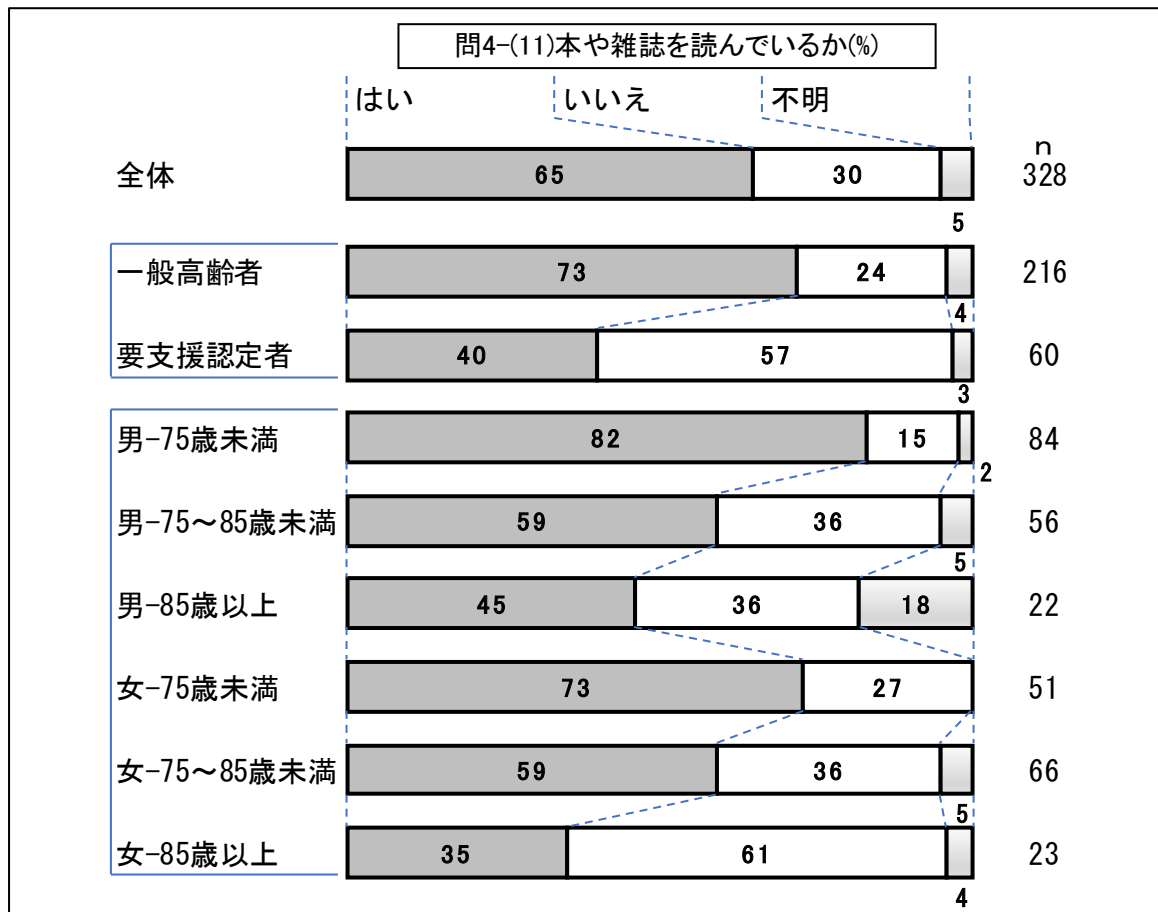
男女年齢別で見ると、男女とも、年齢があがるほど新聞を読んでいる人の割合は低くなっていますが、各年齢階級とも、女性の方が低くなっています。



(11) 本や雑誌を読んでいますか。

全体で見ると、本や雑誌を読んでいる人は65%ですが、要支援認定者のその割合は40%と低くなっています。

男女年齢別で見ると、年齢があがるほど本や雑誌を読んでいる人の割合は低くなっていますが、女性の方が低い傾向にあります。

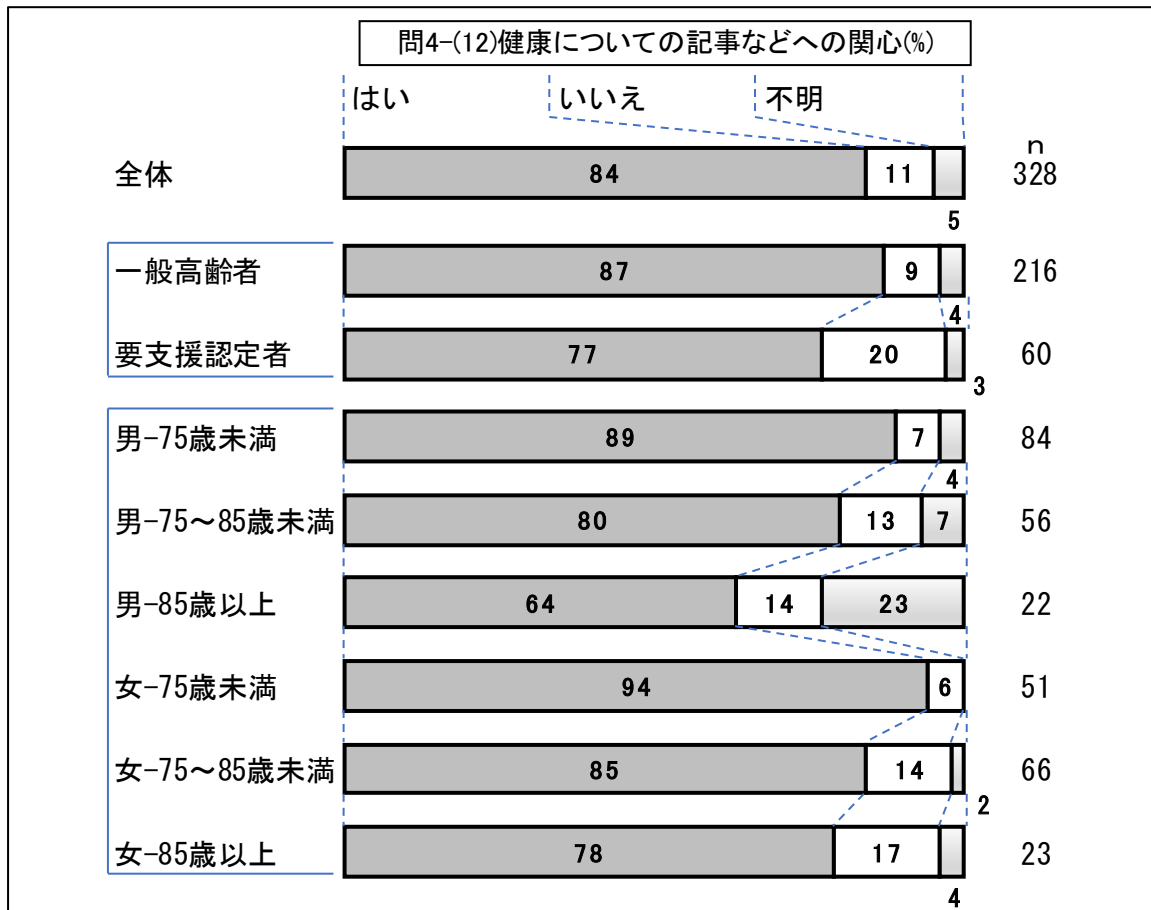


(12) 健康についての記事や番組に関心がありますか。

全体で見ると、健康についての記事や番組に関心がある人が84%を占めています。

要支援認定者は77%で低くなっています。

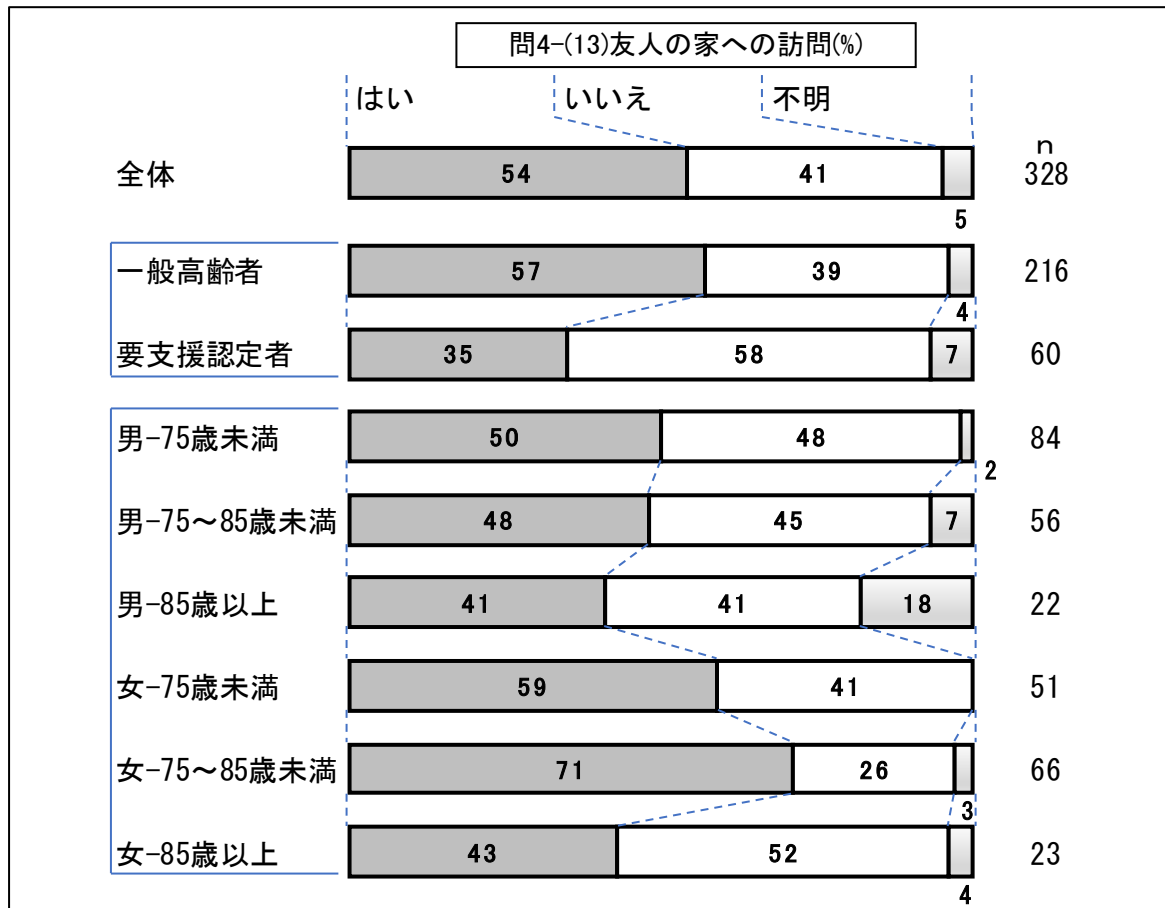
男女年齢別では、男女とも、年齢が上がるほど、健康についての記事や番組に関心がある人の割合が低くなっていますが、新聞や本を読む行為とは異なり、女性の方が関心が高くなっています。



(13) 友人の家を訪ねていますか。

全体で見ると、友人の家を訪ねている人が54%となっていますが、要支援認定者はその割合が35%と低くなっています。

男女年齢別で見ると、各年齢階級とも、女性の方が友人の家を訪ねている人の割合は高くなっていますが、85歳以上の女性では、男性同様に低くなっています。

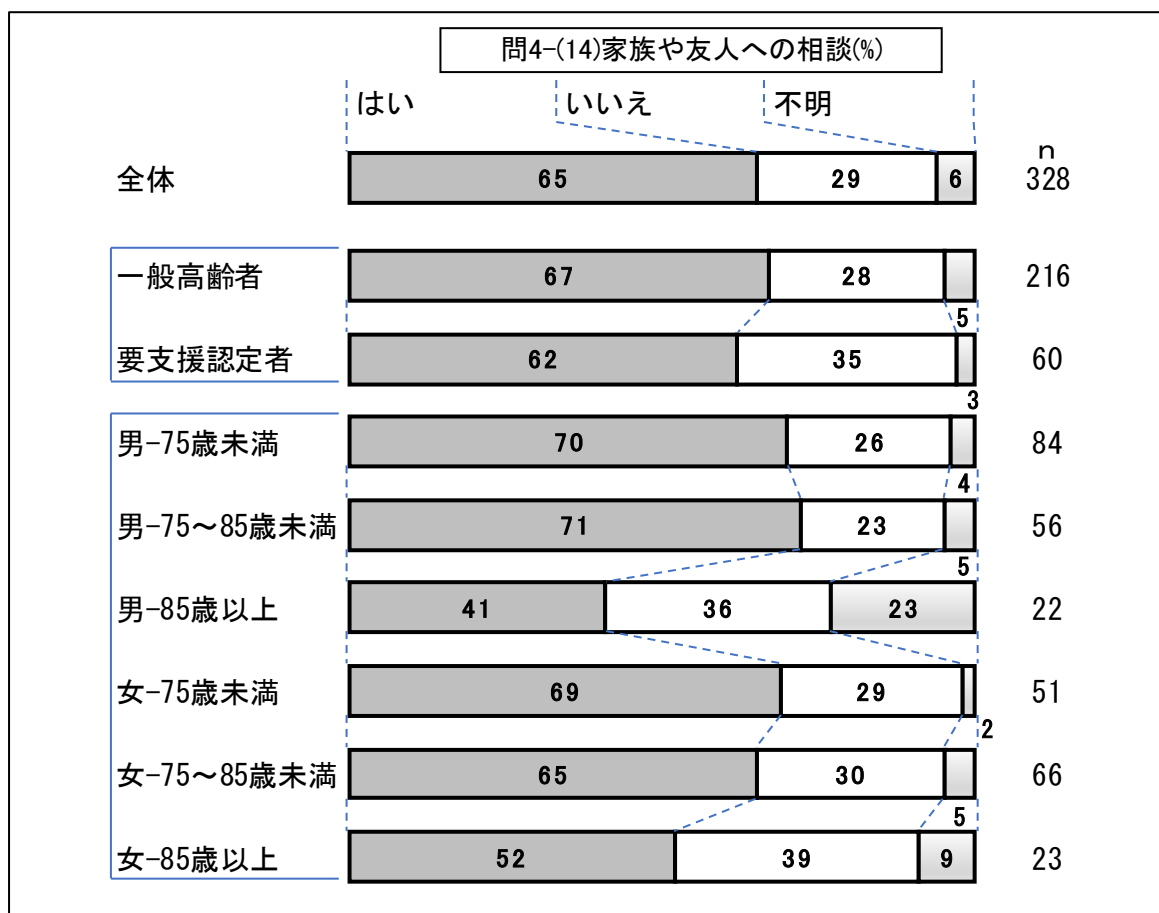




(14) 家族や友人の相談にのっていますか。

全体でみると、家族や友人の相談にのっている人が65%で、要支援認定者のその割合は62%で大きな違いはありません。

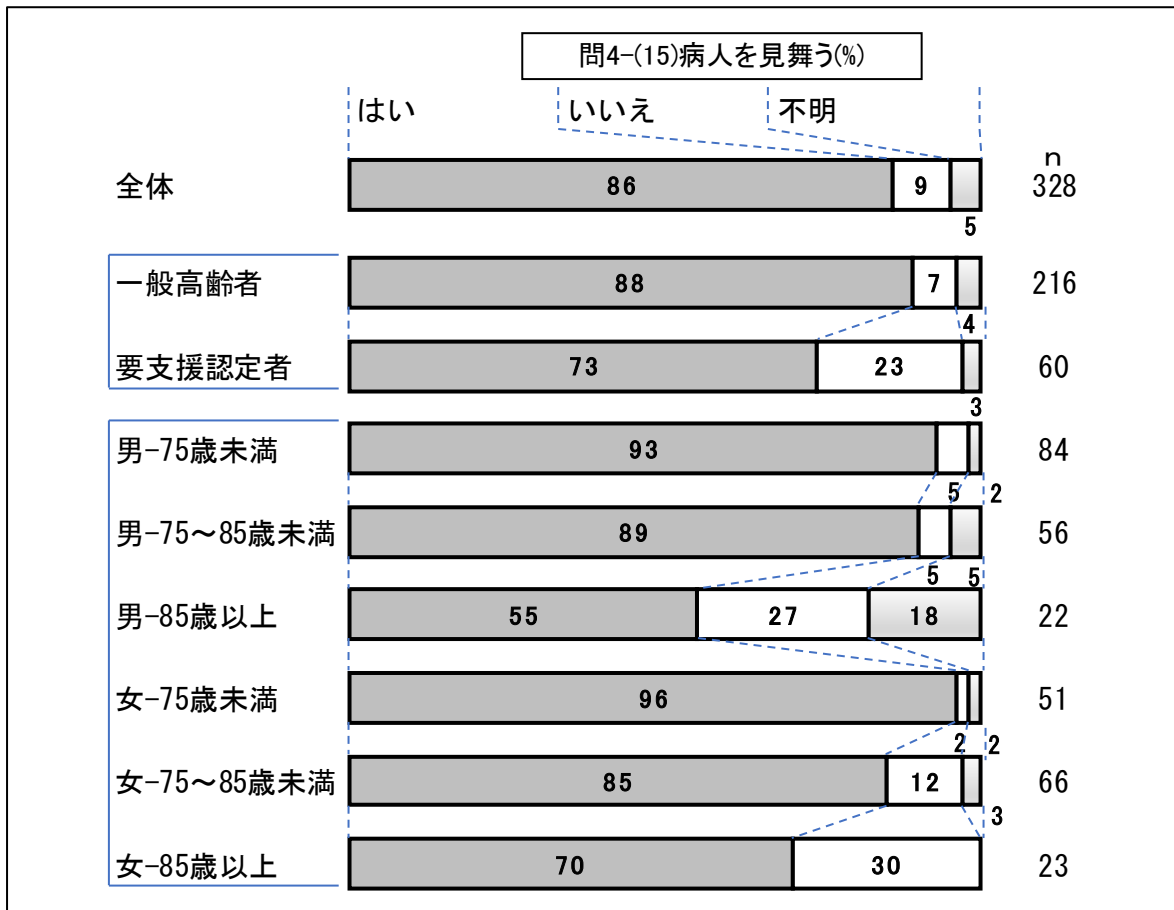
男女年齢別でみると、男女ともに年齢が上がるほど家族や友人の相談にのっている人の割合が低くなる傾向にありますが、85歳以上の男性では41%と低くなっています。



(15) 病人を見舞うことができますか。

全体でみると、病人を見舞うことができる人が86%を占めていますが、要支援認定者はその割合が73%と低くなっています。

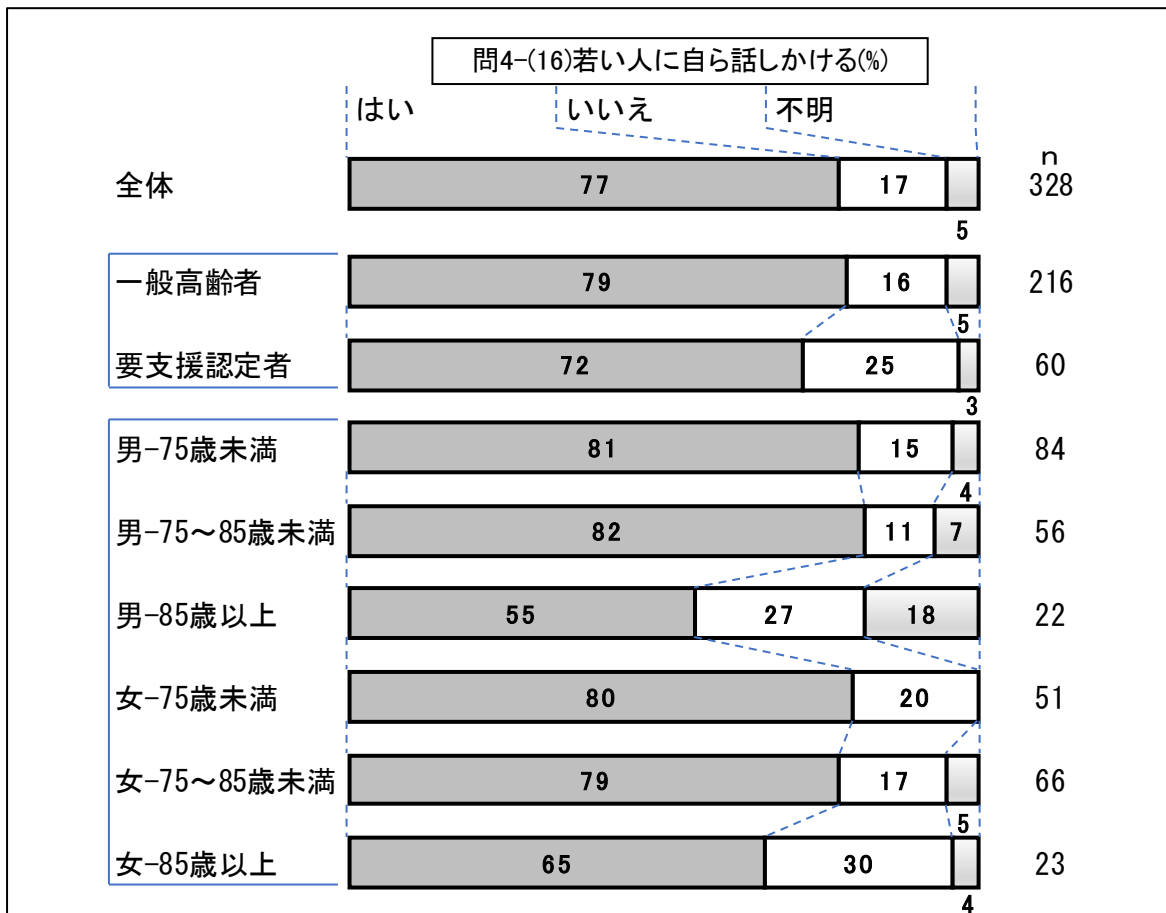
男女年齢別でみると、男女ともに年齢が上がるほど病人を見舞うことができる人の割合は低くなっています。特に85歳以上の男性は、55%と低くなっています。



(16) 若い人に自分から話しかけることがありますか。

全体でみると、若い人に自分から話しかけることがある人が77%を占めています。要支援認定者のその割合は72%で若干低いものの大きな違いではありません。

男女年齢別でみると、男女ともに年齢が上がるほど若い人に自分から話しかけることがある人の割合が低くなる傾向にあります。特に85歳以上の男性は、55%と低くなっています。



(17) 趣味はありますか。

全体でみると、「趣味あり」が65%ですが、要支援認定者はその割合が57%と若干低くなっています。

男女年齢別でみると、男女ともに年齢が上がるほど趣味がある人の割合が低くなる傾向にありますが、特に85歳以上の女性は、39%と低くなっています。

問4-(17)趣味の有無(%)				
	趣味あり	思いつかない	不明	n
全体	65	22	13	328
一般高齢者	71	18	12	216
要支援認定者	57	35	8	60
男-75歳未満	77	15	7	84
男-75～85歳未満	66	20	14	56
男-85歳以上	59	18	23	22
女-75歳未満	63	29	8	51
女-75～85歳未満	67	20	14	66
女-85歳以上	39	48	13	23

『趣味の内容』

- スポーツ観戦（テレビでの観戦も含む）（4）
- 歩く、パークゴルフ、ゴルフ、ゲートボールなど体を動かすこと（37）
- 野球、水泳、スキー、登山、居合道、卓球、ミニテニスなどのスポーツ（10）
- カラオケ、合唱、楽器演奏、詩吟、ダンス、フラダンス（30）
- 音楽鑑賞、ビデオ・映画の鑑賞（16）
- 新聞、ラジオ、テレビ、パソコン（3）
- 絵手紙、陶芸、トールペイント、手芸、編み物、縫い物（着物）、生け花、料理（27）
- 木彫り、カメラ、模型（9）
- 囲碁、将棋、オセロ、パチンコ（8）
- 読書、短歌、書道、脳かつ（21）
- 花や野菜栽培、盆栽、園芸（59）
- 釣り、山菜とり、山歩き、野鳥の世話（27）
- ドライブ、ツーリング、旅行（15）

(18) 生きがいがありますか。

全体でみると、「生きがいあり」が57%となっており、要支援認定者はその割合が48%と低くなっています。

男女年齢別でみると、男性では年齢が上がるほど「生きがいあり」の割合が低くなっていますが、女性の場合、年齢による違いはみられません。

問4-(18)生きがいの有無(%)				
	生きがいあり	思いつかない	不明	n
全体	57	28	16	328
一般高齢者	60	24	16	216
要支援認定者	48	40	12	60
男-75歳未満	62	26	12	84
男-75~85歳未満	54	25	21	56
男-85歳以上	45	27	27	22
女-75歳未満	59	31	10	51
女-75~85歳未満	58	29	14	66
女-85歳以上	57	35	9	23

『いきがいの内容』

- 子どもや孫、家族のこと (33)
- 趣味、旅行、食事などを通して、友達などと楽しく過ごすこと (47)
- 仕事、家業の手伝いなど (14)
- 畑仕事や家庭菜園 (16)
- 健康であること (8)
- ドライブ、バイク、旅行など (7)
- 生きていること、生活そのものなど (13)

## 問5 地域での活動について

(1) 以下のような会・グループ等にどのくらいの頻度で参加していますか。

この設問は、不明（無回答）の割合が高くなっています。

地域活動等への参加頻度をみると、⑦収入のある仕事、②スポーツ関係のグループ、③趣味関係のグループ等は「週1回以上」の割合が高くなっています。

	週4回以上	週2～3回	週1回	月1～3回	年に数回	参加して いない	不 明
①ボランティアのグループ	0.6	0.3	0.9	4.3	5.8	44.2	43.9
②スポーツ関係のグループ等	2.7	4.0	4.3	4.9	2.7	41.2	40.2
③趣味関係のグループ	3.7	3.4	4.0	10.1	4.9	37.5	36.6
④学習・教養サークル	0.6	0.0	0.3	3.0	2.7	47.6	45.7
⑤老人クラブ	0.9	0.9	0.3	2.4	4.3	49.1	42.1
⑥町内会・自治会	0.3	0.6	0.6	5.8	28.4	27.7	36.6
⑦収入のある仕事	10.1	2.4	1.5	1.8	3.7	38.7	41.8
	週1回以上			月1～3回	年に数回	参加して いない	不 明
①ボランティアのグループ	1.8			4.3	5.8	44.2	43.9
②スポーツ関係のグループ等	11.0			4.9	2.7	41.2	40.2
③趣味関係のグループ	11.0			10.1	4.9	37.5	36.6
④学習・教養サークル	0.9			3.0	2.7	47.6	45.7
⑤老人クラブ	2.1			2.4	4.3	49.1	42.1
⑥町内会・自治会	1.5			5.8	28.4	27.7	36.6
⑦収入のある仕事	14.0			1.8	3.7	38.7	41.8

(2) 地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に参加者として参加してみたいと思いますか。

全体でみると、「是非参加したい」(7%)、「参加してもよい」(50%)の合計は57%で、6割近くに参加意向があります。

介護認定別でみると、要支援認定者のその割合は43%と低くなっています。

男女年齢別でみると、男女ともに年齢が上がるほど参加意向のある人の割合は低くなっていますが、85歳以上の女性は特に低くなっています。

問5-(2)地域活動への参加意向(%)					
	是非参加 したい	参加しても よい	参加したく ない	不明	n
全体	7	50	33	11	328
一般高齢者	8	52	31	8	216
要支援認定者	1	40	42	15	60
男-75歳未満	6	58	29	7	84
男-75~85歳未満	7	59	29		56
男-85歳以上	9	36	32	23	22
女-75歳未満	10	47	35	8	51
女-75~85歳未満	6	47	35	12	66
女-85歳以上	4	22	61	13	23

(3) 地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に企画・運営（お世話役）として参加してみたいと思いますか。

全体でみると、「是非参加したい」（2%）、「参加してもよい」（39%）の合計は41%となっています。

介護認定別にみると、要支援認定者は「参加したくない」が65%を占め、参加意向のある人は27%です。

男女年齢別でみると、男女ともに年齢が上がるほど参加意向のある人の割合は低くなる傾向がありますが、特に85歳以上の女性は低くなっています。

		問5-(3)地域活動の企画・運営の参加意向(%)				
		是非参加 したい	参加しても よい	参加したく ない	不明	
全体		2	39	51	9	n 328
一般高齢者		3	42	49	6	216
要支援認定者			27	65	8	60
男-75歳未満		4	45	44	7	84
男-75~85歳未満			41	54	5	56
男-85歳以上		5	32	55	9	22
女-75歳未満			37	55	8	51
女-75~85歳未満		2	39	52	8	66
女-85歳以上		4	22	65	9	23

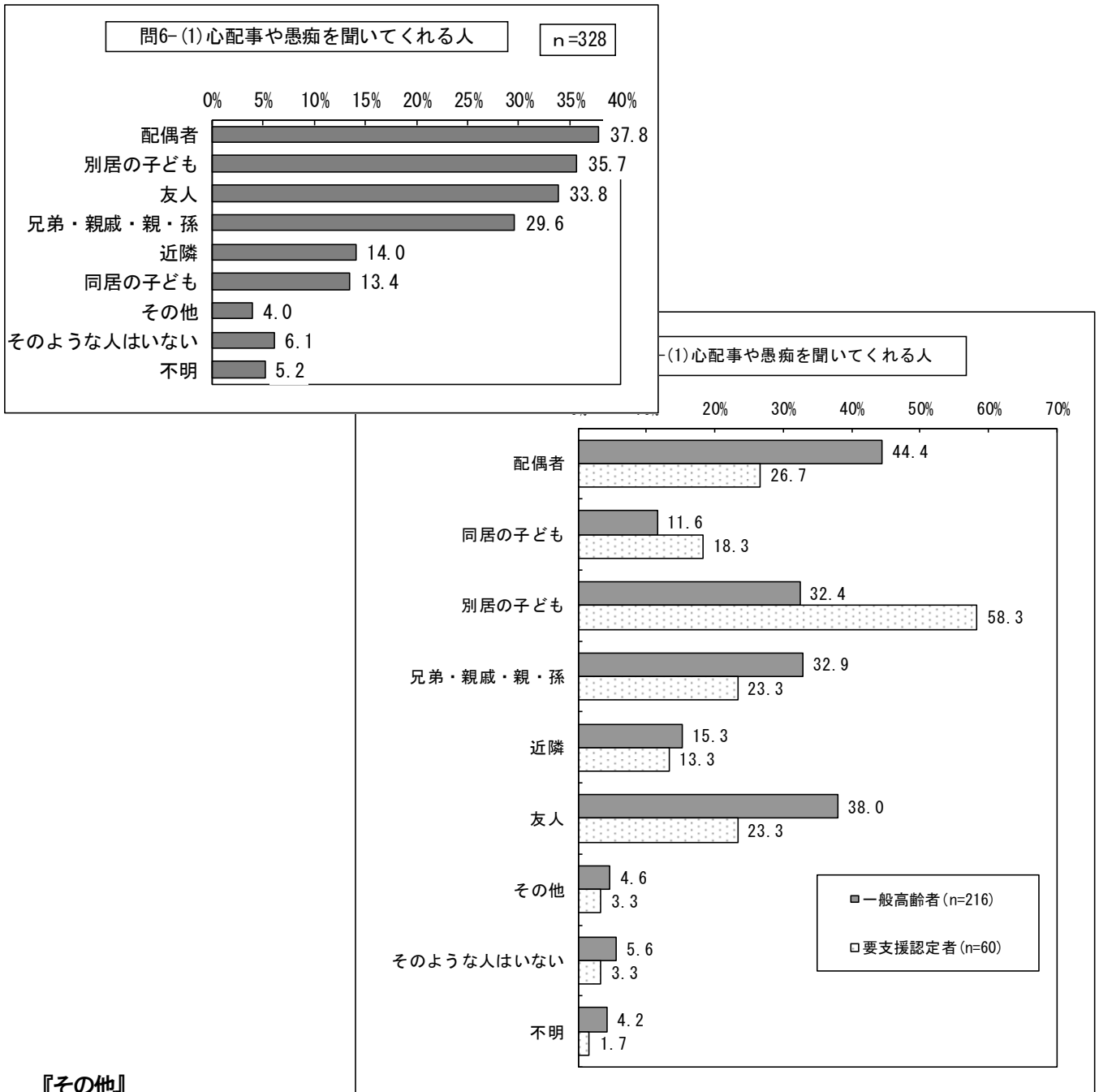


## 問6 たすけあいについて

(1) あなたの心配事や愚痴（ぐち）を聞いてくれる人は誰ですか。

全体で見ると、「配偶者」が37.8%で第1位、次いで「別居の子ども」(35.7%)、「友人」(33.8%)と続いています。

介護認定別で見ると、要支援認定者は「別居の子ども」が58.3%で第1位、次いで「配偶者」が26.7%で続きます。



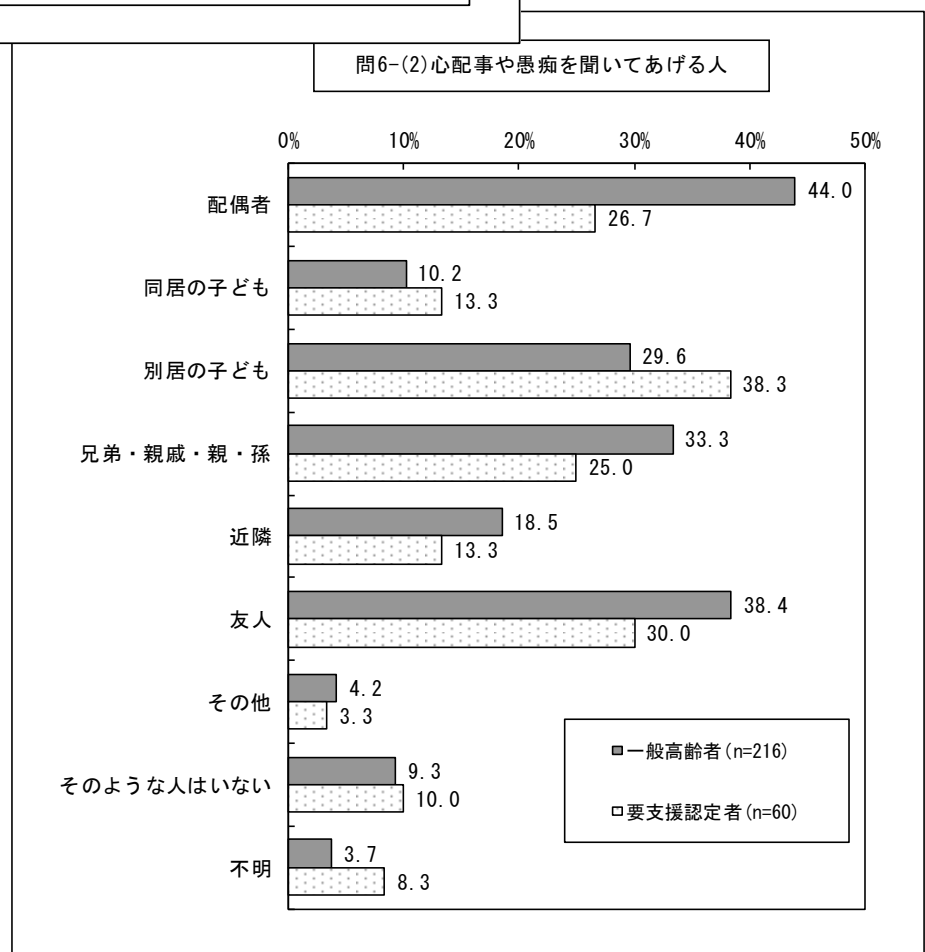
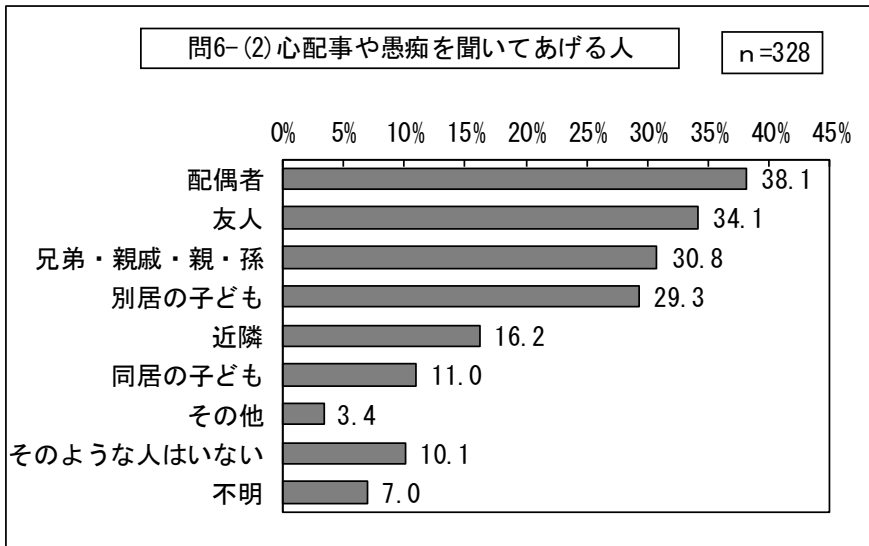
### 『その他』

- 他人に話さず、自分で処理 (3)
- 息子の嫁
- こすもす、ケアマネージャー
- 友人、仕事仲間 (3)

(2) 反対に、あなたが心配事や愚痴（ぐち）を聞いてあげる人は誰ですか。

全体でみると、「配偶者」が38.1%で第1位、次いで「友人」(34.1%)、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」(30.8%)と続いています。

介護認定別でみると、要支援認定者は「別居の子ども」が38.3%で最も多く、次いで「友人」(30.0%)、「配偶者」(26.7%)となっています。



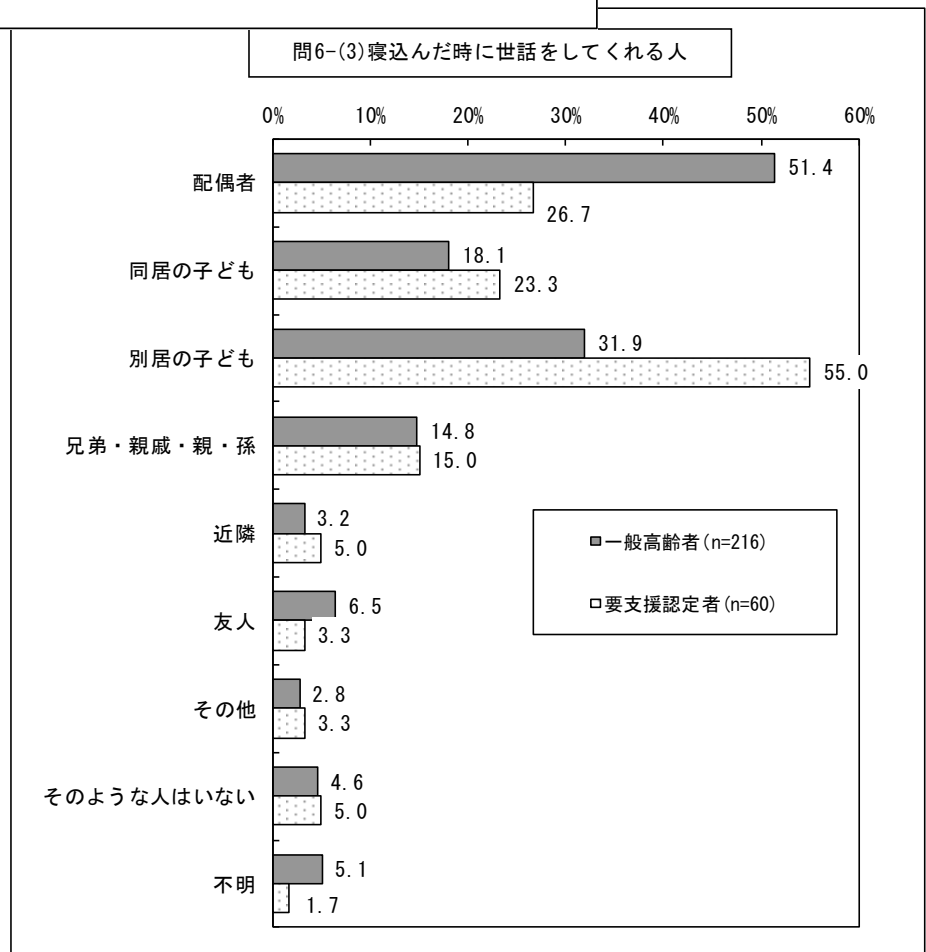
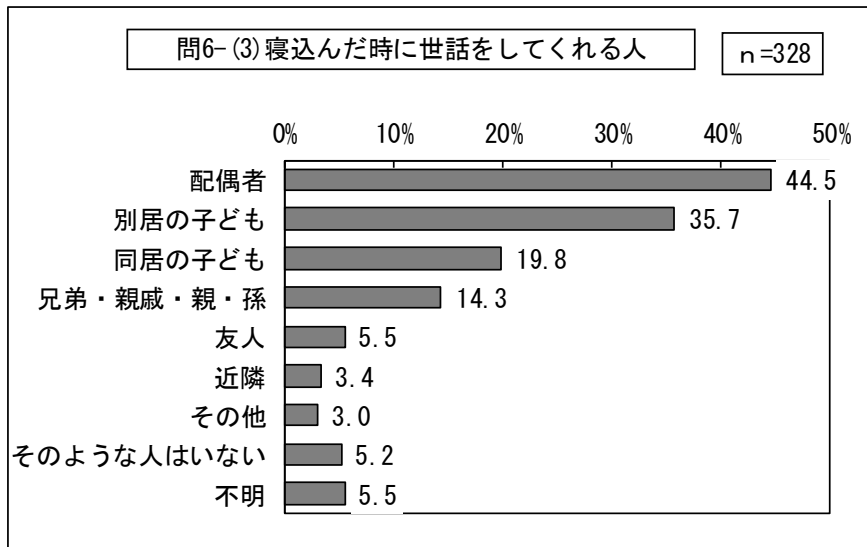
『その他』

- 知人・友人 (2)
- 仕事関係 (3)

(3) あなたが病気で数日間寝込んだときに、看病や世話をしてくれる人は誰ですか。

全体で見ると、「配偶者」が44.5%で第1位、次いで「別居の子ども」(35.7%)、「同居の子ども」(19.8%)と続いています。

介護認定別で見ると、要支援認定者は「別居の子ども」が55.0%で第1位、次いで「配偶者」が26.7%で続いています。



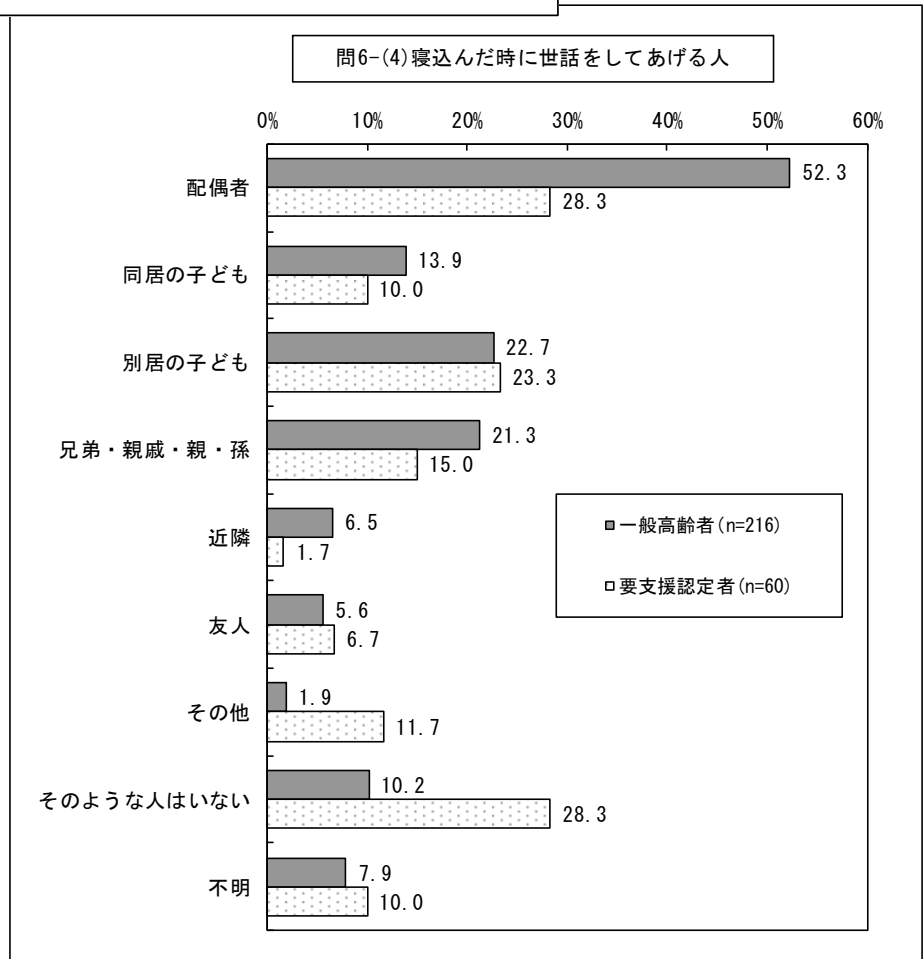
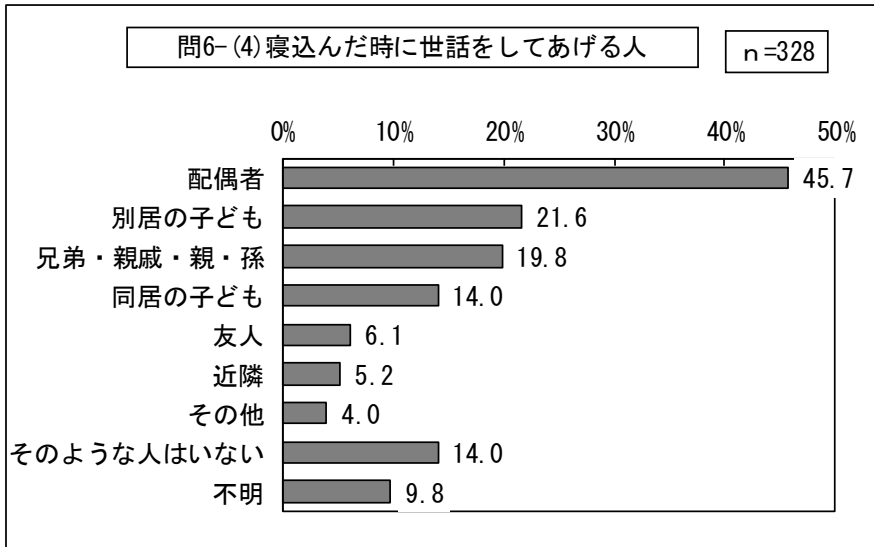
『その他』

- わからない (3)
- 娘と同居しているがまだ世話受けたことがない
- 子供達の生活面もするので
- こすもす

(4) 反対に、看病や世話をしてあげる人は誰ですか。

全体でみると、「配偶者」が45.7%で第1位、次いで「別居の子ども」(21.6%)、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」(19.8%)と続いています。

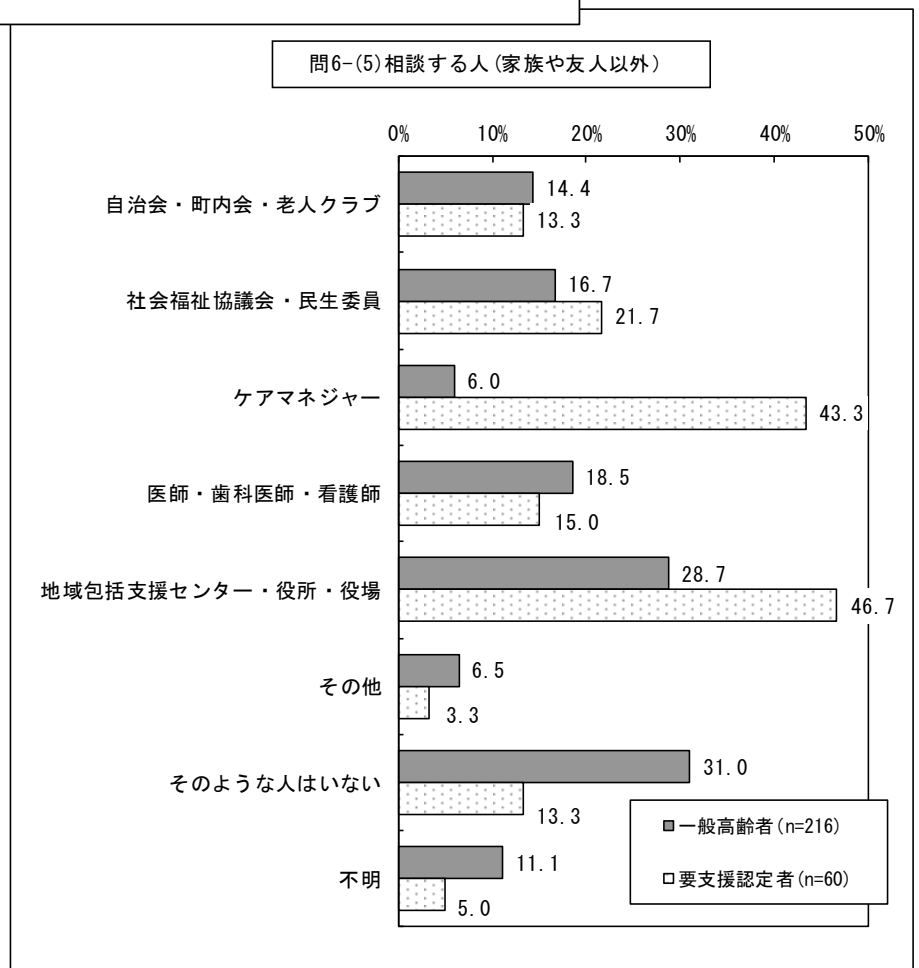
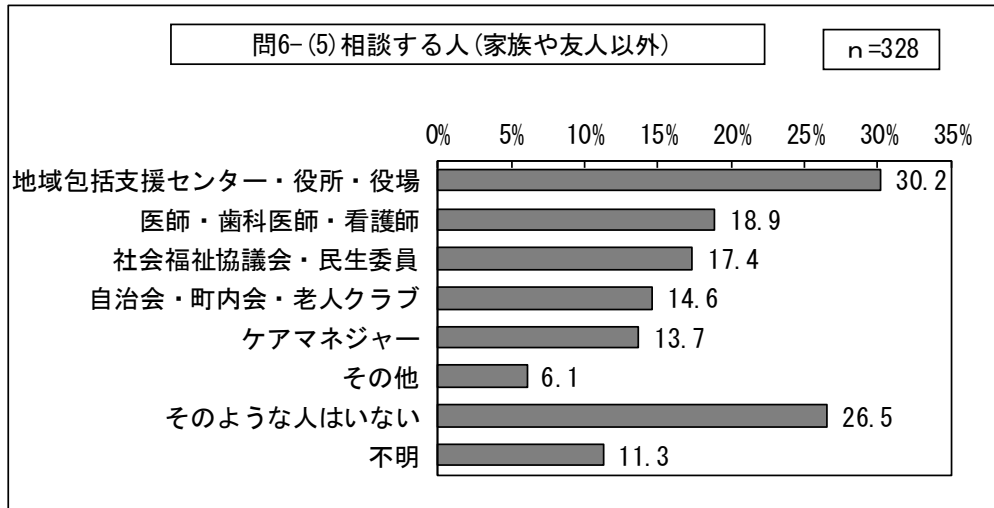
介護認定別でみると、要支援認定者は「配偶者」が28.3%で第1位、次いで、「別居の子ども」が23.3%で続いています。しかし、「そのような人はいない」も28.3%です。



(5) 家族や友人・知人以外で、何かあったときに相談する相手を教えてください。

全体でみると、「地域包括支援センター・役所・役場」が30.2%で第1位ですが、26.5%が「そのような人はいない」と回答しています。

介護認定別でみると、要支援認定者は「地域包括支援センター・役所・役場」が46.7%で第1位、次いで、「ケアマネジャー」が43.3%が続いています。「そのような人はいない」は13.3%で、一般高齢者より18ポイント近く低くなっています。



『その他』

- できない (4)
- 子供
- 義母 (2)
- 必要性がない

(6) 友人・知人と会う頻度はどれくらいですか。

全体で見ると、「月に何度か」以上の頻度で人と会う機会がある人は70%となっていますが、「ほとんどない」人も11%います。

介護認定別では、要支援認定者は「月に何度か」以上の頻度で人と会う機会がある人は57%で全体より低く、「ほとんどない」は17%となっています。

男女年齢別で見ると、男女とも85歳以上では、人と会う機会がの頻度は低くなっています。

問6-(6)友人・知人と会う頻度(%)							
	毎日あ る	週に何 度かあ る	月に何 度かあ る	年に何 度かあ る	ほとん どない	不明	
全体	10	32	28	15	11	5	n 328
一般高齢者	12	33	28	13	10	3	216
要支援認定者	20	32	23	17	3	5	60
男-75歳未満	10	31	29	19	8	4	84
男-75~85歳未満	9	30	23	20	9	9	56
男-85歳以上	27	32	9	23	9		22
女-75歳未満	8	39	33	12	8		51
女-75~85歳未満	20	35	23	11	8	5	66
女-85歳以上	17	35	13	26			23

(7) この1か月間、何人の友人・知人と会いましたか。

全体でみると、「10人以上」が26%で第1位、次いで、「1～2人」(25%)、「3～5人」(24%)と続いています。

介護認定別でみると、要支援認定者は「0人(いない)」、「1～2人」の割合が一般高齢者よりも高くなっており、この一か月で会った友人・知人の人数は一般高齢者よりも少ない状況です。

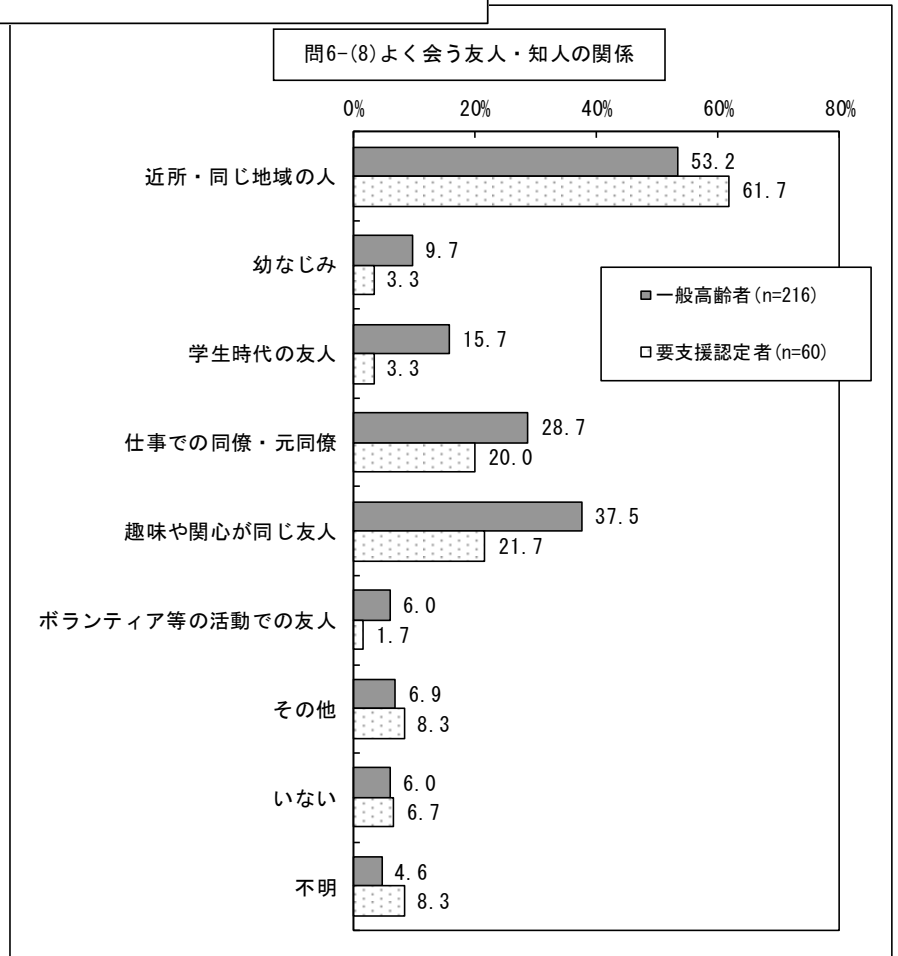
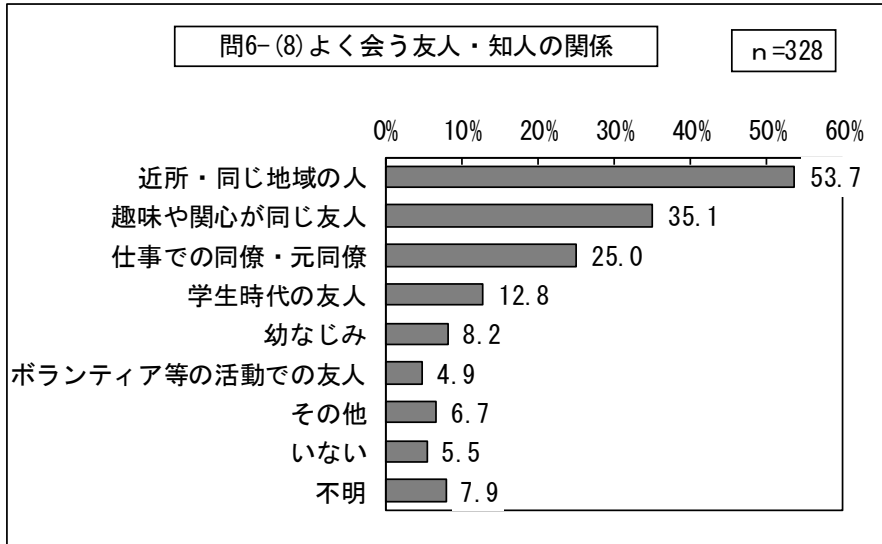
男女年齢別でみると、85歳以上の女性は、「0人(いない)」が30%と他の年齢階級よりも高くなっています。

問6-(7)この1か月間に会った友人・知人の数(%)							
	0人	1～2人	3～5人	6～9人	10人以上	不明	n
全体	9	25	24	9	26	6	328
一般高齢者	8	25	23	12	28	4	216
要支援認定者	15	23	30	7	20	5	60
男-75歳未満	6	25	25	10	30	5	84
男-75～85歳未満	9	34	14	11	25	7	56
男-85歳以上	14	14	32	5	23	14	22
女-75歳未満	8	24	25	8	29	6	51
女-75～85歳未満	6	21	30	9	32	2	66
女-85歳以上	30	26	17	4	13	9	23

(8) よく会う友人・知人はどんな関係の人ですか。

全体で見ると、「近所・同じ地域の人」が53.7%で第1位、次いで「趣味や関心が同じ友人」(35.1%)、「仕事での同僚・元同僚」(25.0%)が続いています。

介護認定別で見ると、要支援認定者は、「近所・同じ地域の人」が61.7%と高くなっています。



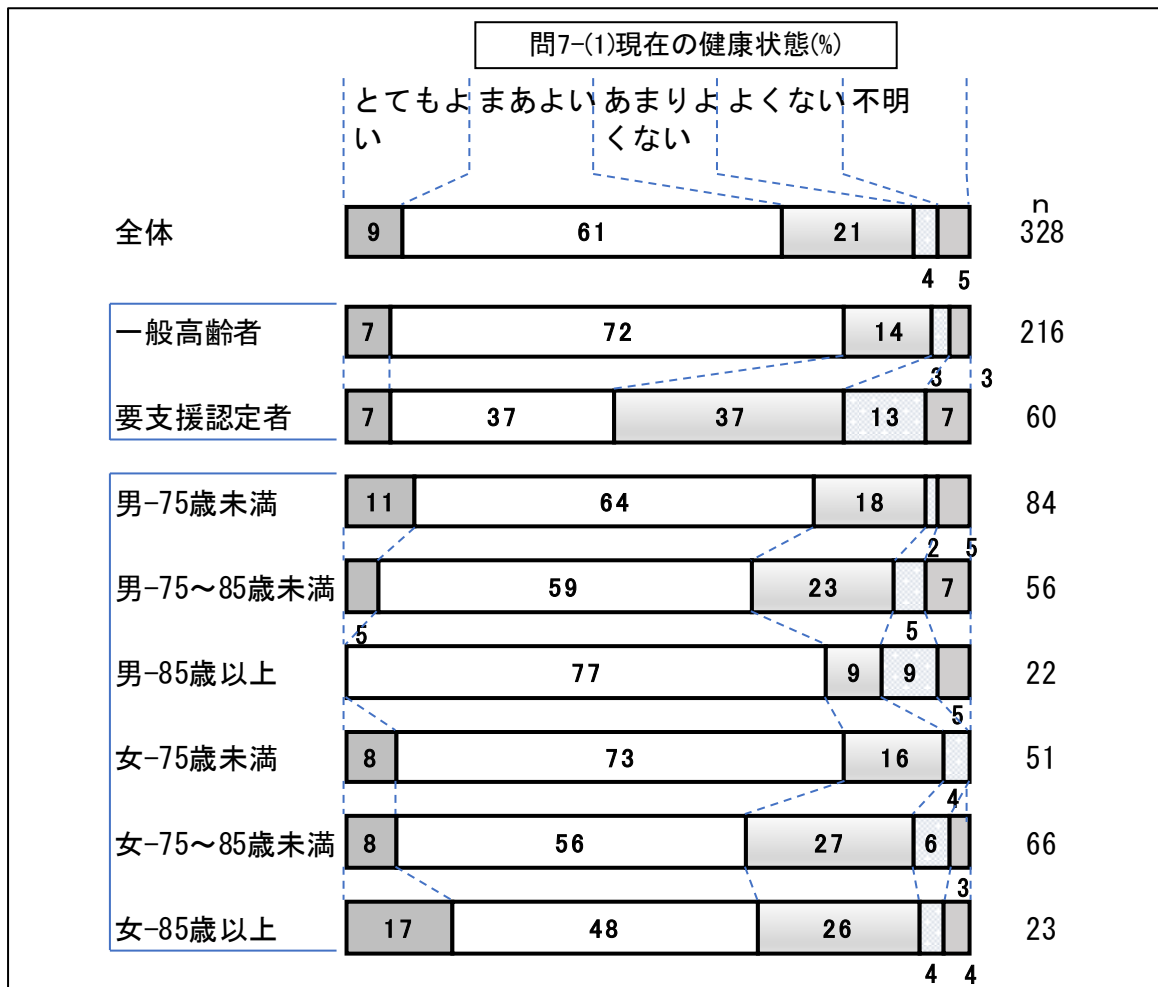


## 問7 健康について

(1) 現在のあなたの健康状態はいかがですか。

全体で見ると、現在の健康状態は、「とてもよい」(9%)と「まあよい」(61%)の合計は70%になります。要支援認定者のその割合は44%と低くなっています。

男女年齢別で見ると、85歳以上の女性の「とてもよい」が17%で他の年齢階級より高くなっていますが、「まあよい」との合計は65%で他の年齢階級のそれと比べると必ずしも高くはありません。

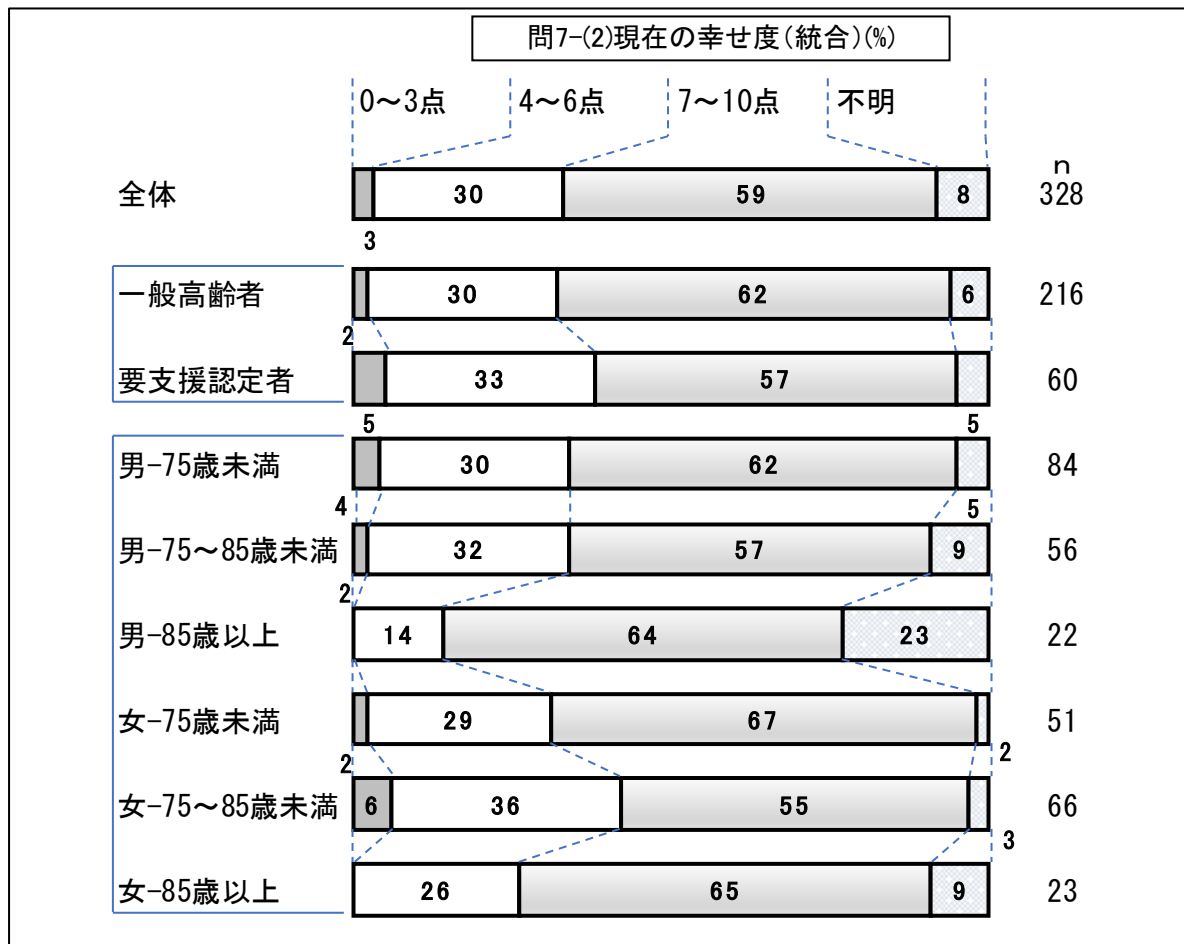
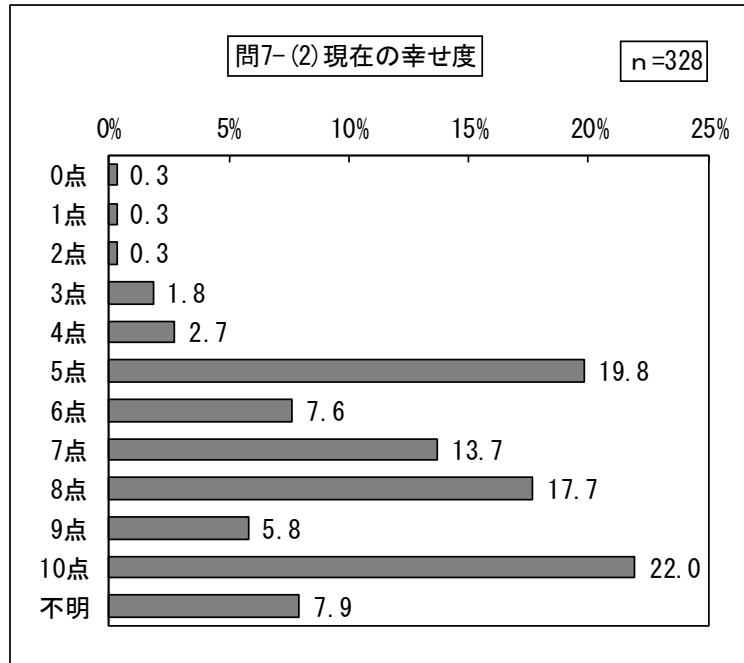


(2) あなたは、現在どの程度幸せですか。

全体で見ると、現在の幸福度は、「10点」が22.0%で第1位、次いで「5点」(19.8%)、「8点」(17.7%)が続いており、平均では7.3点です。

介護認定別では、大きな違いはありません。

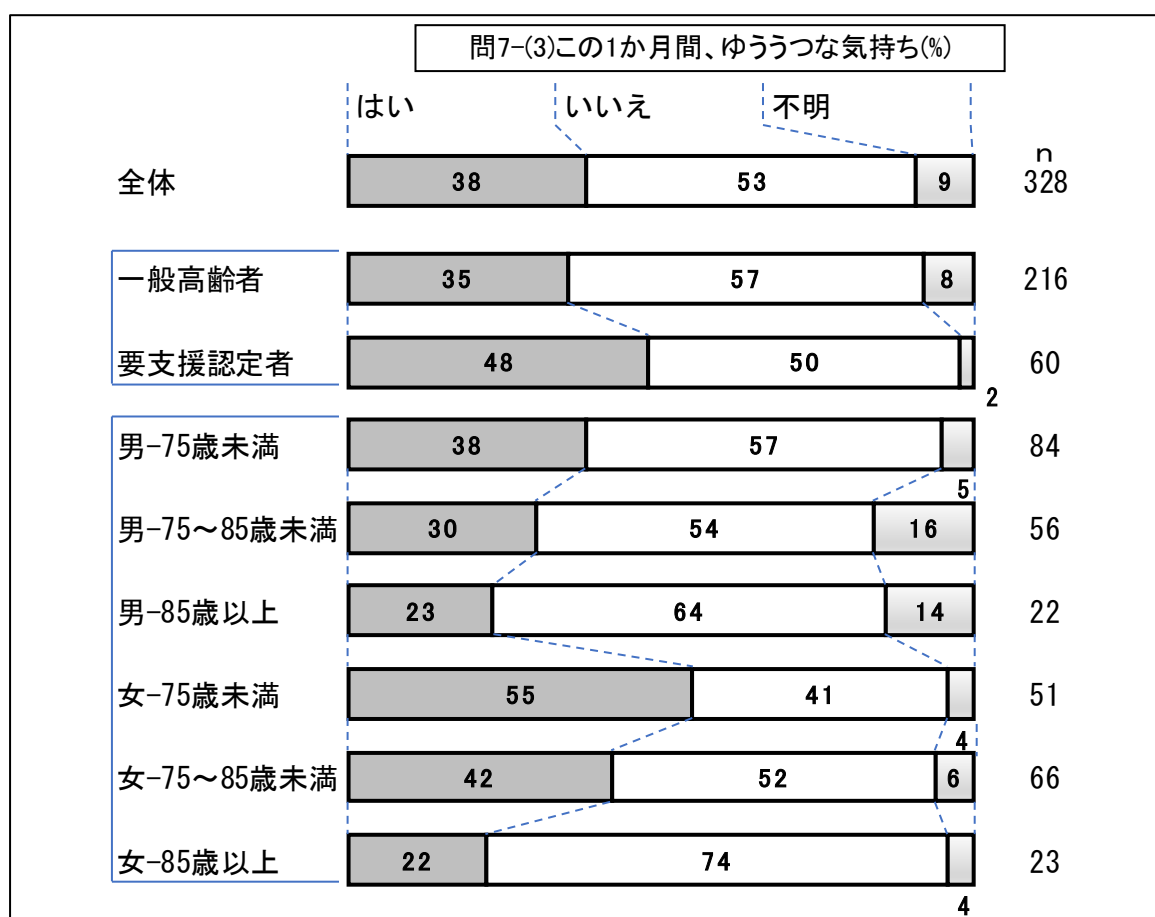
男女年齢別では、男女とも75～85歳未満で「7～10点」の割合が低くなっています。



(3) この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがありましたか。

全体でみると、この一か月間で気分が沈んだりゆううつな気持ちになったことのある人は38%で、要支援認定者はその割合が48%とやや高くなっています。

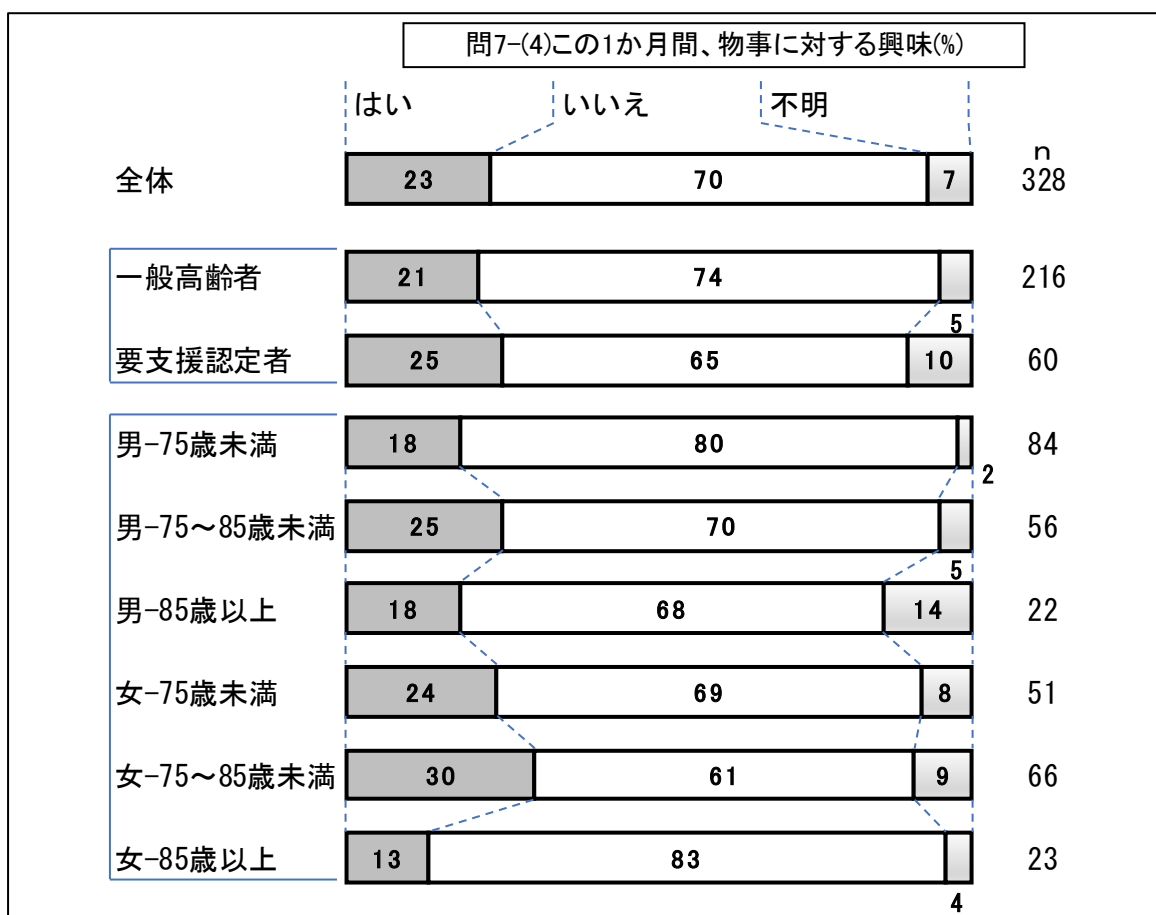
男女年齢別でみると、男女とも年齢が上がるほどこの一か月で気分が沈んだりゆううつな気持ちになった人の割合が低くなっています。



(4) この1か月間、どうしても物事に対して興味がわからない、あるいは心から楽しめない感じがよくありましたか。

全体でみると、この一か月間で物事に興味がわからない・心から楽しめない感じがある人は23%で、要支援認定者のその割合は25%で大きな違いはありません。

男女年齢別でみると、85歳以上女性のその割合は13%で低くなっています。



(5) お酒は飲みますか。

全体で見ると、「ほぼ毎日飲む」(17%)と「時々飲む」(17%)の合計は33%となっており、要支援認定者はその割合が15%と低くなっています。

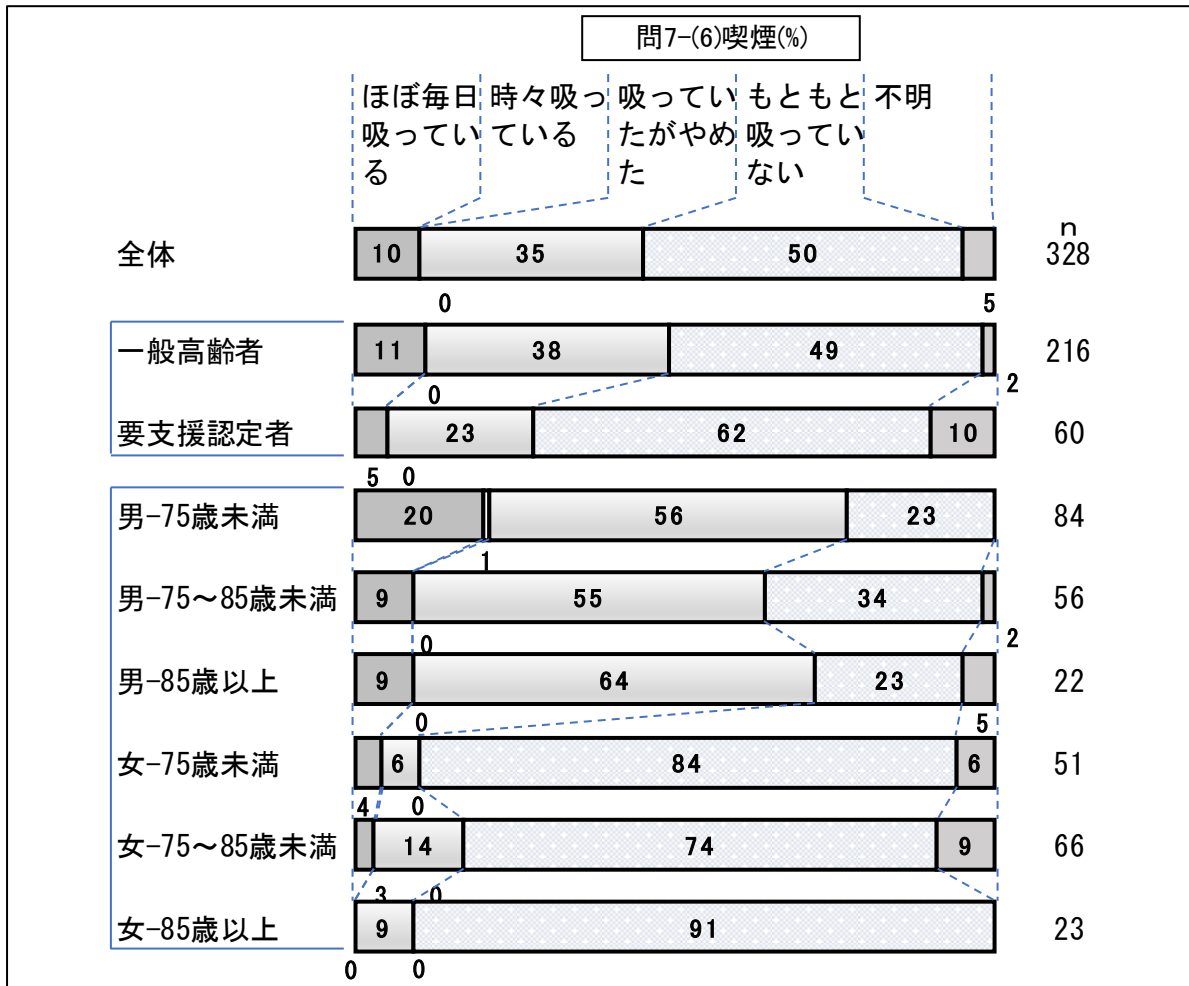
男女年齢別で見ると、男性は年齢が上がるほど飲む人の割合が低くなっています。

		問7-(5)飲酒(%)					
		ほぼ毎日 飲む	時々飲む	ほとんど 飲まない	もともと 飲まない	不明	
全体		17	16	27	34		n 328
一般高齢者		21	18	28	31		216
要支援認定者		10	30	47	8		60
男-75歳未満		31	23	23	23		84
男-75~85歳未満		25	11	38	23		56
男-85歳以上		18	9	41	23	9	22
女-75歳未満		14	31	47	6		51
女-75~85歳未満		9	17	18	48	8	66
女-85歳以上		9	26	65			23

(6) タバコは吸っていますか。

全体でみると、「ほぼ毎日吸っている」(10%)と「時々吸っている」(0%)の合計は10%で、現在は吸っていない人が85%を占めます。要支援認定者は吸っている人が5%と半分です。

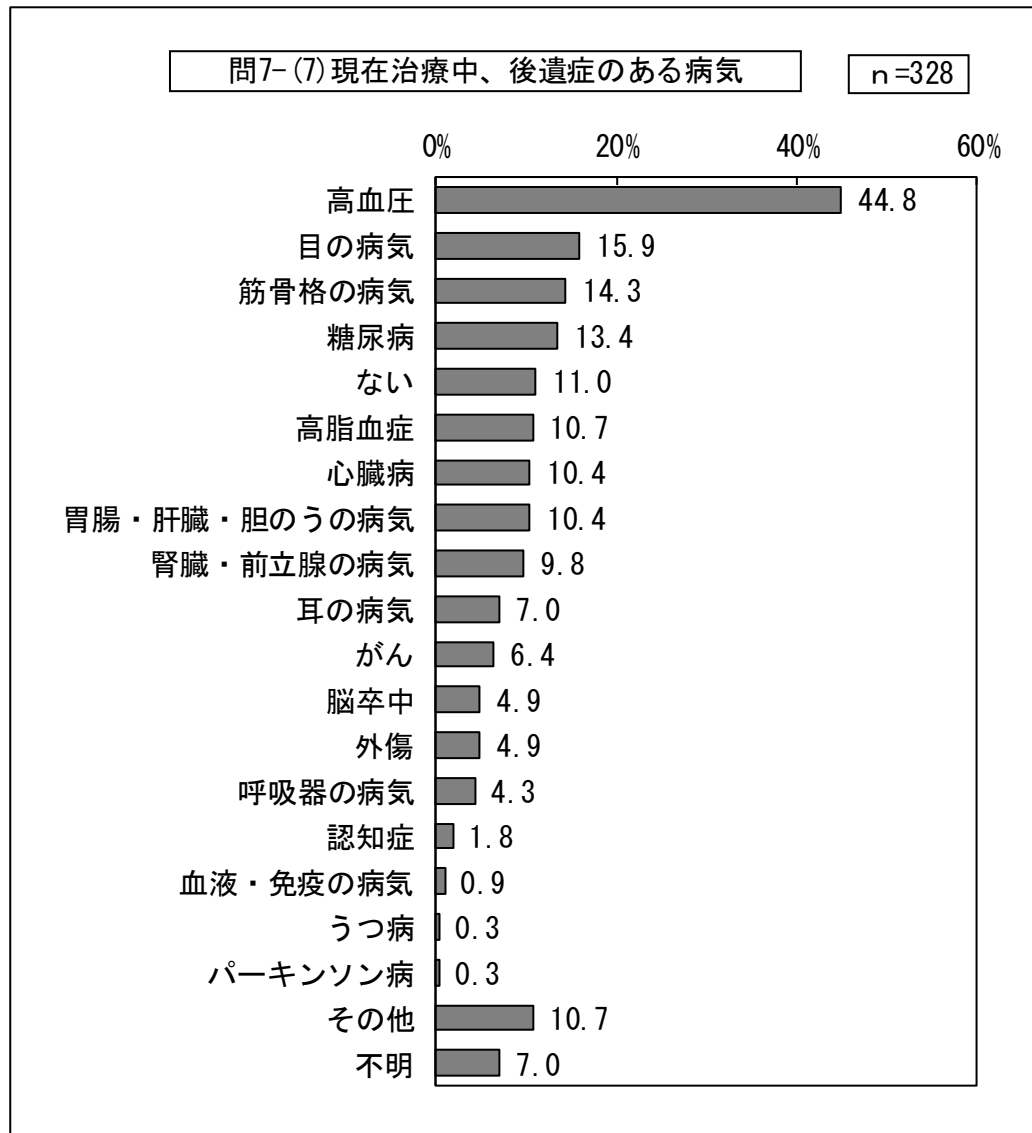
男女年齢別でみると、男女ともに吸っている人は多くはありませんが、75歳未満の男性では20%がほぼ毎日吸っています。



(7) 現在治療中、または後遺症のある病気はありますか。

全体でみると、「高血圧」が44.8%で他を引き離して第1位、次いで「目の病気」(15.9%)、「筋骨格の病気」(14.3%)と続いています。

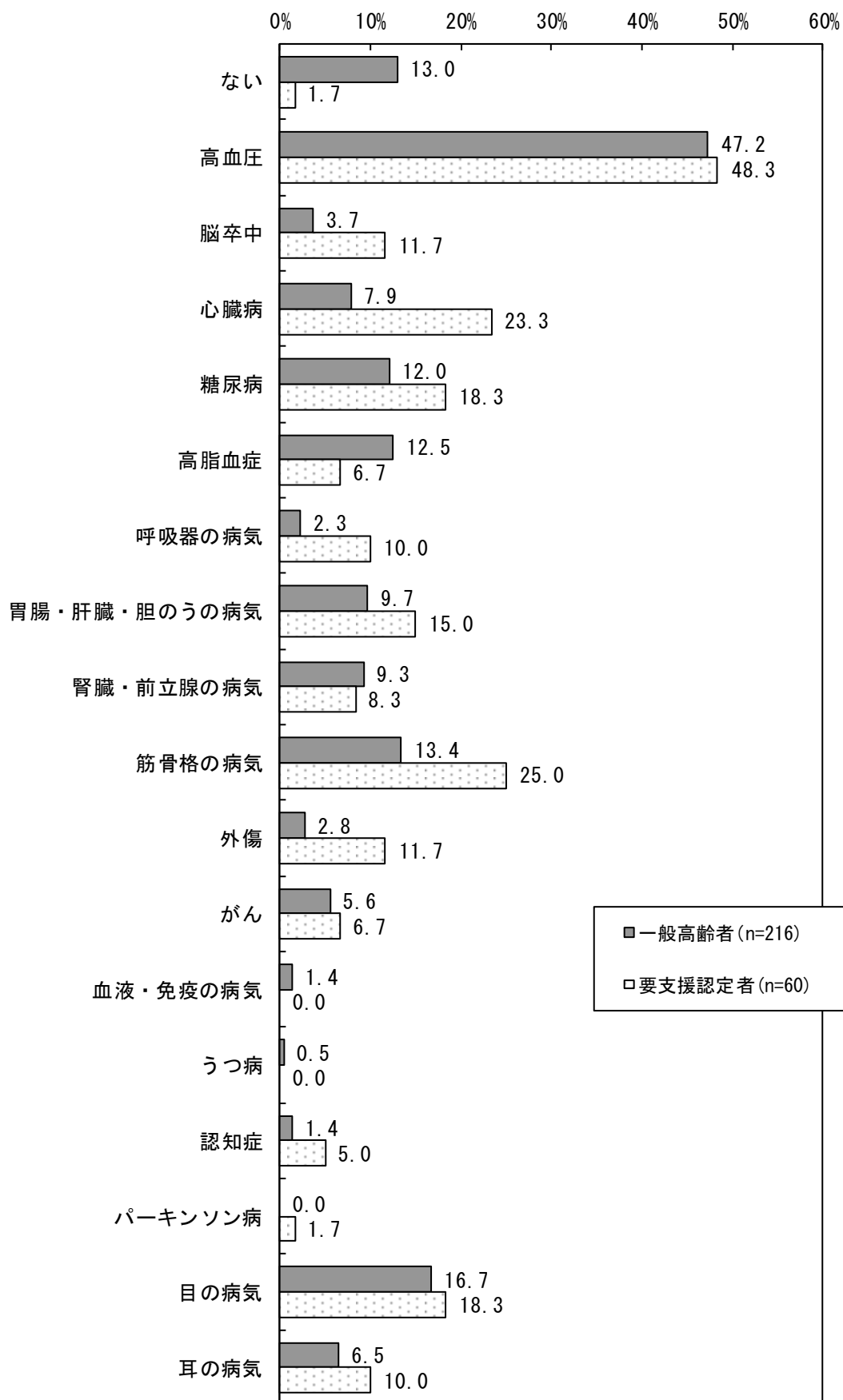
介護認定別でも「高血圧」が最も多くなっていますが、要支援認定者は「筋骨格の病気(骨粗しょう症、関節症等)」(25.0%)、「心臓病」(23.3%)、「糖尿病」(18.3%)、「目の病気」(18.3%)が上位回答となっています。



『その他』

- 甲状腺、甲状腺機能低下、甲状腺機能亢進症 (5)
  - 後縦靭帯骨化症 (2)
  - 皮膚病 (2)
  - 首、腰、腕、足 (6)
  - 難病サルエイドーシス
  - 頰椎症性神経根症、主根間神経症、脊柱管狭窄症
  - 難病サルエイドーシス
  - 肥大型心筋症 (特例)
  - 頰椎症性脊髄症
  - リウマチ性多発筋痛症
- など

問7-(7)現在治療中、後遺症のある病気



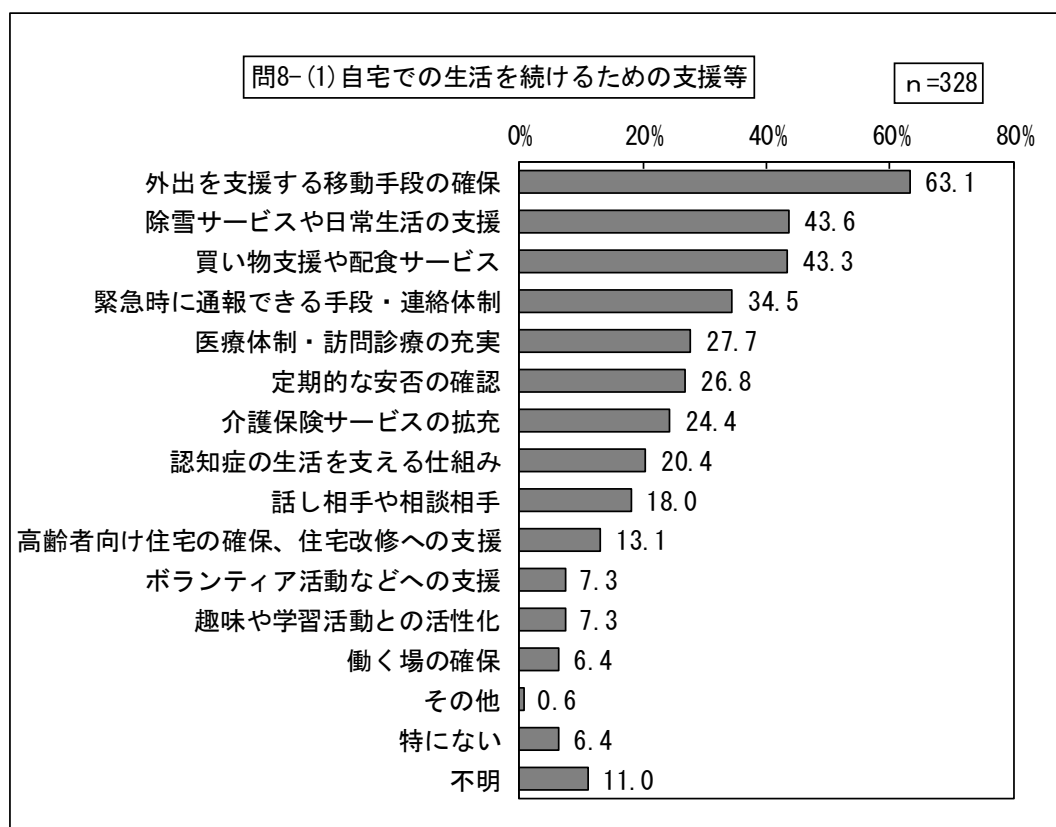


## 問8 保健福祉施策について

(1) 高齢者が身近な地域や自宅での生活を続けていくために、特に必要な支援・サービスは何だと思われますか。

「外出を支援する移動手段の確保」が63.1%で最も多くなっており、次いで「除雪サービスや日常生活の支援」(43.6%)、「買い物支援や配食サービス」(43.3%)が続いています。移動手段の確保の重要性がうかがえます。

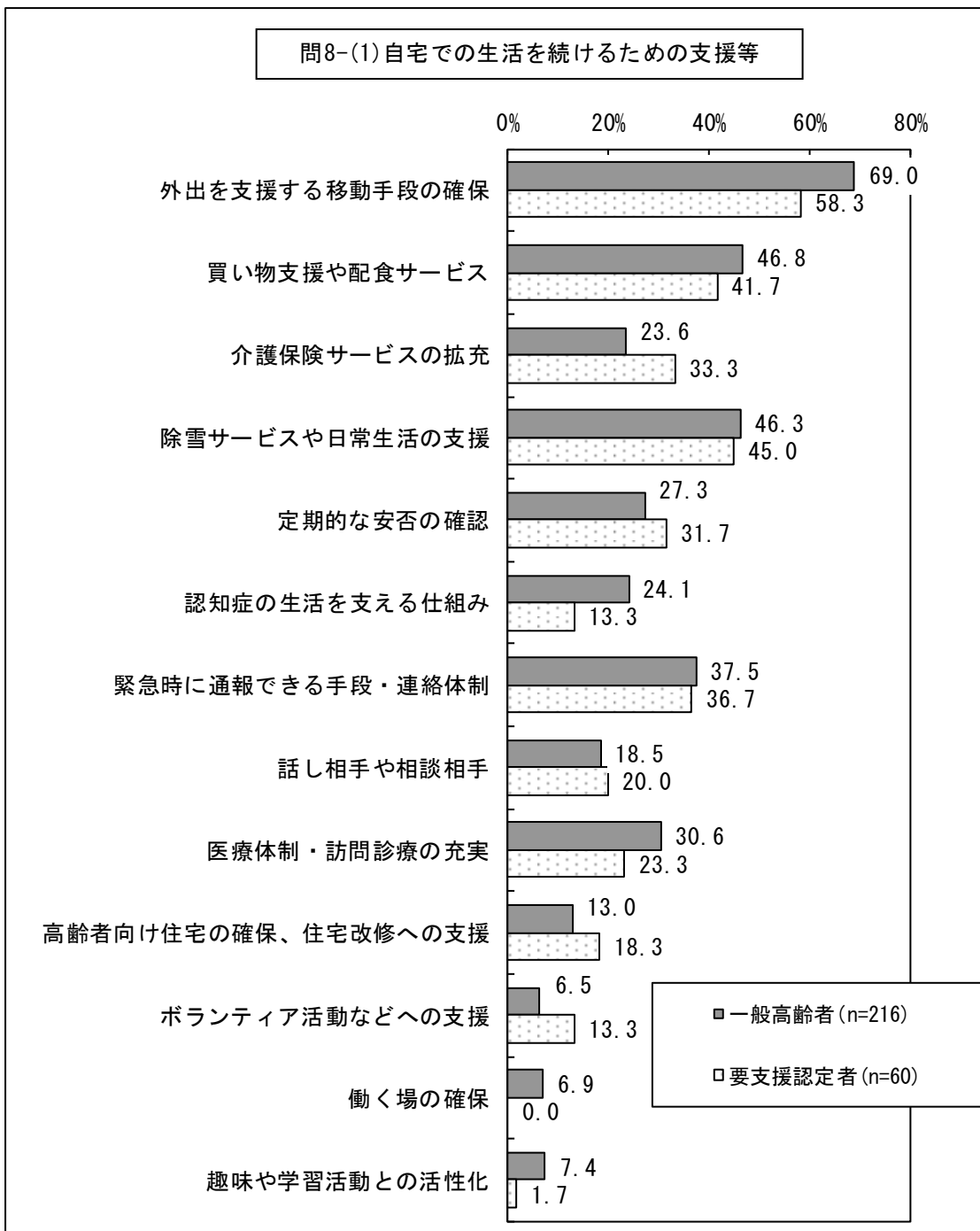
要支援認定者もこの3項目が上位となっています。



### 『その他』

- 3か月に1度くらいは保健婦さんが来訪

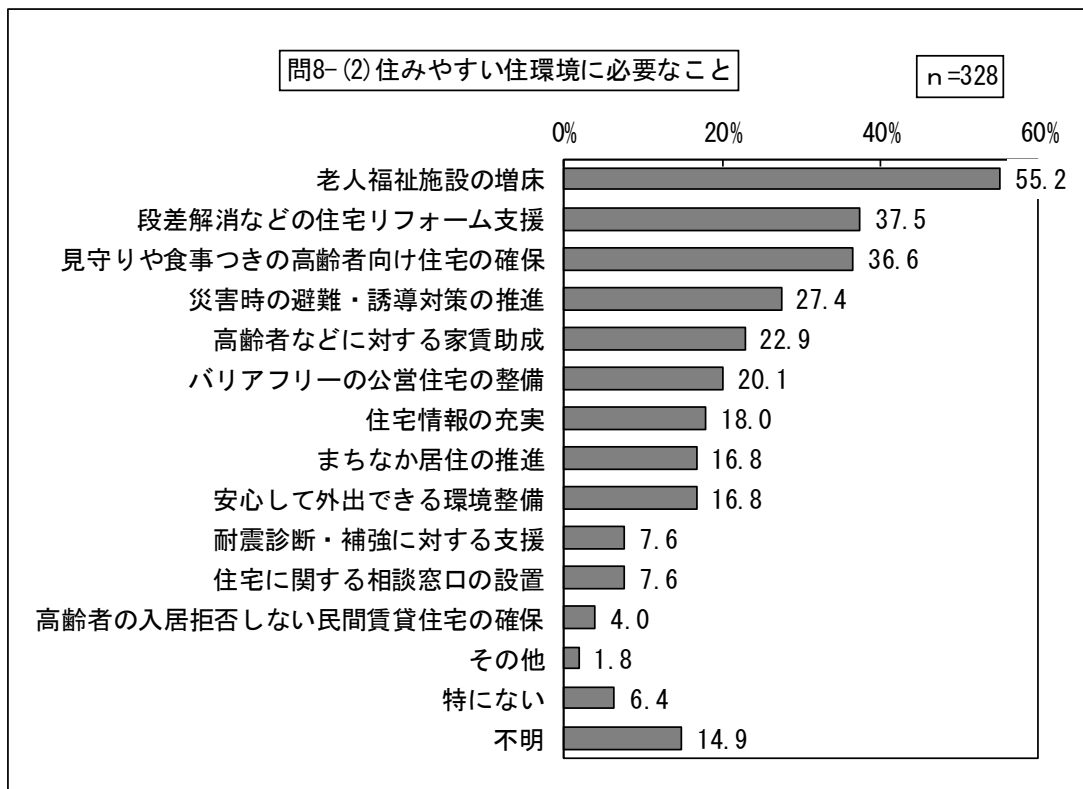
問8-(1) 自宅での生活を続けるための支援等



(2) 高齢者の住みやすい環境づくりとして、特に必要なのは何だと思われますか。

「老人福祉施設の増床」が55.2%で半数を超え、施設入所の意向が高くなっています。一方、「段差解消などの住宅リフォームへの支援」を求める人も37.5%となっており、(6)の設問では自宅で住み続けることへの希望が高くなっていますが、このような意識を反映しているものと思われます。

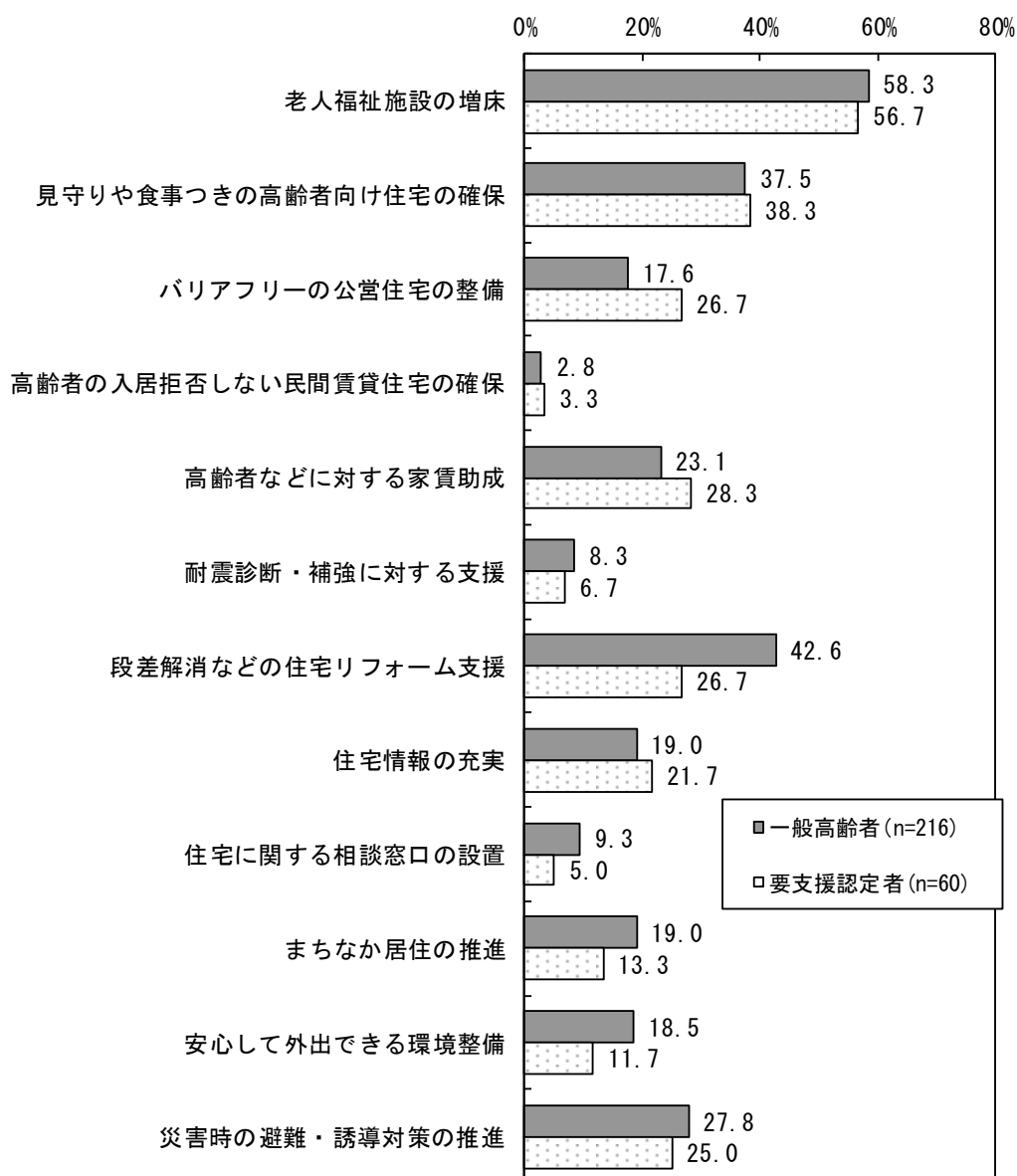
要支援認定者は、「老人福祉施設の増床」(56.7%)に次いで、「見守りや食事つきの高齢者向け住宅の確保」(38.3%)が続きます。



『その他』

- 全部必要だと思う
- 思いやり
- 買物、通院の定期バスの運行、配食、買物代行（業）の設立
- 施設ばかり増えても働く人が不足している
- ゴミ置場が遠く困っている。歩道の段差解決

問8-(2)住みやすい住環境に必要なこと



(3) あなたは介護予防について関心がありますか。

全体でみると、「非常に関心がある」(29%)と「やや関心がある」(44%)の合計は73%となっており、要支援認定者は70%です。

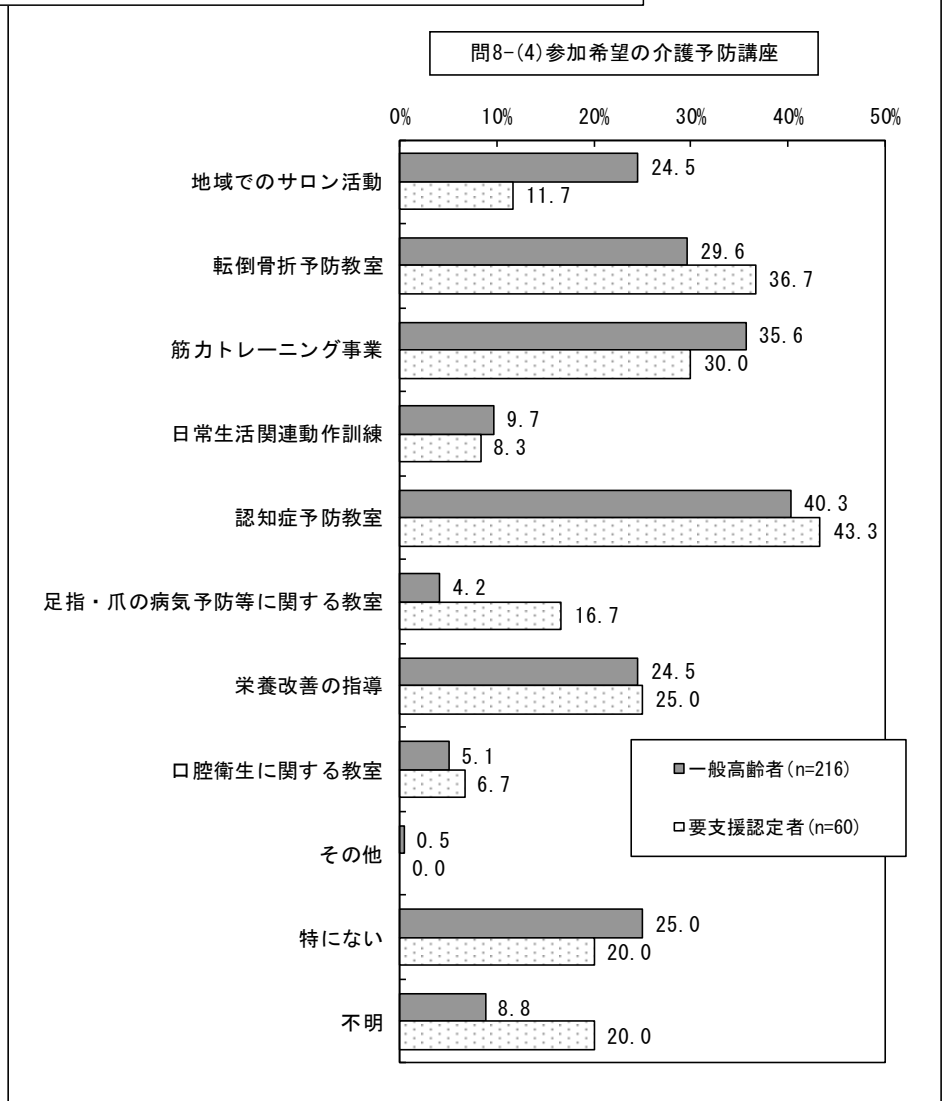
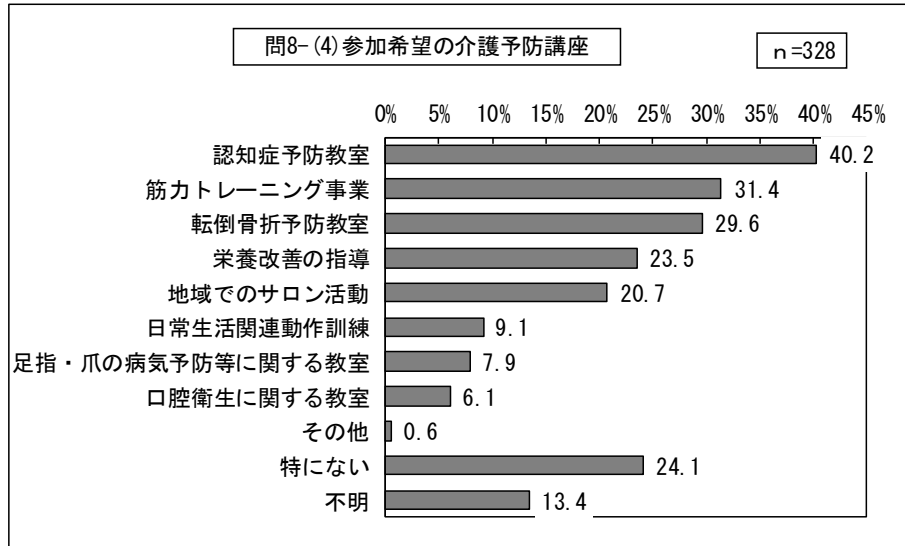
男女年齢別でみると、男女とも、75歳未満では「関心がある」割合が高くなっています。

		問8-(3)介護予防への関心(%)						
		非常に 関心がある	やや関 心がある	あまり 関心がない	まった く関心 がない	わから ない	不明	
全体		29	44	8	8	10	0	n 328
一般高齢者		26	50	8	8	7	0	216
要支援認定者		37	33	7	13	10	0	60
男-75歳未満		23	60	12	0	2	4	84
男-75~85歳未満		30	45	7	11	7	0	56
男-85歳以上		18	50	5	9	18	0	22
女-75歳未満		35	47	6	10	0	2	51
女-75~85歳未満		35	27	9	11	18	0	66
女-85歳以上		35	30	9	17	9	0	23

(4) あなたが介護予防のために参加したいと思う講座は、どのようなものですか。

全体で見ると、「認知症予防教室」が40.2%で第1位、次いで「筋力トレーニング事業」(31.4%)、「転倒骨折予防教室」(29.6%)が続きます。

要支援認定者は「認知症予防教室」(43.3%)が第1位、次いで、「転倒骨折予防教室」(36.7%)、「筋力トレーニング事業」(30.0%)が続きます。

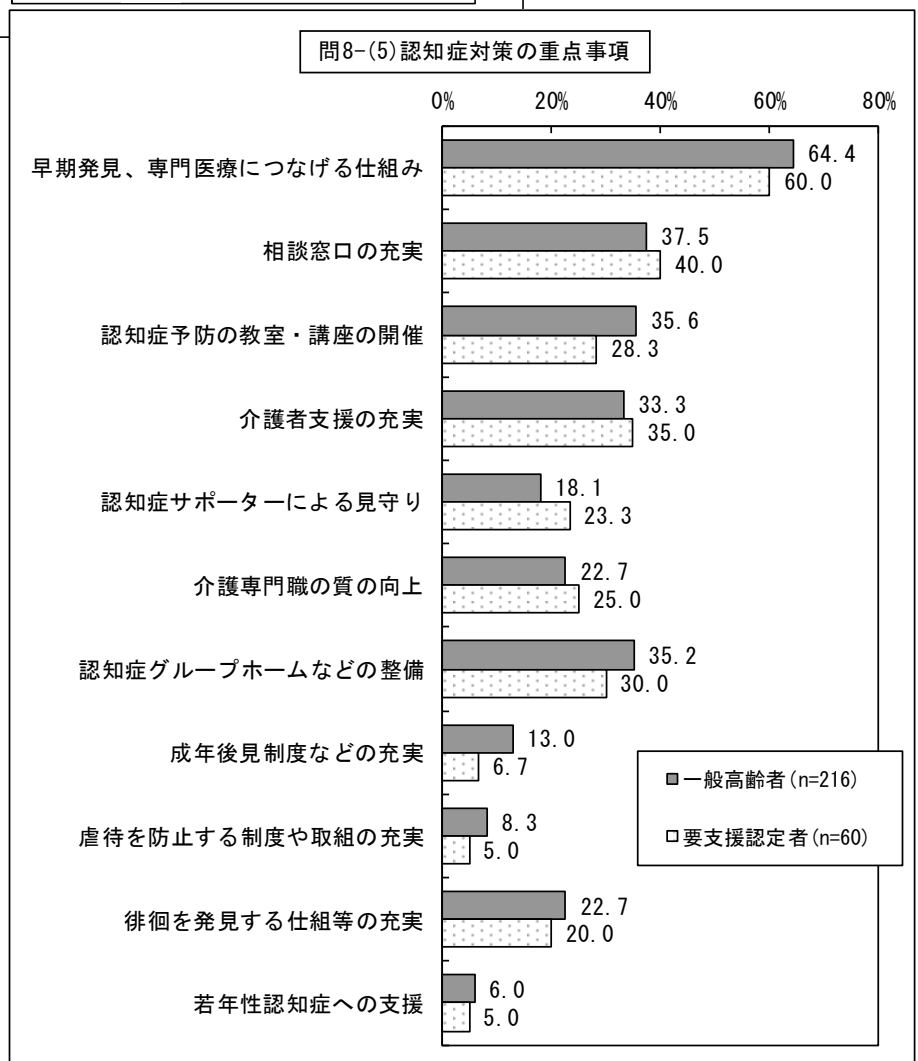
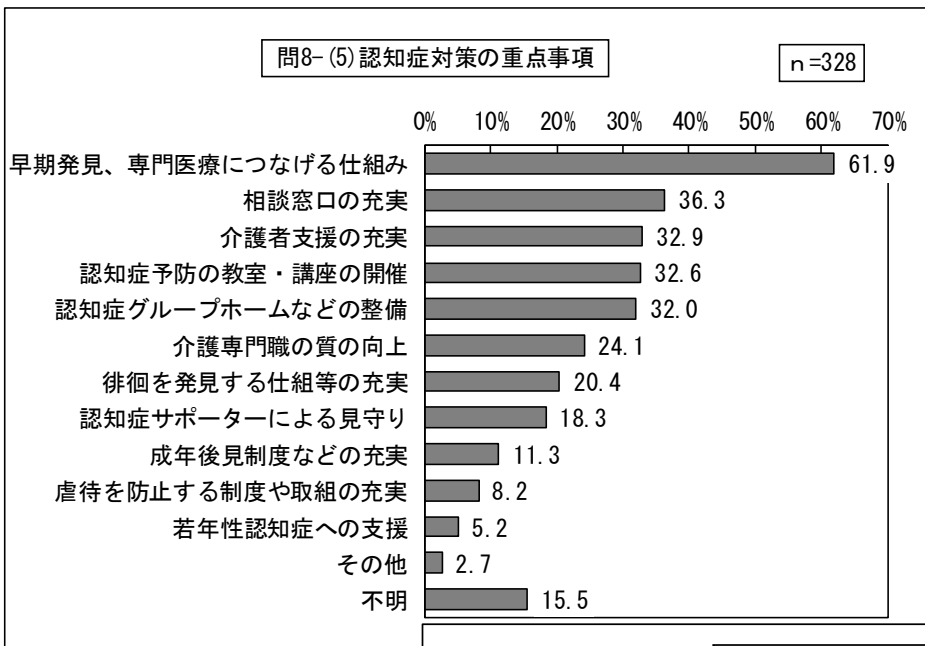


『その他』

- そもそも本人が外に出る気がない

(5) 認知症対策を進めていく上で、どのようなことに重点を置くべきだと思いますか。

全体で見ると、61.9%が「早期発見、専門医療につなげる仕組み」を重要と考えています。  
要支援認定者も、ほぼ全体と同じ傾向となっています。



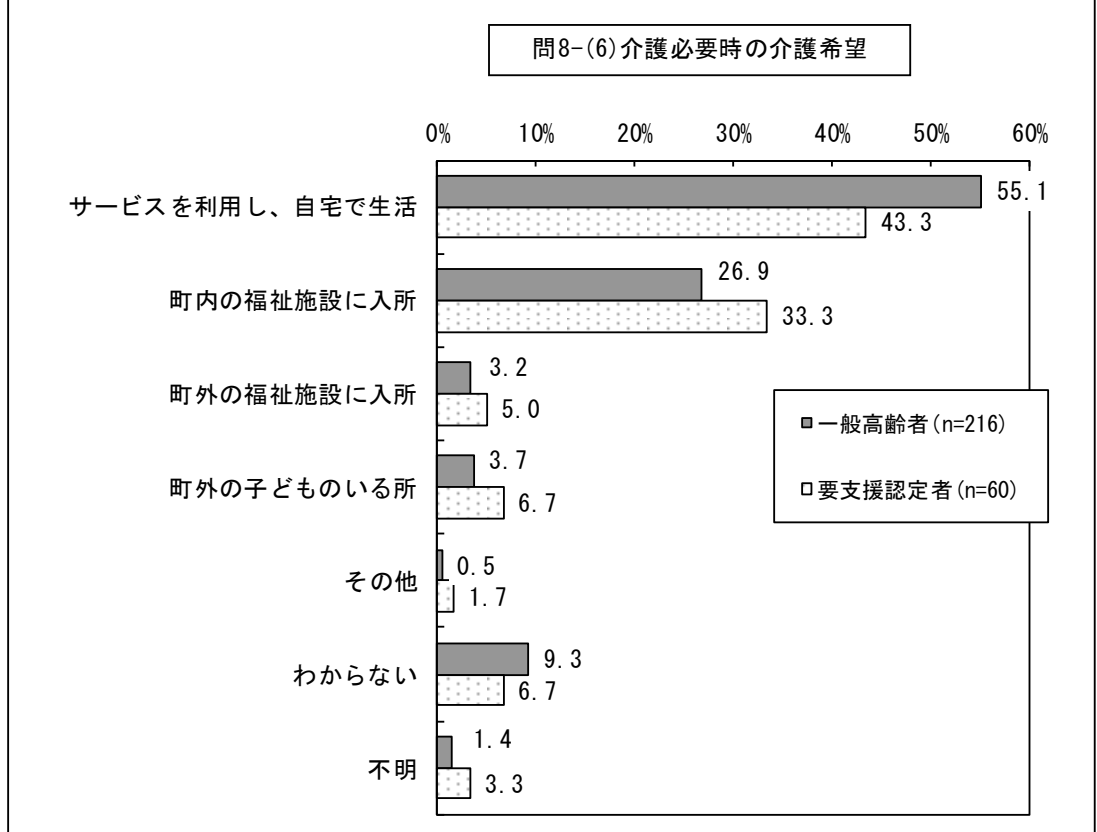
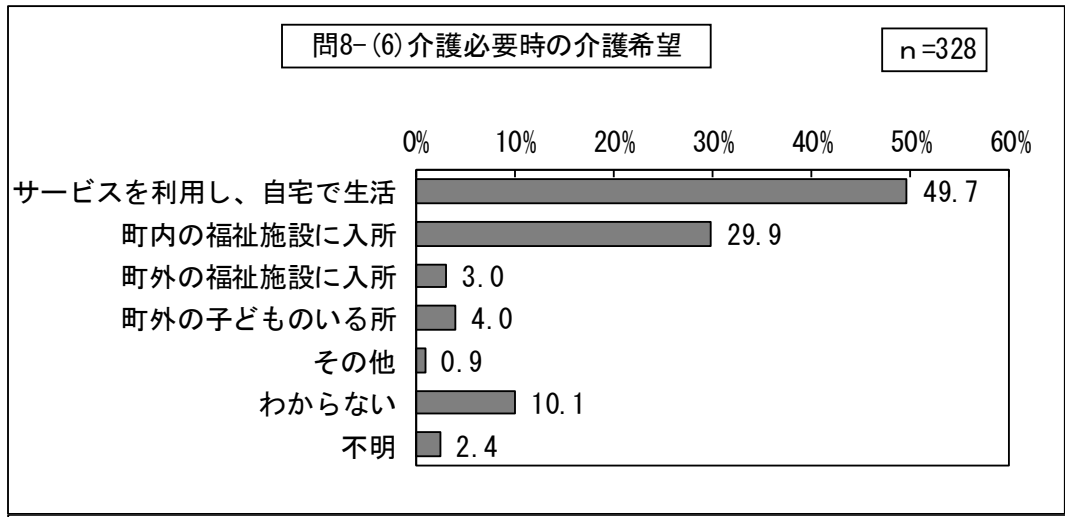
『その他』

- 認知症を予防したい

(6) もし自分に介護が必要な状態になったらどのような介護を希望しますか。

全体で見ると、半数近い49.7%が「介護保険制度で利用できるサービスを利用しながら、自宅で生活したい」と希望しており、次いで「町内の福祉施設に入所したい」が29.9%が続いています。

介護認定別で見ると、要支援認定者も全体と傾向は同じですが、「町内の福祉施設に入所したい」(33.3%)との希望は、一般高齢者(26.9%)より高くなっています。



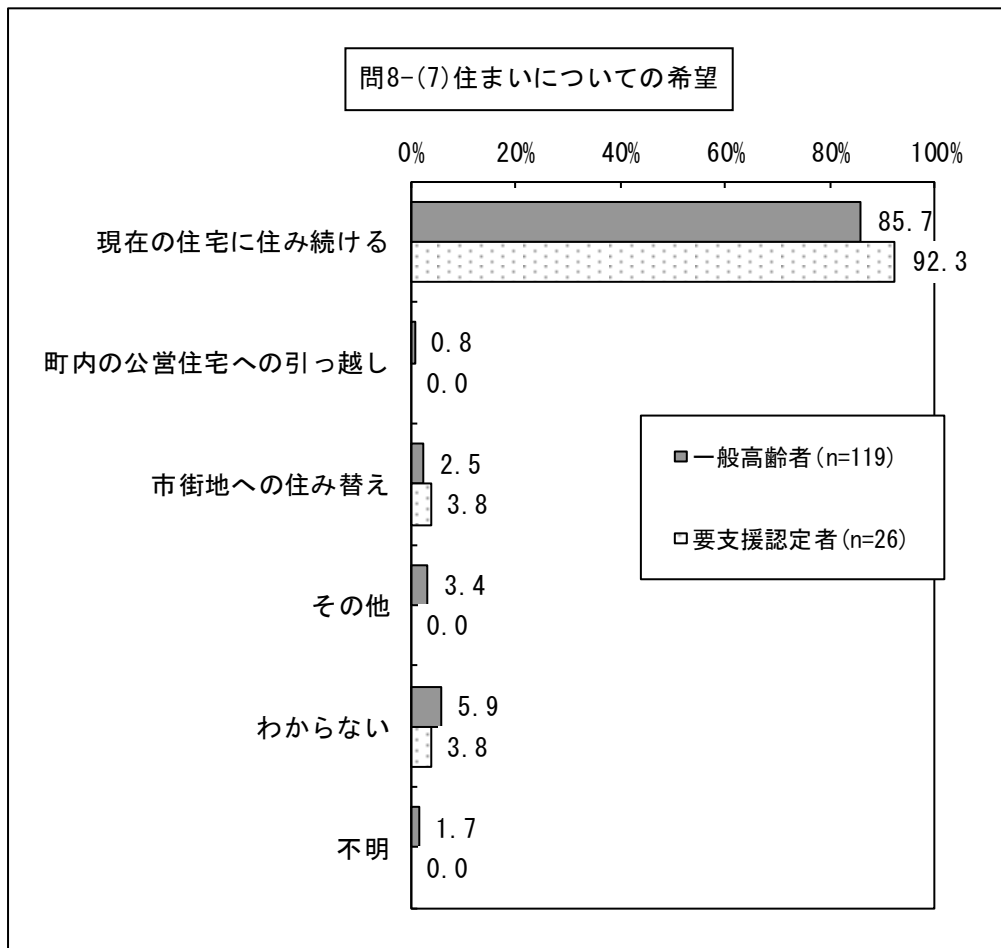
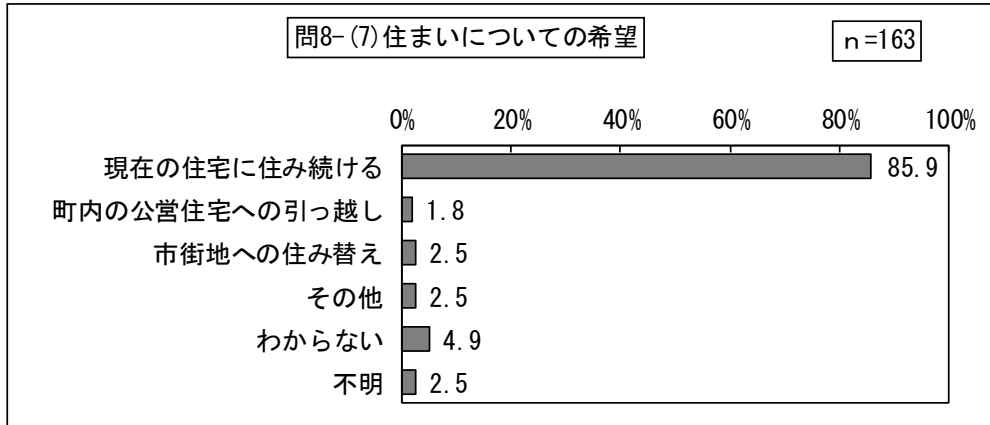
『その他』

- どこでも福祉施設でプロにお願いしたい
- できればここに住みたい



(7) お住まいについての今後の予定をお聞かせください。

介護が必要になった時に自宅での生活を希望している人（163人）の住まいの予定は、「現在の住宅にずっと住み続ける予定」が85.9%を占めており、一般高齢者と要支援認定者の間に大きな差はありません。



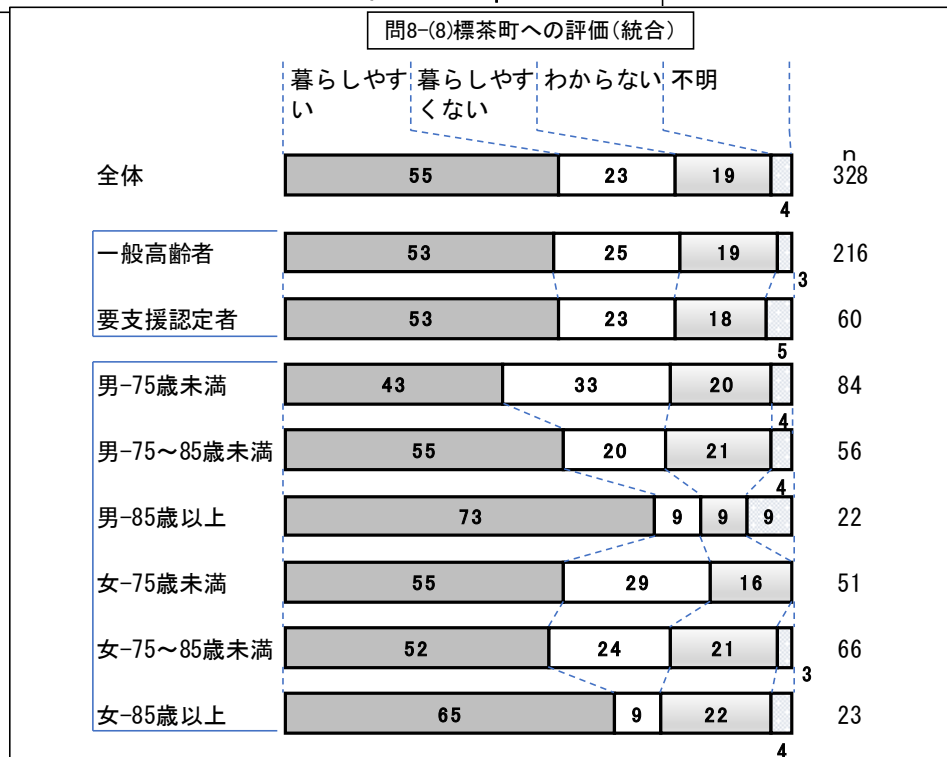
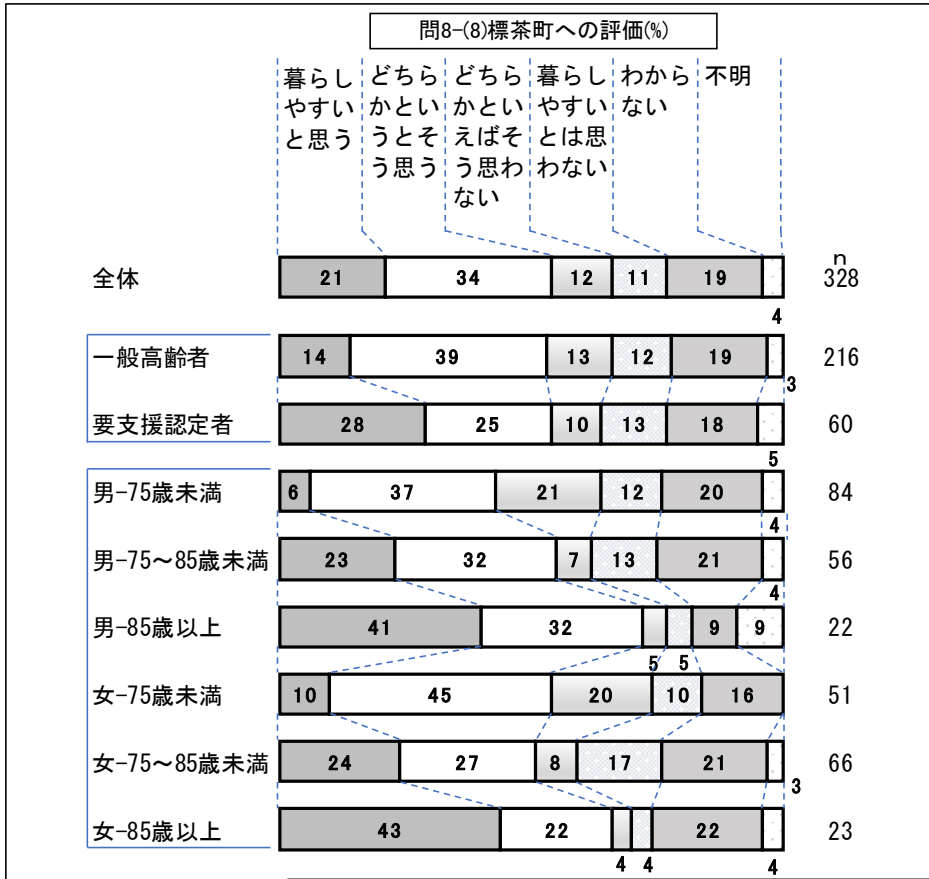
『その他』

- 認知症にならないようにと思うがなったら施設に入所希望
- 町外の施設に行く予定
- 現在の住宅で10年ぐらい住みたい
- 公共交通文化利便性の高い都市部への転居
- 公住の建て替えによる立ち退きにあっている
- 軽費老人ホーム等

(8) あなたは、標茶町が高齢者にとって暮らしやすいまちだと思いますか。

全体でみると、「暮らしやすいと思う」(21%)と「どちらかといえばそう思う」(34%)の合計は55%となっており、要支援認定者でその割合は53%で大きな差はないのですが、「暮らしやすい」割合は、要支援認定者が一般高齢者(14%)の倍の28%と高くなっています。

男女年齢別では、「暮らしやすいと思う」割合は男女間に大きな差はなく、年齢が上がるほど高くなっています。男女とも、85歳以上では「暮らしやすい」割合が40%を超えています

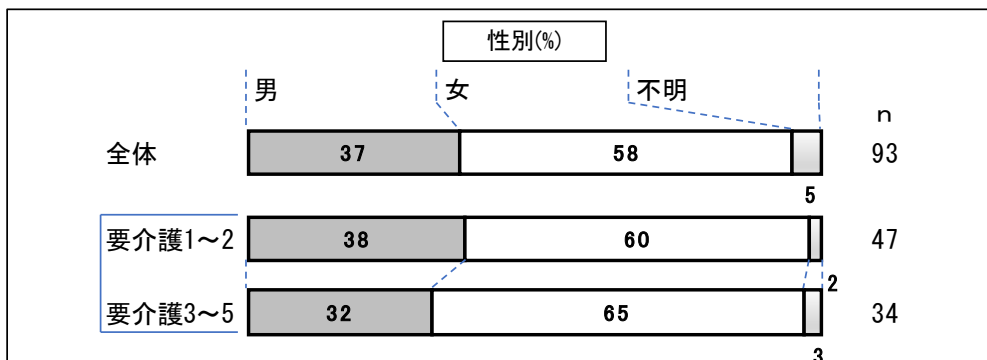
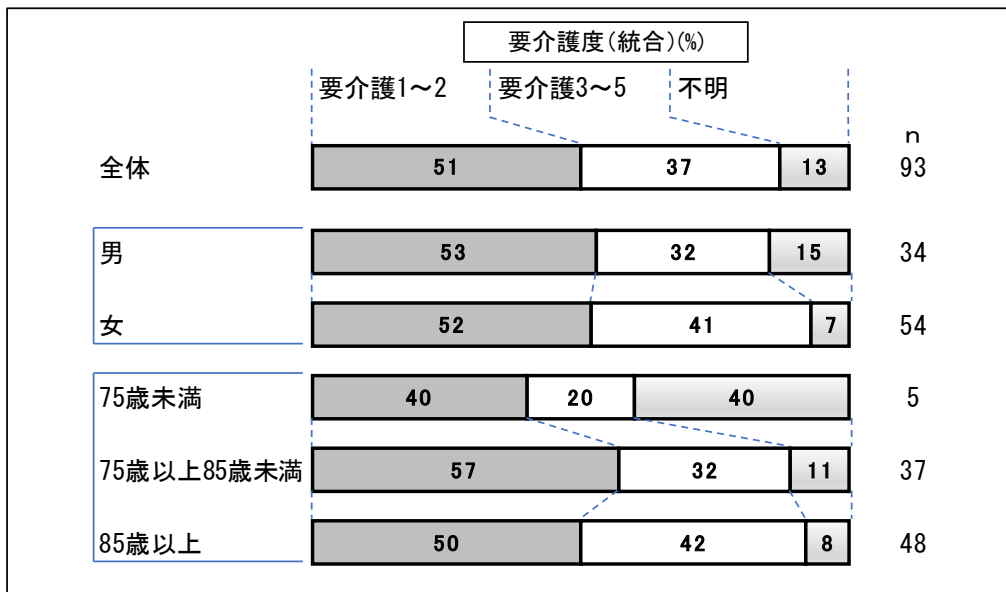
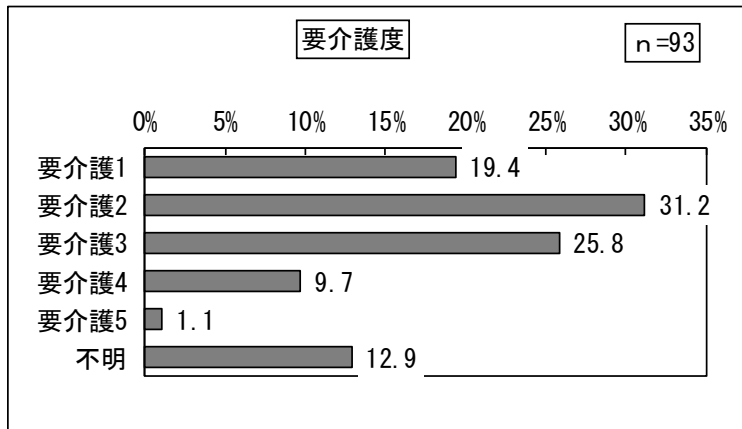


### Ⅲ. 在宅介護実態調査

#### 回答者について

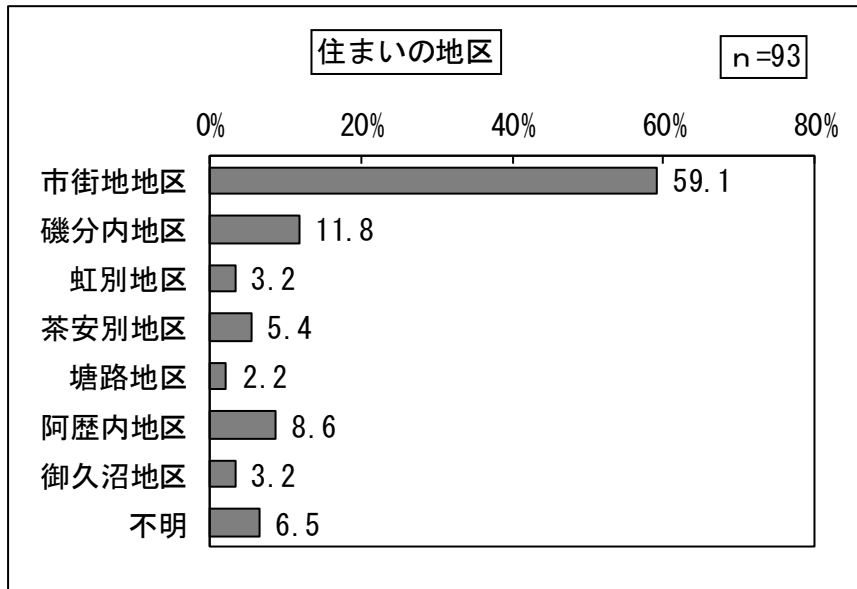
##### (1) 要介護度

全体でみると、軽度の人が多く「要介護1~2」が51%、「要介護3~5」は37%です。



## (2) お住まいの地区

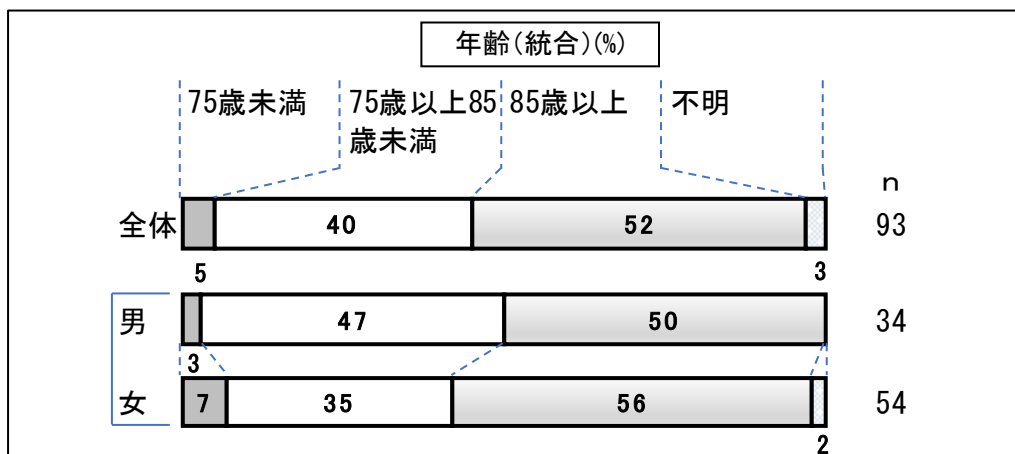
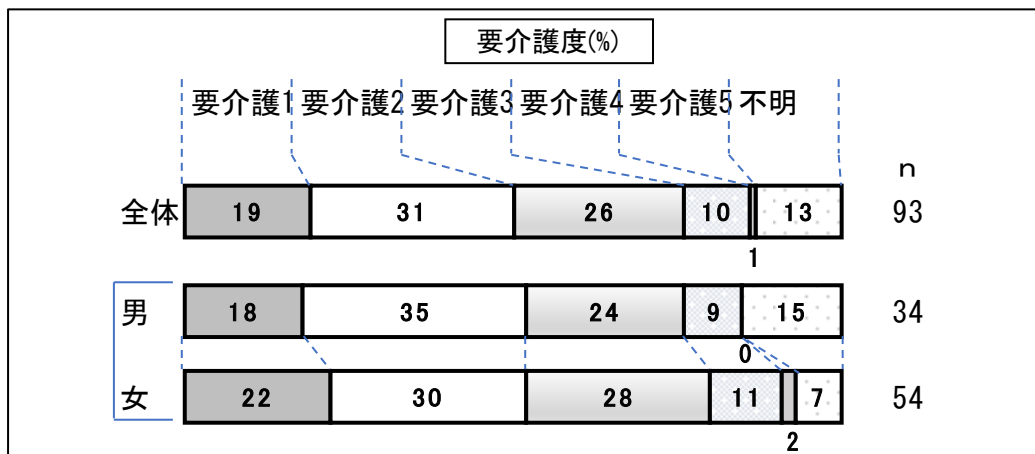
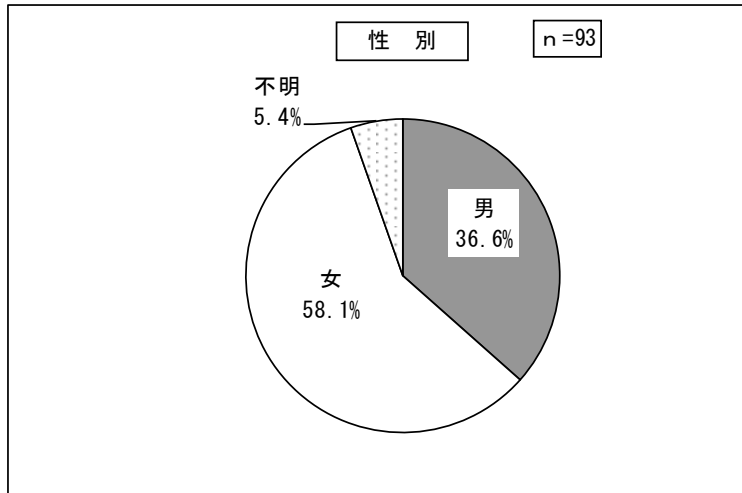
市街地地区が59.1%を占めます。



### (3) 性別

回答者の性別は、「男性」が36.6%、「女性」が58.1%です。

男女別の要介護の割合に大きな違いはありませんが、年齢構成をみると、女性の場合、85歳以上割合が56%と男性より6ポイント高くなっています。



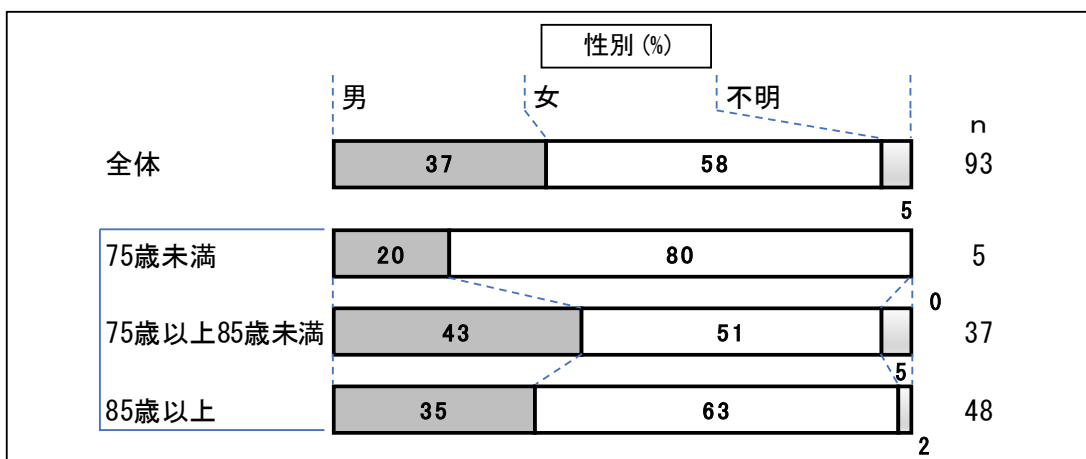
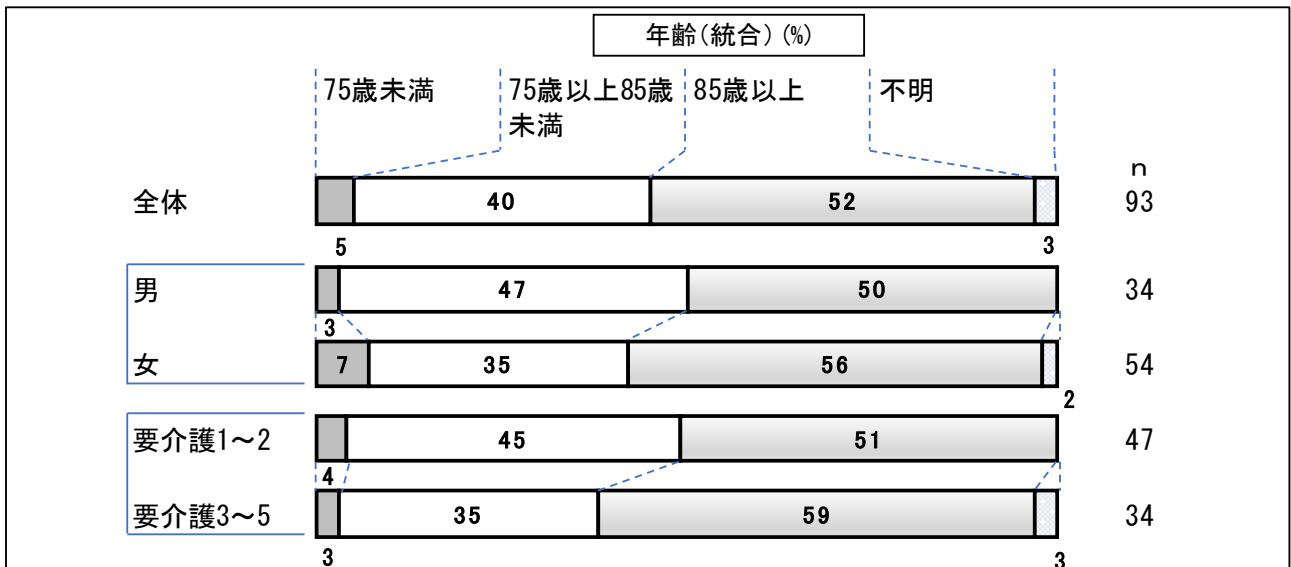
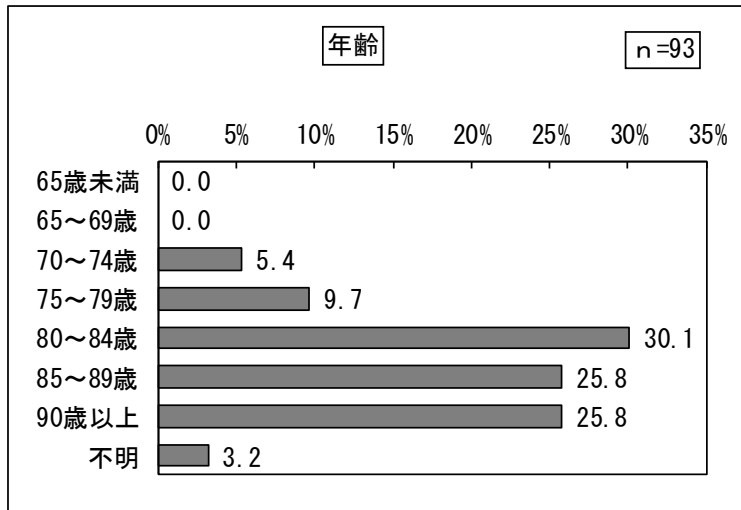
(4) 年齢

回答者に70歳未満の人はいませんでした。

「75歳未満」は5人しかいません。したがって、この「75歳未満」の割合については他の年齢階級と比較するときは注意が必要です。

最も多い年齢階級は「80～84歳」で、30.1%です。

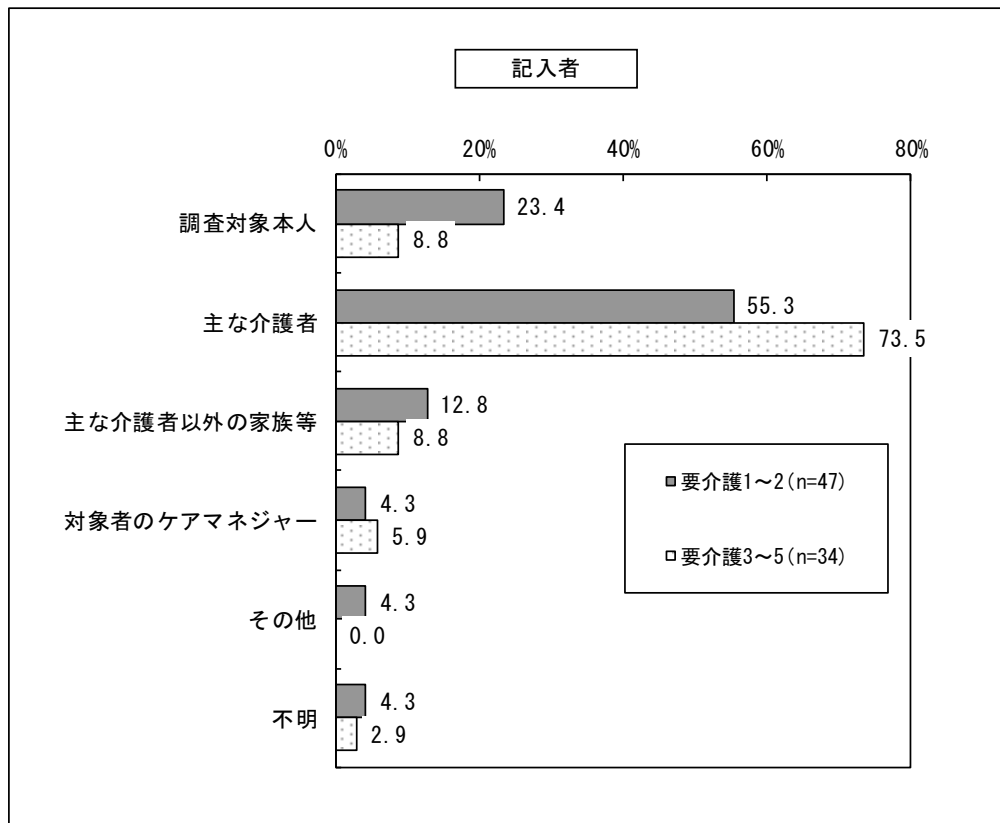
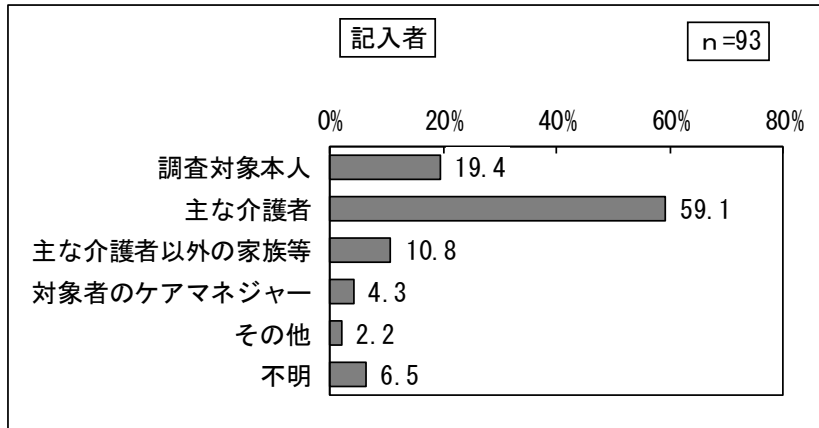
介護度別にみると、要介護1～2の「85歳以上」は51%で、要介護3～5のそれは59%です。



(5) 記入者

アンケートの記入者は「主な介護者となっている家族・親族」が59.1%で最も多く、「調査対象者本人」は19.4%にとどまっています。

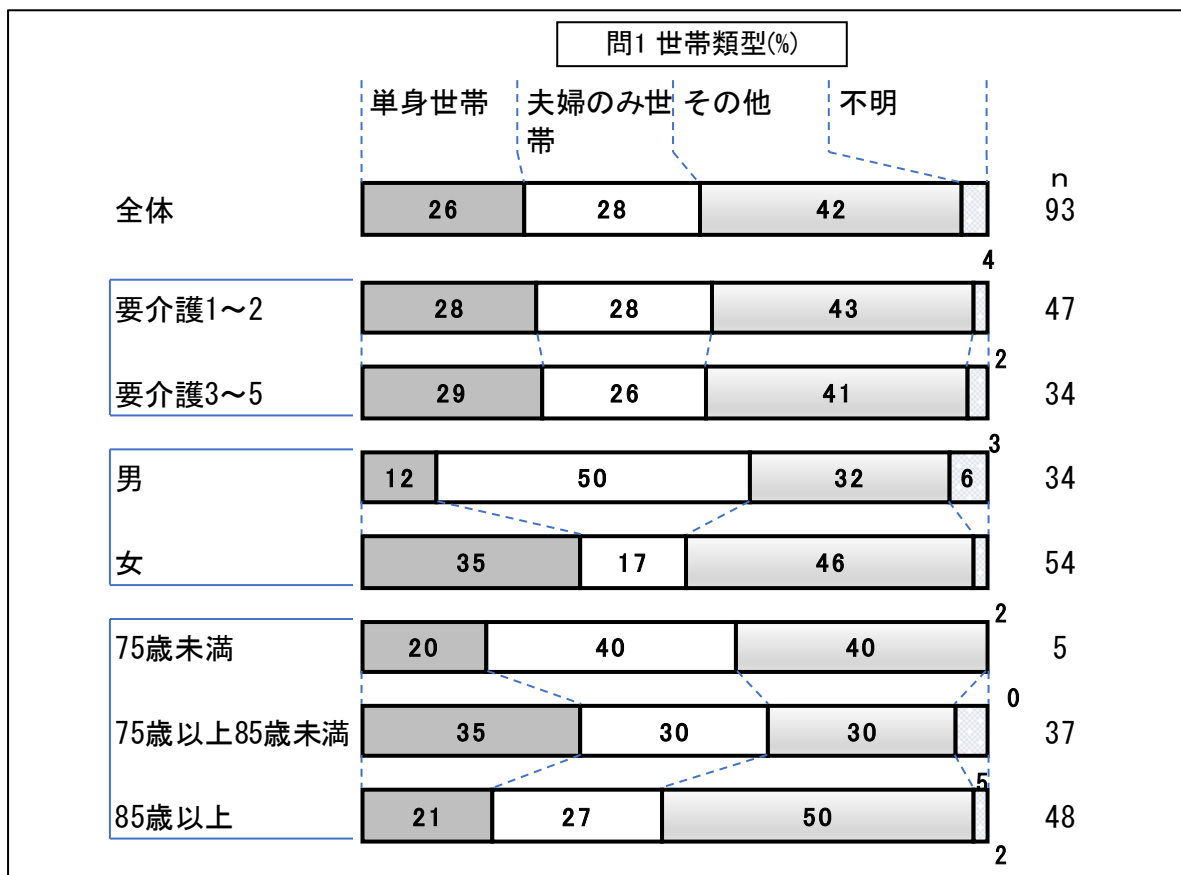
要介護度別で見ると、要介護3～5では、「主な介護者となっている家族・親族」が73.5%、「調査対象者本人」は8.8%です。



## A票 あて名のご本人について

問1 世帯類型について、ご回答ください。

全体で見ると、「その他」の割合が42%で最も高くなっており、家族同居世帯が多いと考えられます。  
 要介護度別での違いはほとんどありません。  
 男女別で見ると、男性は「単身世帯」が12%で、女性のそれは男性の3倍で35%です。  
 年齢別で見ると、75歳以上85歳未満で「単身世帯」の割合が高くなっています。

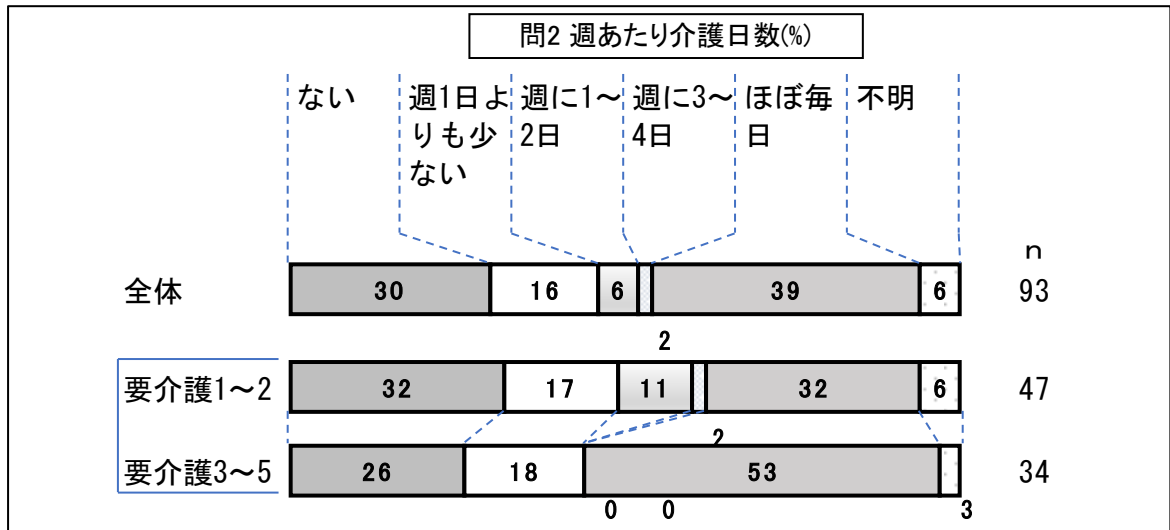




問2 ご家族やご親族の方からの介護は、週にどのくらいありますか（同居していない子どもや親族等からの介護を含む）。

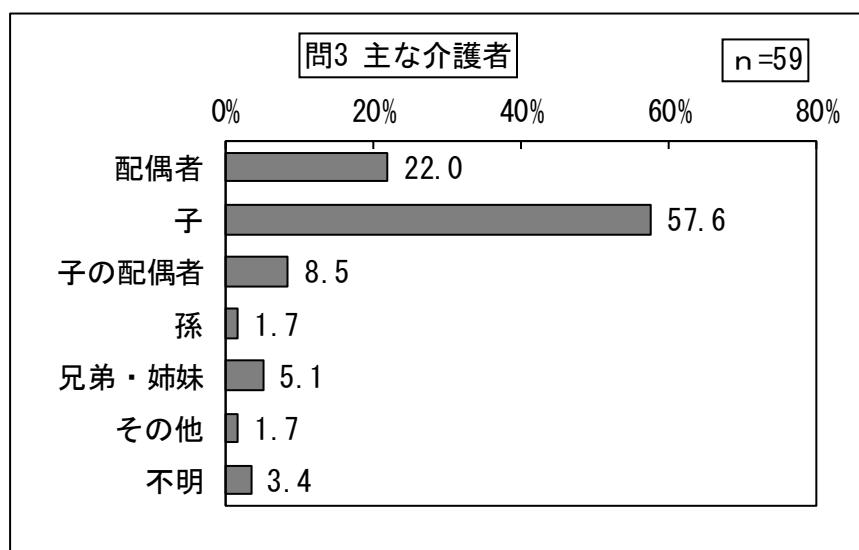
全体でみると、「ほぼ毎日ある」が39%で最も高く、次いで「ない」(30%)、「週1日より少ない」(16%)「週に1～2日ある」(6%)と続いています。

要介護度別でみると、要介護3～5では「ほぼ毎日ある」が53%と要介護1～2より21ポイント高くなっています。



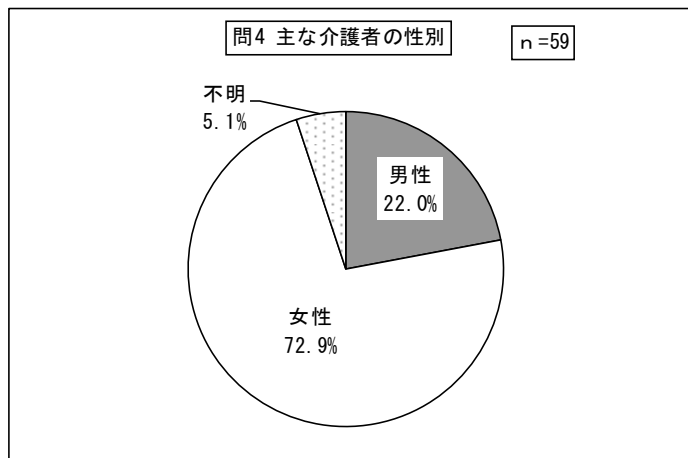
問3 主な介護者の方は、どなたですか。

問2で家族介護が週1日でもある人59人に聞きました。  
全体でみると、「子」が57.6%で、「配偶者」は22%です。



問4 主な介護者の方の性別について、ご回答ください。

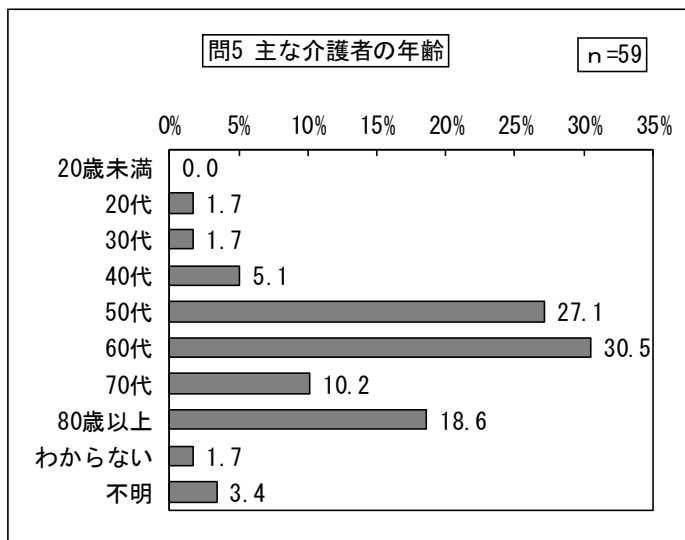
全体で見ると、「男性」は22.0%、「女性」は72.9%で、「男性」の3.5倍です。



問5 主な介護者の方の年齢について、ご回答ください。

主な介護者の年齢は「60代」が30.5%で最も高くなっていますが、「70代」(10.2%)と「80歳以上」(18.6%)の合計は28.8%で、70歳以上の介護者が30%近くになっています。

主な介護者が「配偶者」の場合は全員が70歳以上で、「子」の場合は「50代」「60代」が中心となっています。



主な介護者	合計	配偶者		子及び子の配偶者					孫	兄弟姉妹	その他
		70代	80歳以上	30代	40代	50代	60代	70代	20代	80歳以上	60代
男性	13	2			1	4	5	1			
女性	43	2	9	1	2	12	12	1	1	2	1
合計	56	4	9	1	3	16	17	2	1	2	1

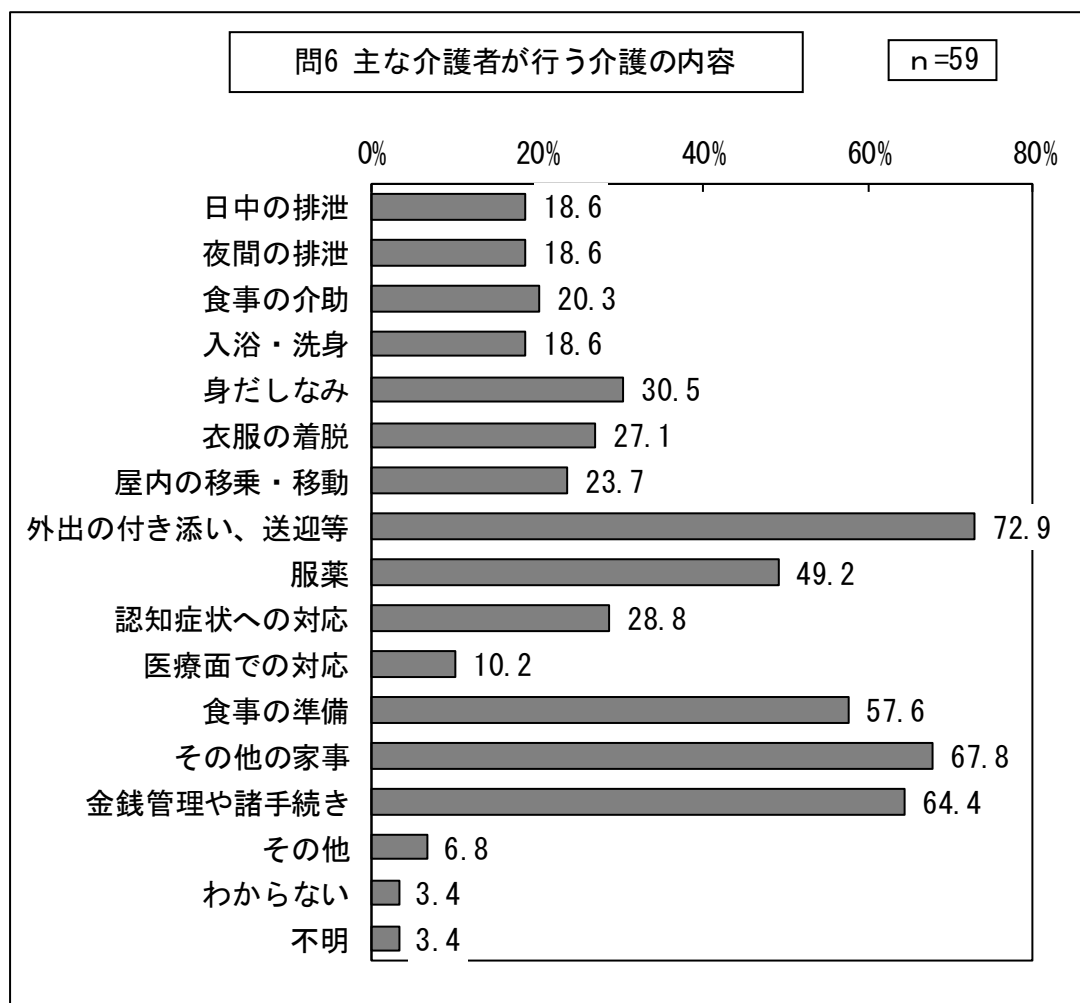
※ 性別等の不明者3人を除いた数

問6 現在、主な介護者の方が行っている介護等について、ご回答ください。

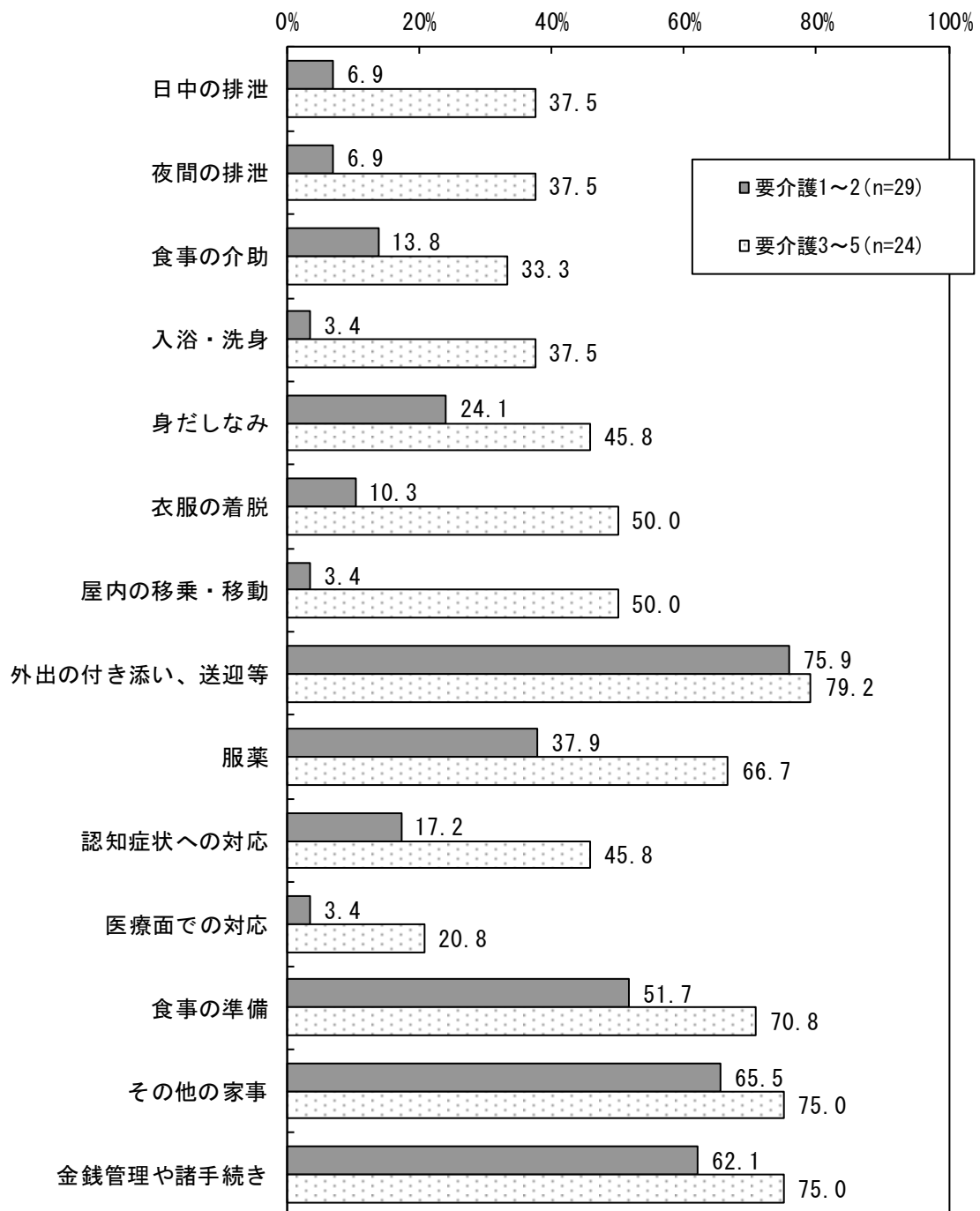
全体では、「外出の付き添い、送迎等」が72.9%です。

介護の内容は介護度別で大きく異なり、要介護3～5は「排泄」「衣服の着脱」「屋内の移乗、移動」などの身体介護を必要とする人が多くなっていますが、要介護1～2は「外出の付き添いや送迎等」を除いて、身体介護を必要とする人はさほど多くはありません。

「食事の準備」「その他の家事」「金銭管理や諸手続き」については、介護度に関係なく必要とする人が多くなっています。



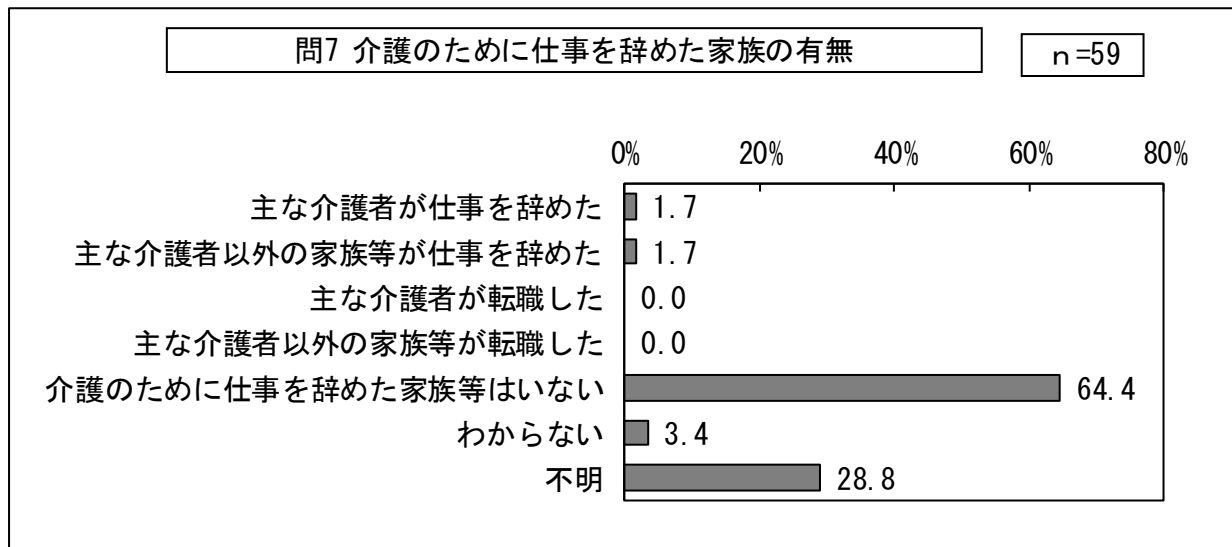
問6 主な介護者が行う介護の内容



問7 ご家族やご親族の中で、ご本人（あて名の方）の介護を主な理由として、過去1年の間に仕事を辞めた方はいますか（現在働いているかどうかや、現在の勤務形態は問いません）。

「介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない」が64.4%で、「主な介護者が仕事を辞めた（転職除く）」（1.7%）と「主な介護者以外の家族・親族が仕事を辞めた（転職除く）」（1.7%）の合計は3.4%となっています。

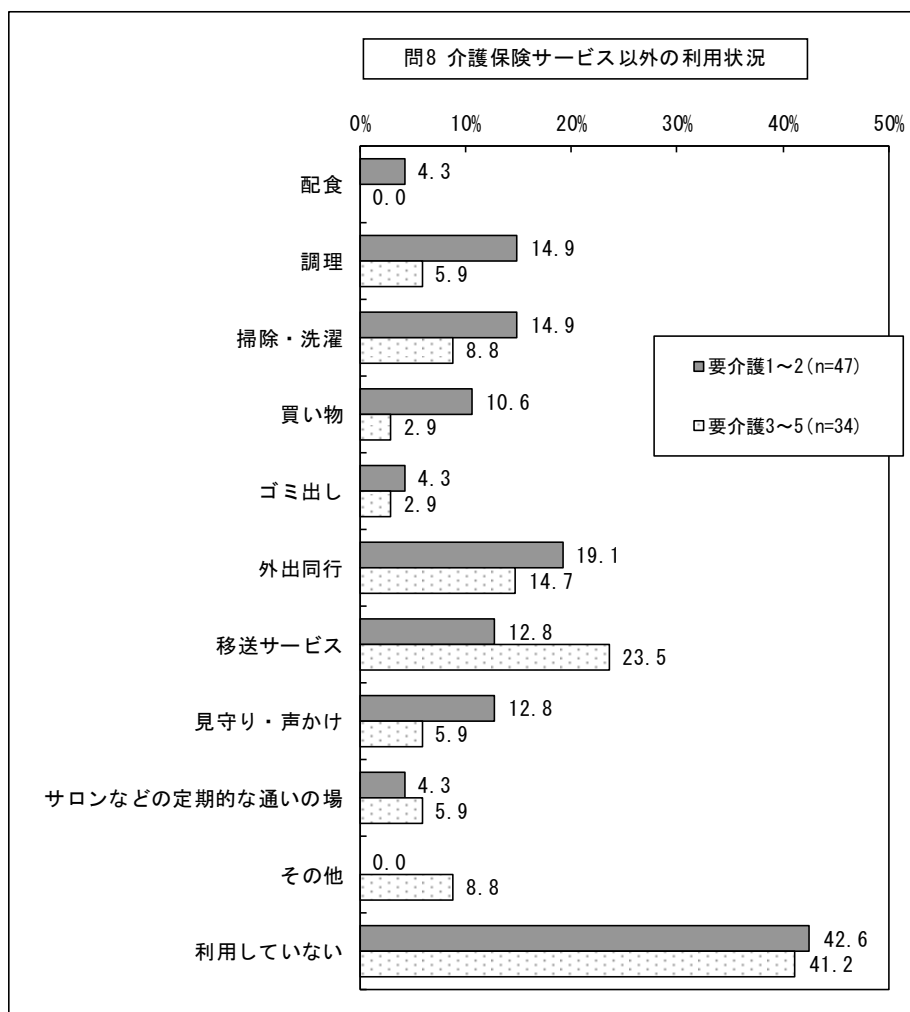
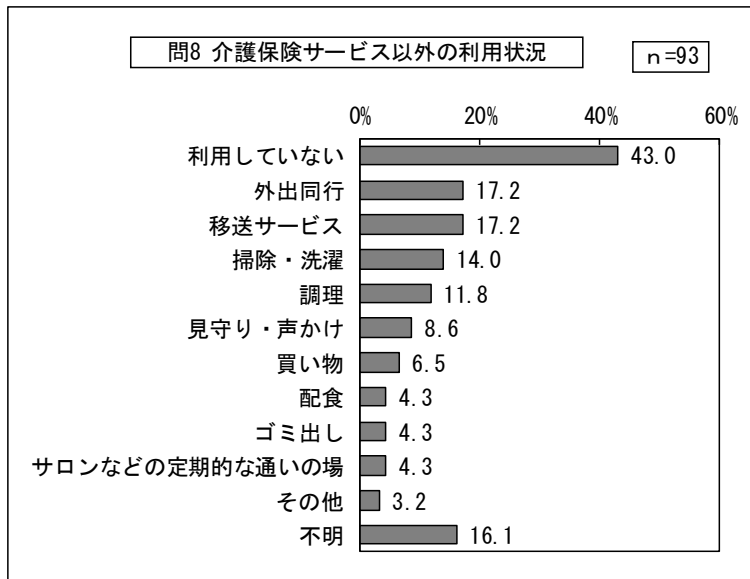
介護を理由として仕事を辞めたのは2人で、1人は「要介護4」、1人は「要介護1」の人を介護しています。2人とも、介護保険以外のサービスを利用していません。1人は介護保険サービスも利用していませんが、既に、施設等への入所申し込みをしています。



問8 現在、利用している「介護保険サービス以外」の支援・サービスについて、ご回答ください。

全体では、43%が利用していません。

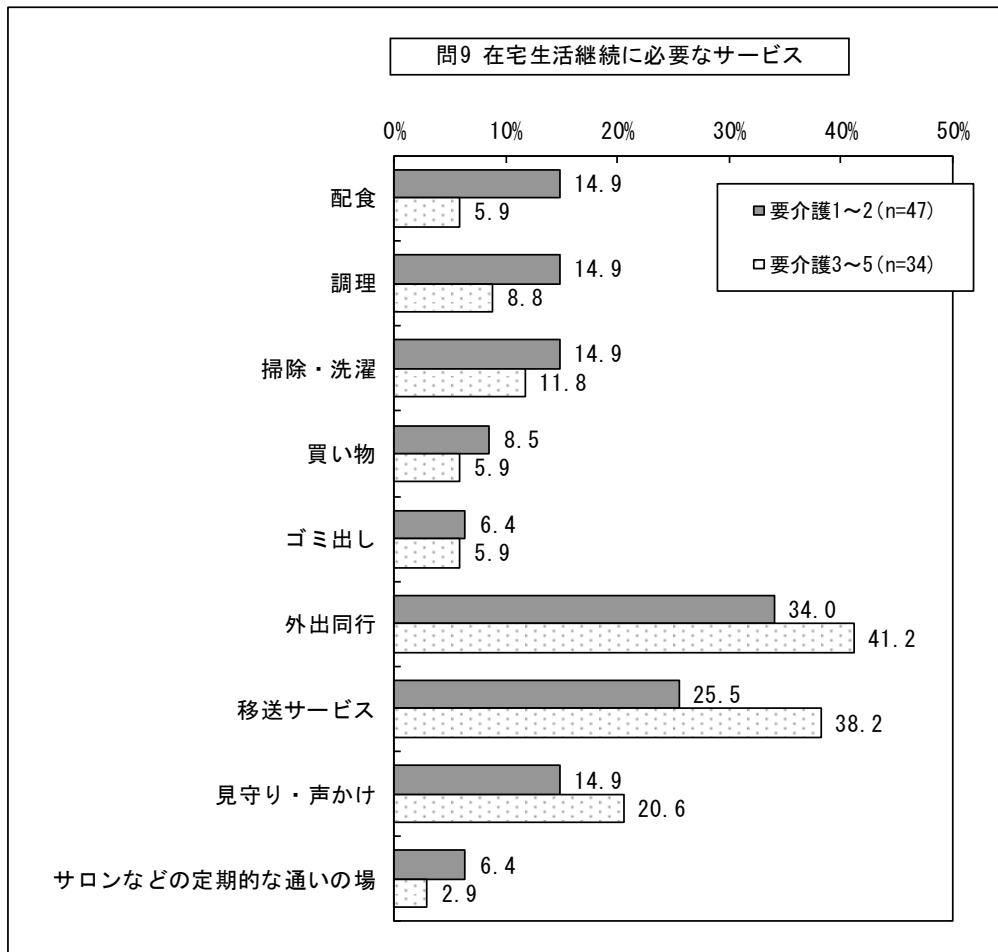
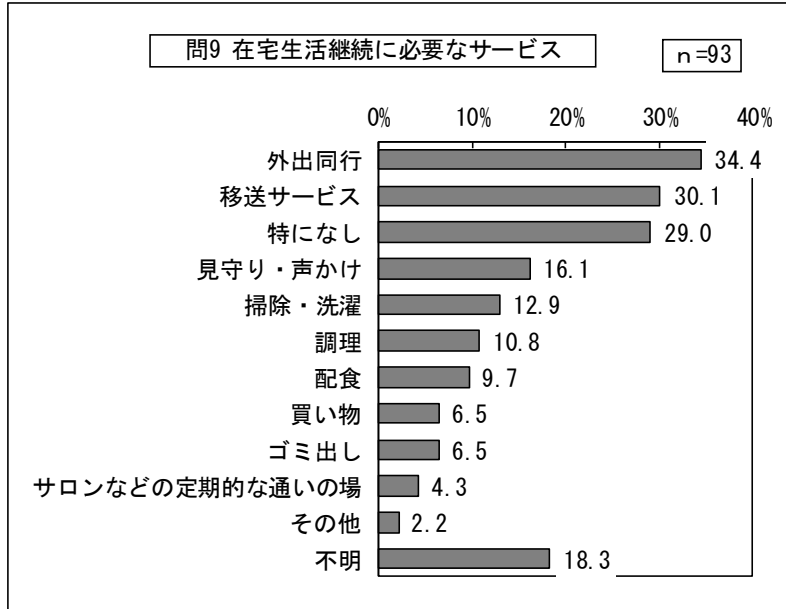
要介護3～5は「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」のサービス利用が高くなっています。



問9 今後の在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス（現在利用しているが、さらなる充実が必要と感じる支援・サービスを含む）について、ご回答ください。

要介護度別でみると、「外出同行」や「移送サービス」は要介護度に関係なく必要とする割合が高くなっていますが、「配食」、「調理」、「掃除・洗濯」、「買い物」、「サロンなどの定期的な通いの場」の割合は要介護1～2の方が、要介護3～5より高くなっています。

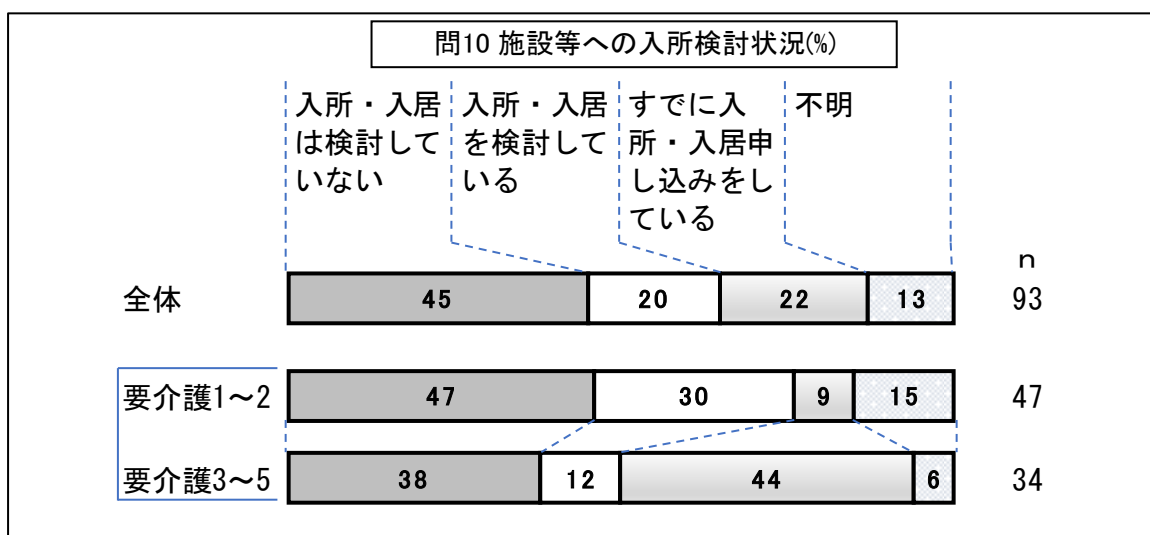
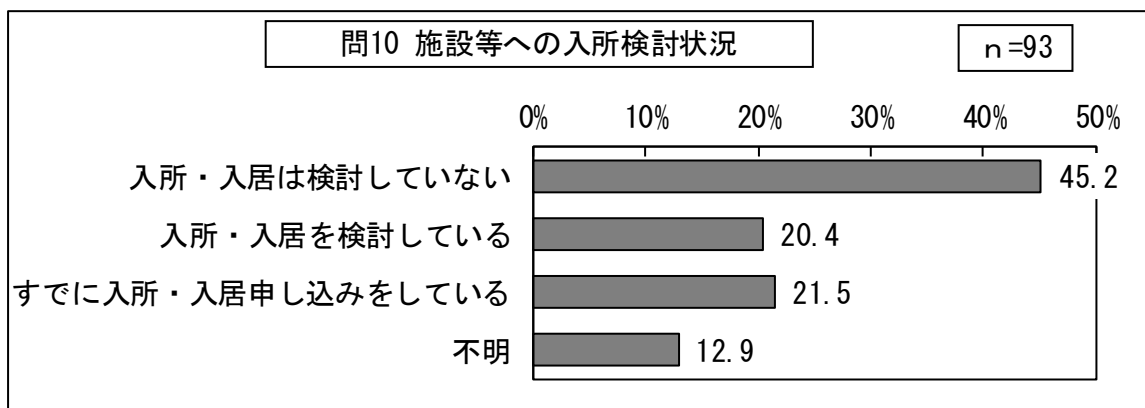
「見守り・声かけ」については、要介護3～5の方が必要とする割合は高くなっています。



問10 現時点での、施設等への入所・入居の検討状況について、ご回答ください。

全体で見ると、「入所・入居は検討していない」が45.2%で半数近くを占めており、「入所・入居を検討している」は20.4%、「すでに入所・入居申し込みをしている」は21.5%となっています。

要介護度別で見ると、要介護3～5は「入所・入居の申し込みをしている」割合が44%と高くなっています。

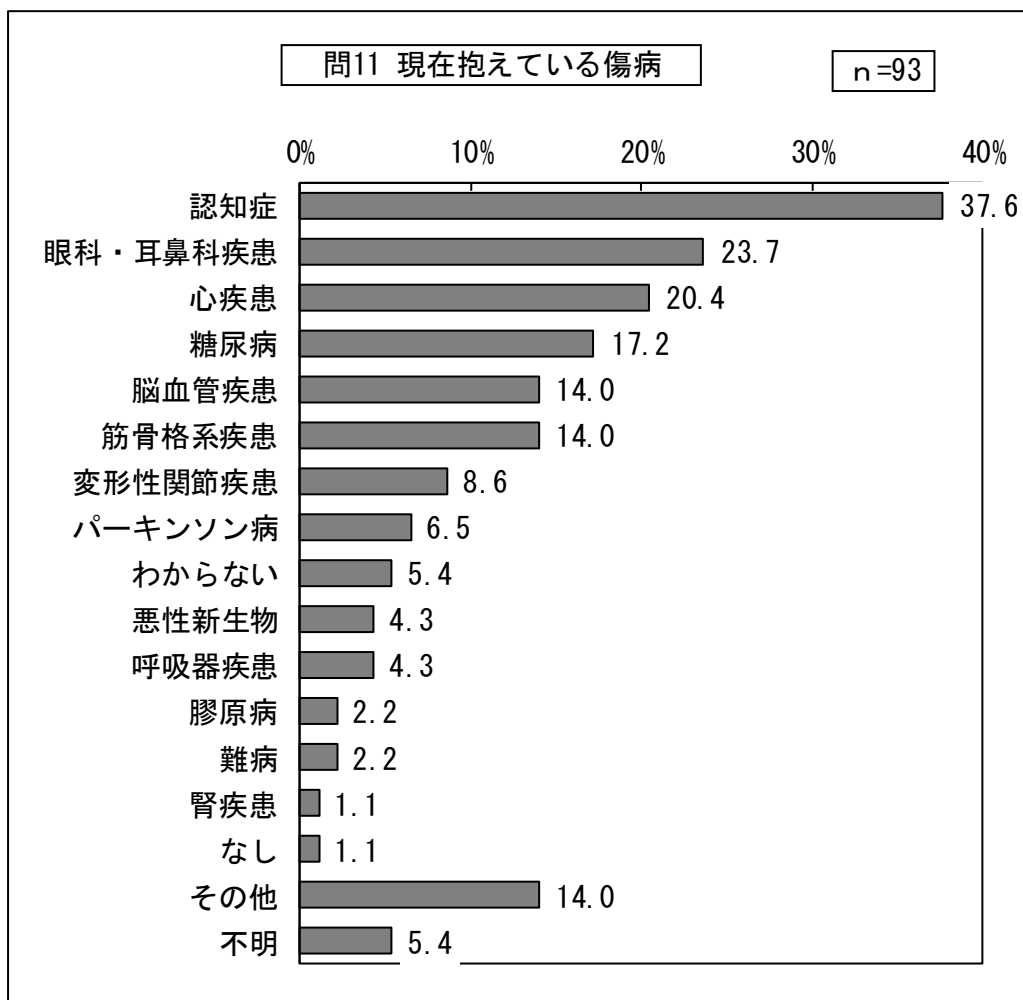




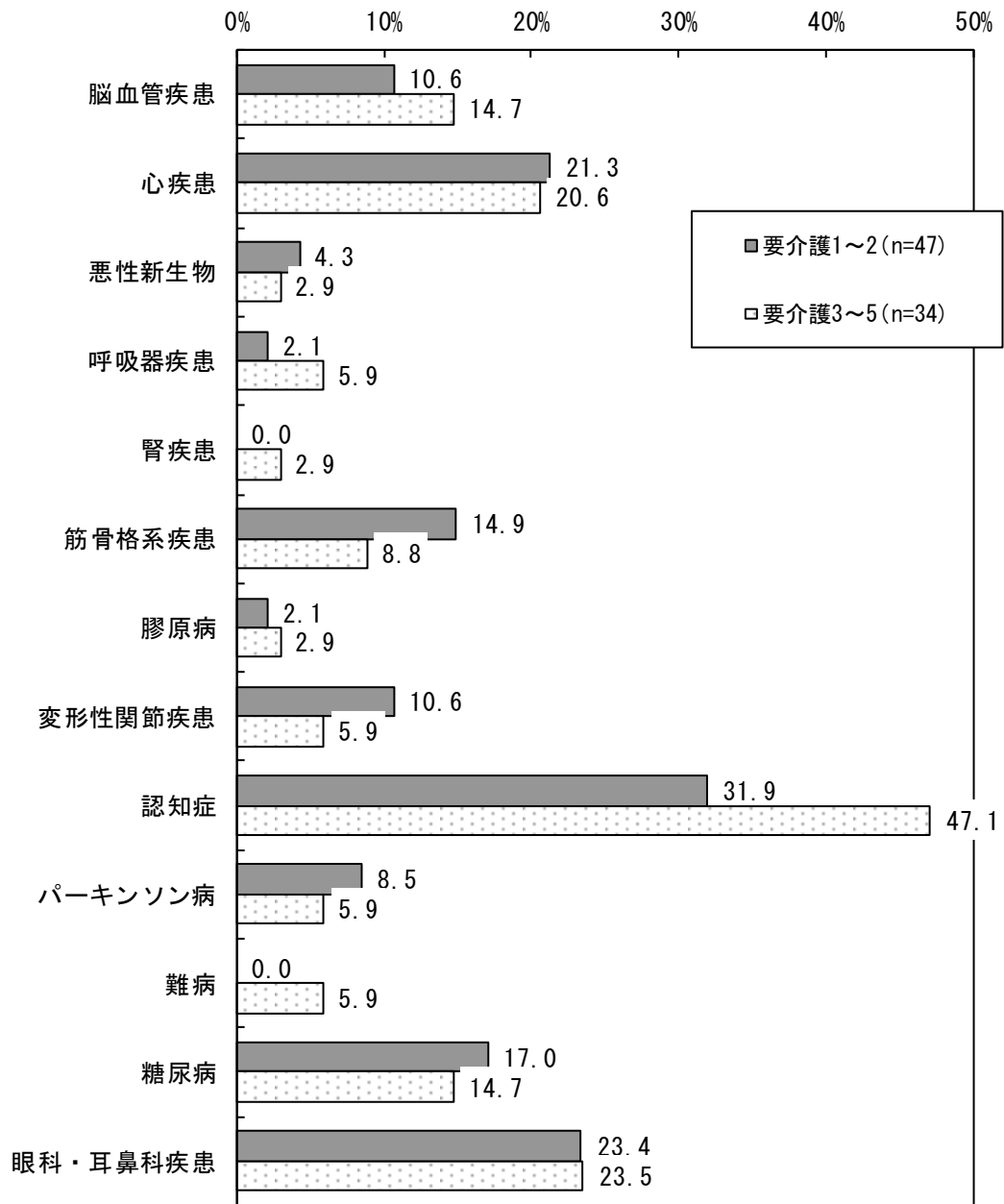
問11 ご本人（あて名の方）が、現在抱えている傷病について、ご回答ください。

全体で見ると、「認知症」（37.6%）、「眼科・耳鼻科疾患」（23.7%）、「心疾患」（20.4%）が上位となっています。

要介護度別でも、この上位3傷病は同じですが、「認知症」についてみると、要介護3～5は47.1%、要介護1～2は31.9%、その差は15.2ポイントとなっています。

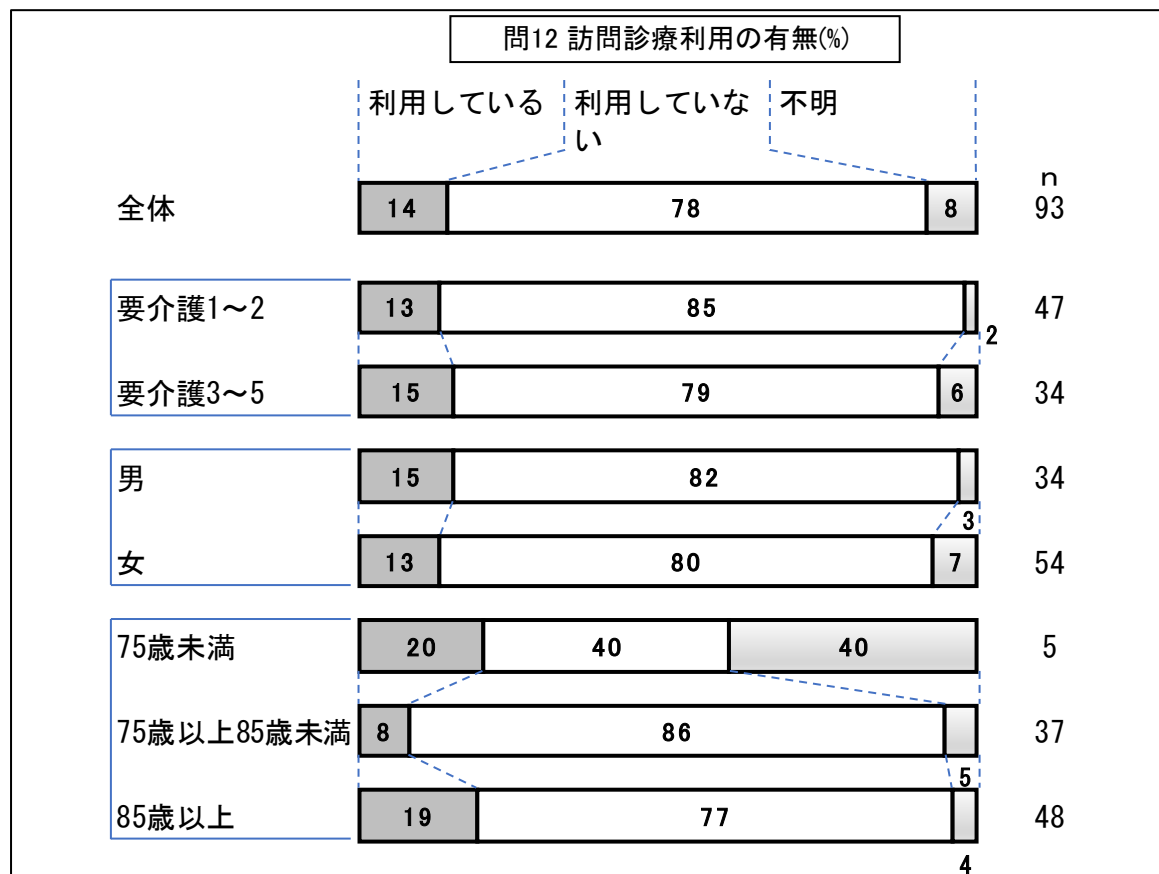


問11 現在抱えている傷病



問12 ご本人（あて名の方）は、現在、訪問診療を利用していますか。

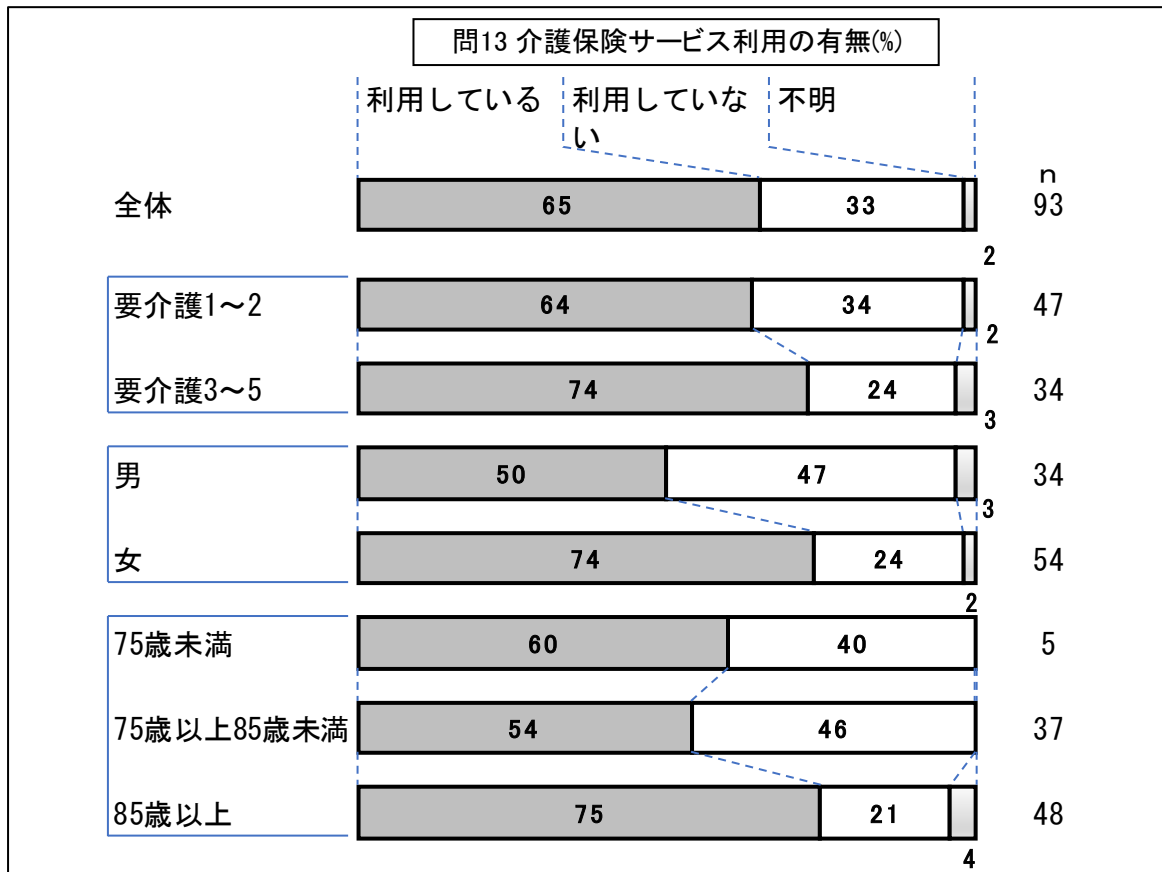
全体では、訪問診療を利用している人は14%です。  
要介護度別、男女別では大きな差はありません。



問13 現在、(住宅改修、福祉用具貸与・購入以外の) 介護保険サービスを利用していますか。

全体、介護度別では、介護保険サービスを利用している人は65%です。

要介護度別では、「要介護3~5」の、男女別では「女性」の、年齢別では「85歳以上」の利用割合が70%以上となっています。



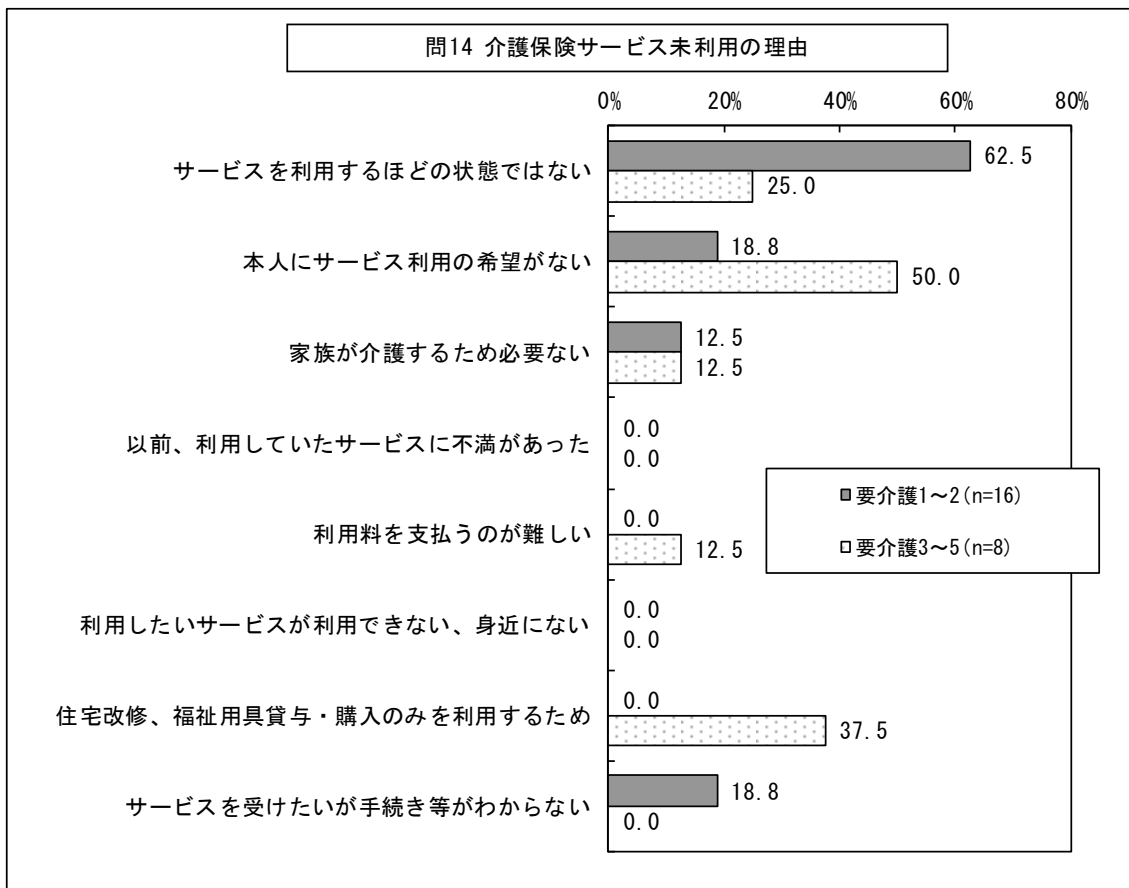
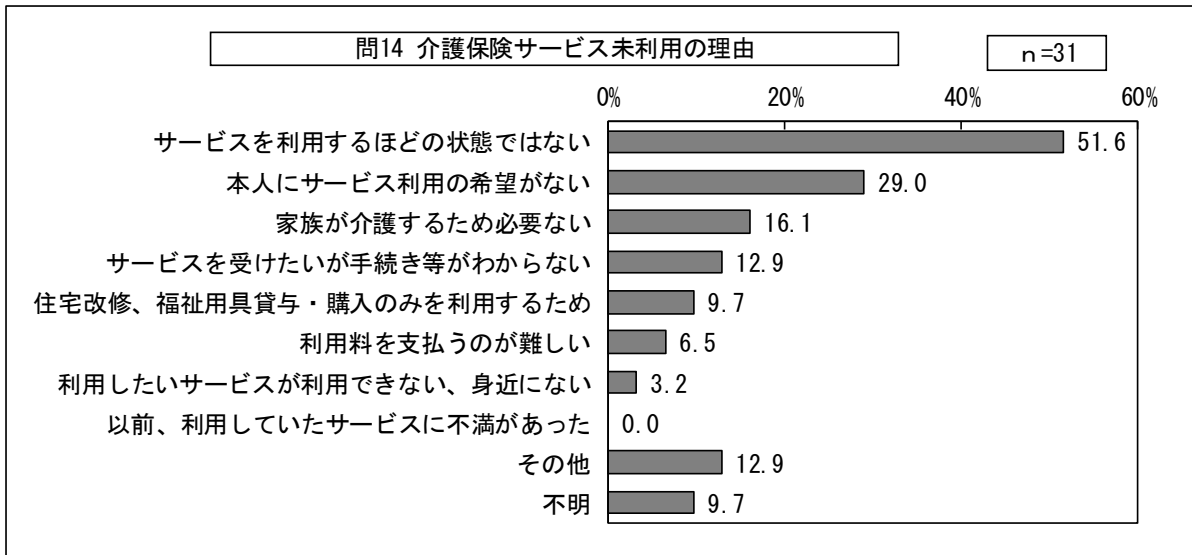
問14 介護保険サービスを利用していない理由は何ですか。

問13で「利用していない」と回答した31人に聞きました。

全体では、51.6%が「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」と回答しています。

要介護度別で見ると、要介護1～2は「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が62.5%と高くなっています。

要介護3～5は、「本人にサービス利用の希望がない」(50.0%)、「住宅改修、福祉用具貸与・購入のみを利用するため」(37.5%)が主な理由です。

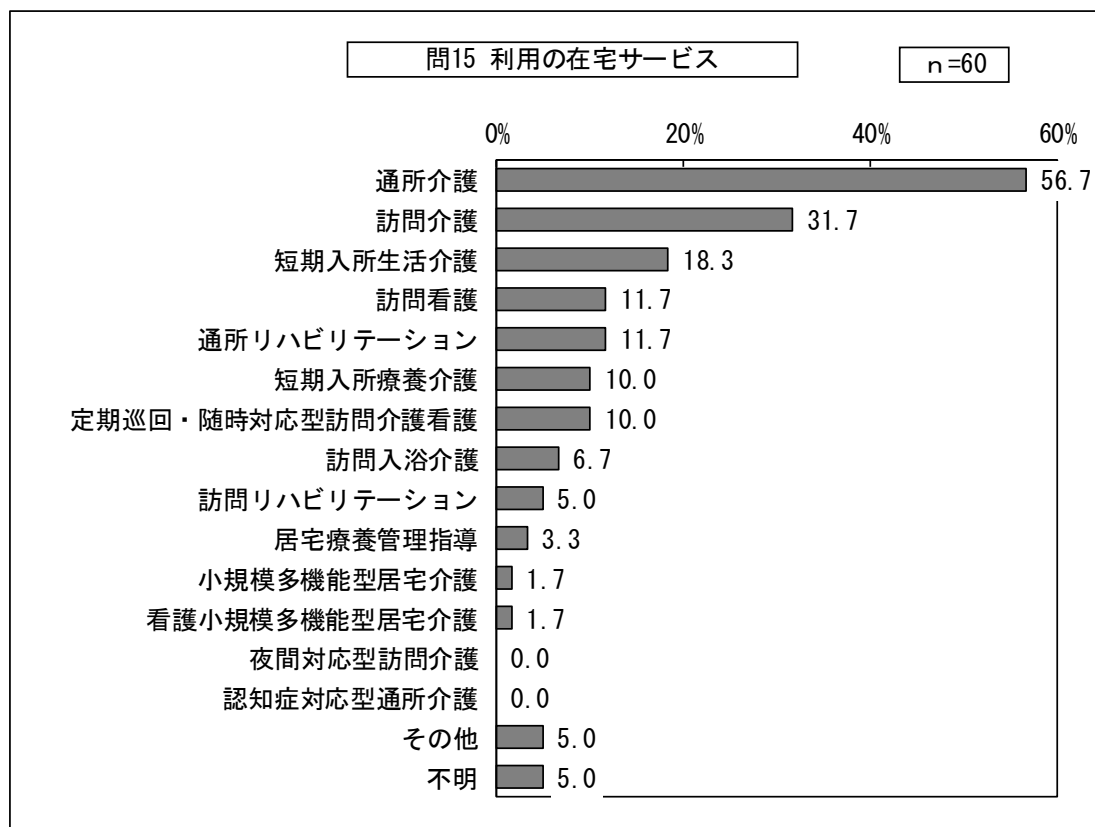


問15 次のどの在宅サービスを利用していますか。

問13で「利用している」と回答した60人に聞きました。

全体で、「通所介護」を56.7%が、「訪問介護」を31.7%が利用しています。

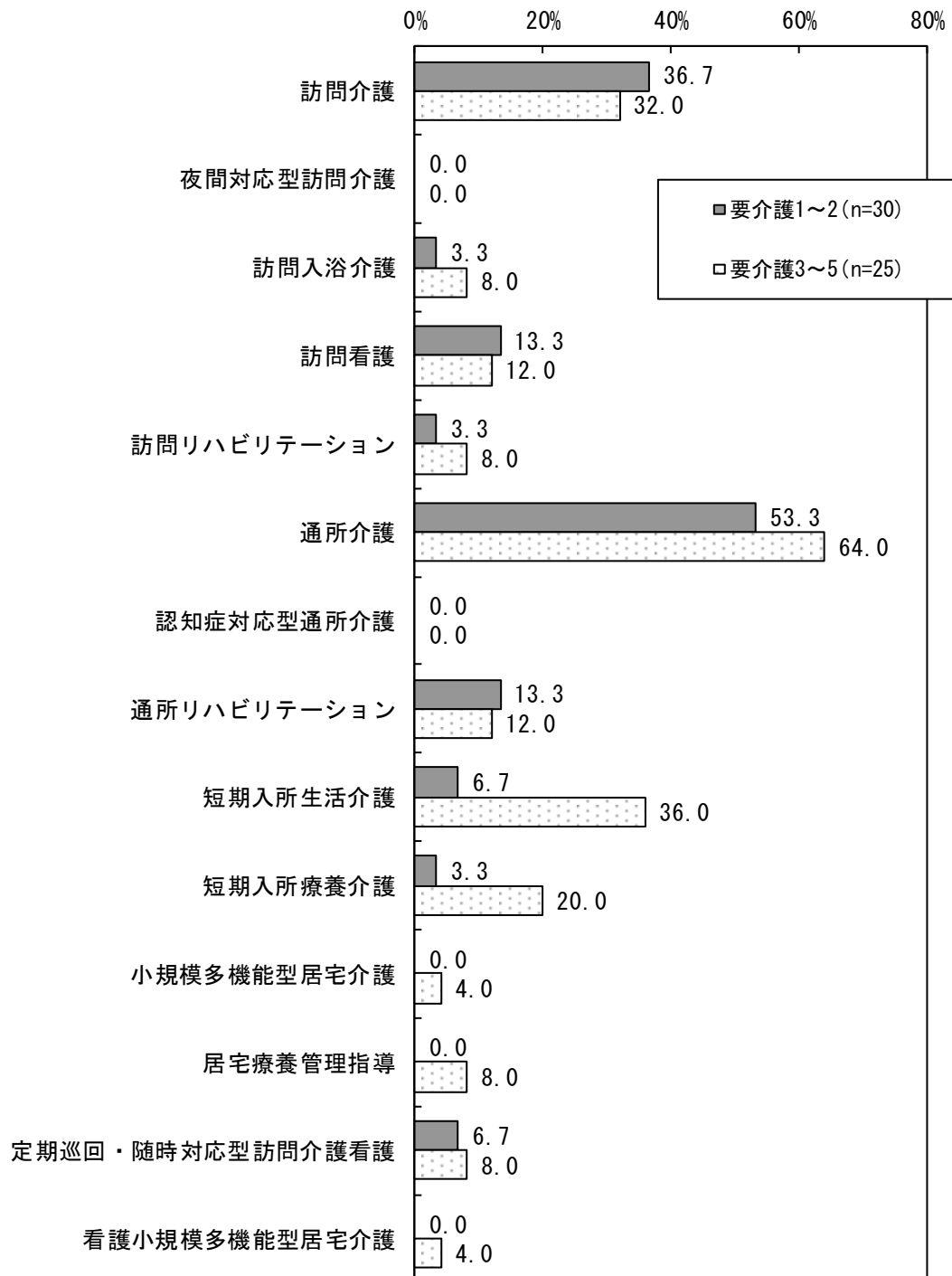
要介護度別では、要介護1～2は「通所介護」(53.3%)、「訪問介護」(36.7%)の順ですが、要介護3～5では、「通所介護」(64.0%)、短期入所生活介護(36.0%)となっています。この短期入所生活介護(36.0%)と短期入所療養介護(20.0%)を合計すると56.0%となり、短期入所の利用割合が高くなっています。



『その他』

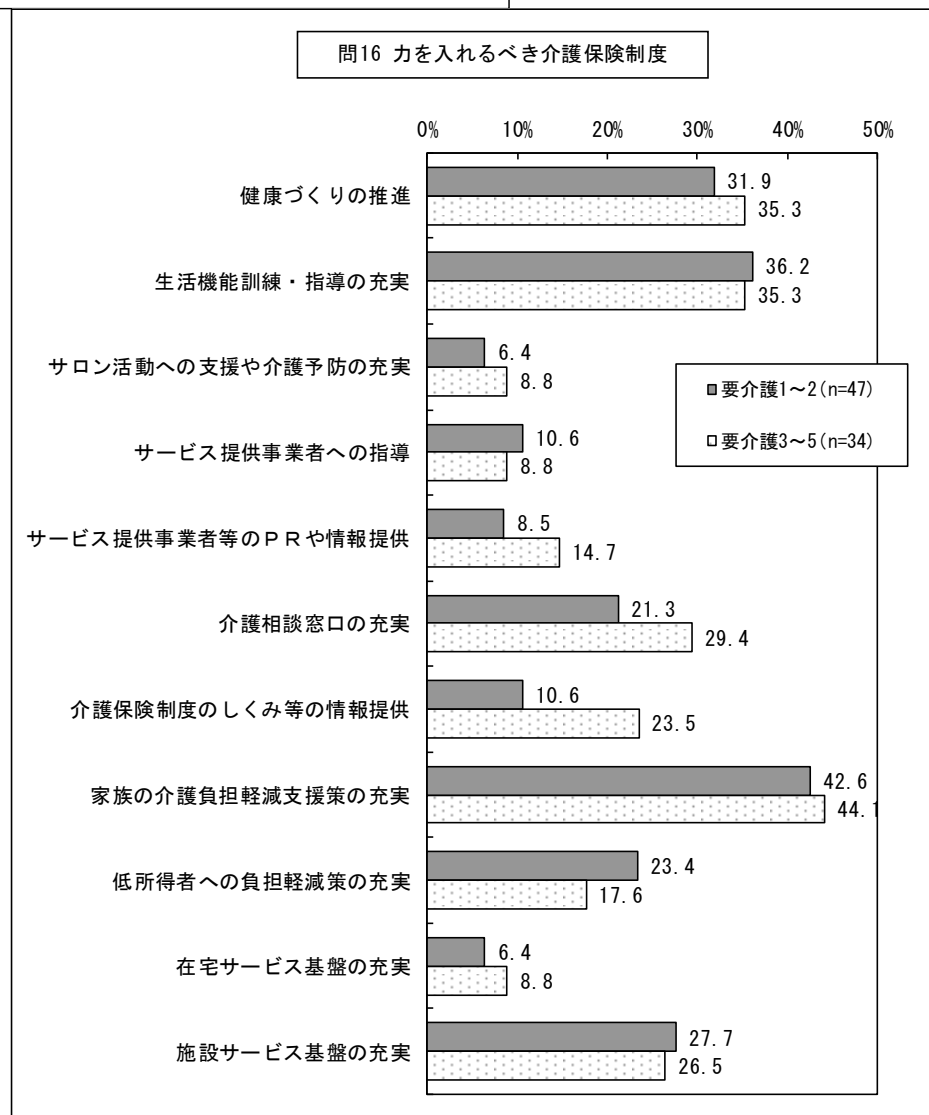
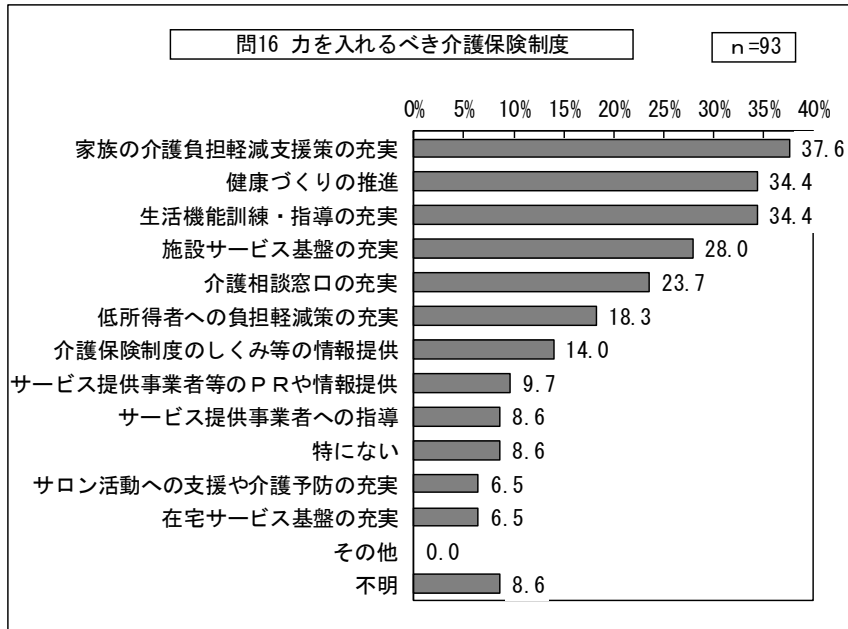
- 特養入居
- これから相談したい。現病院に入院中なので
- 住宅型老人ホーム
- グループホーム入居

問15 利用の在宅サービス



問16 介護保険制度として、特に力を入れるべきことは何だと思えますか。

「家族の介護負担軽減支援策の充実」が37.6%で第1位、次いで「健康づくりの推進」、「生活機能訓練・指導の充実」が34.4%で続いています。

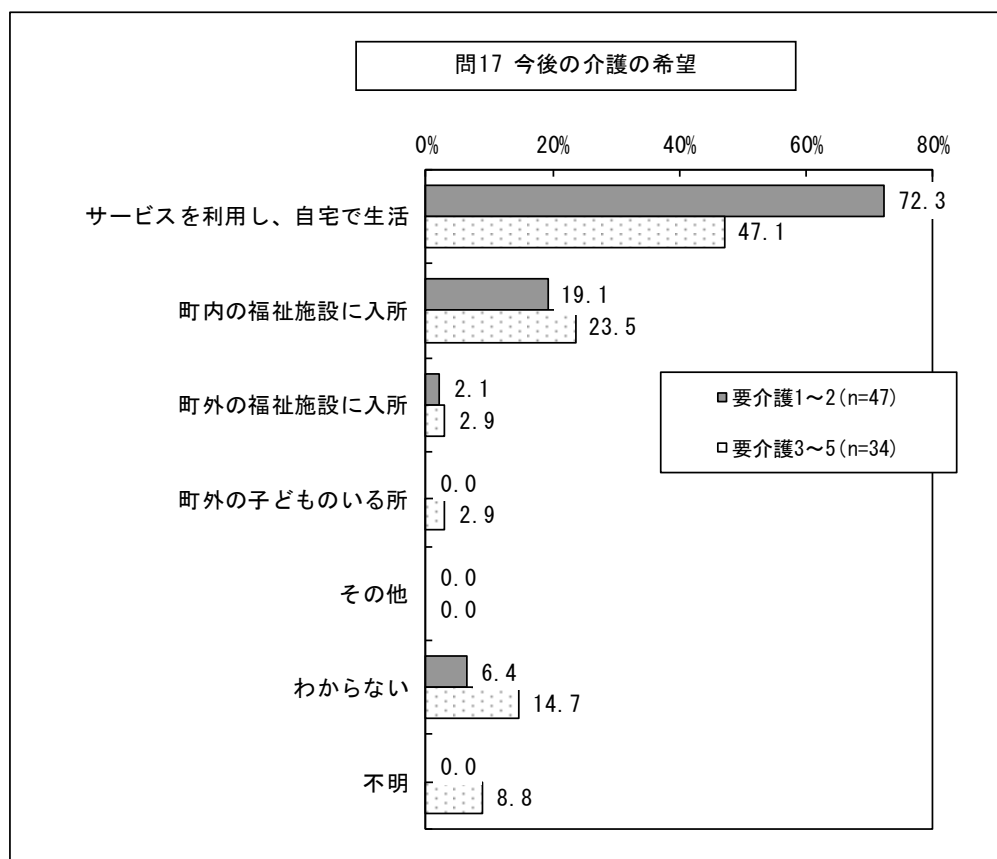
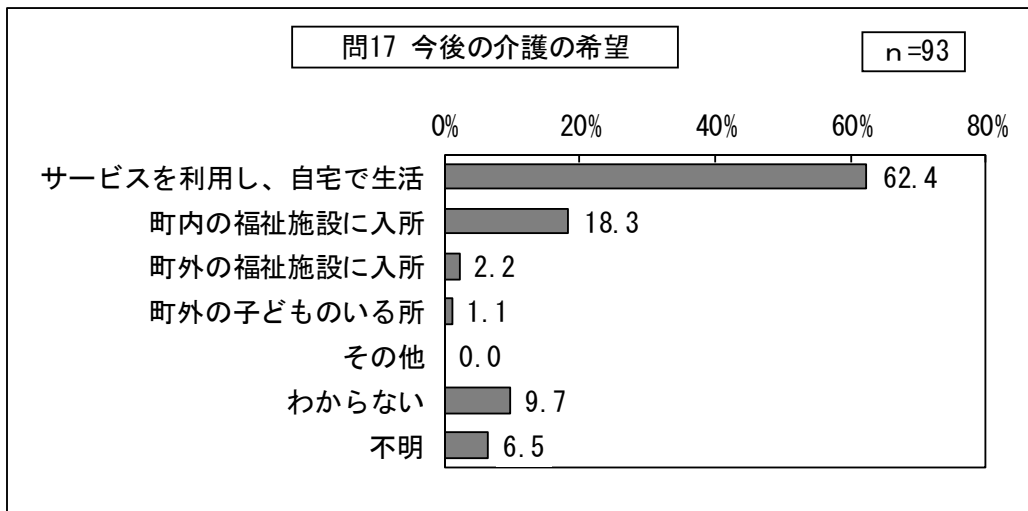




問17 あなたは、今後どのような介護を希望しますか。

全体で見ると、「介護保険制度で利用できるサービスを利用しながら、自宅で生活したい」が62.4%を占めており、次いで「町内の福祉施設に入所したい」が18.3%が続いています。

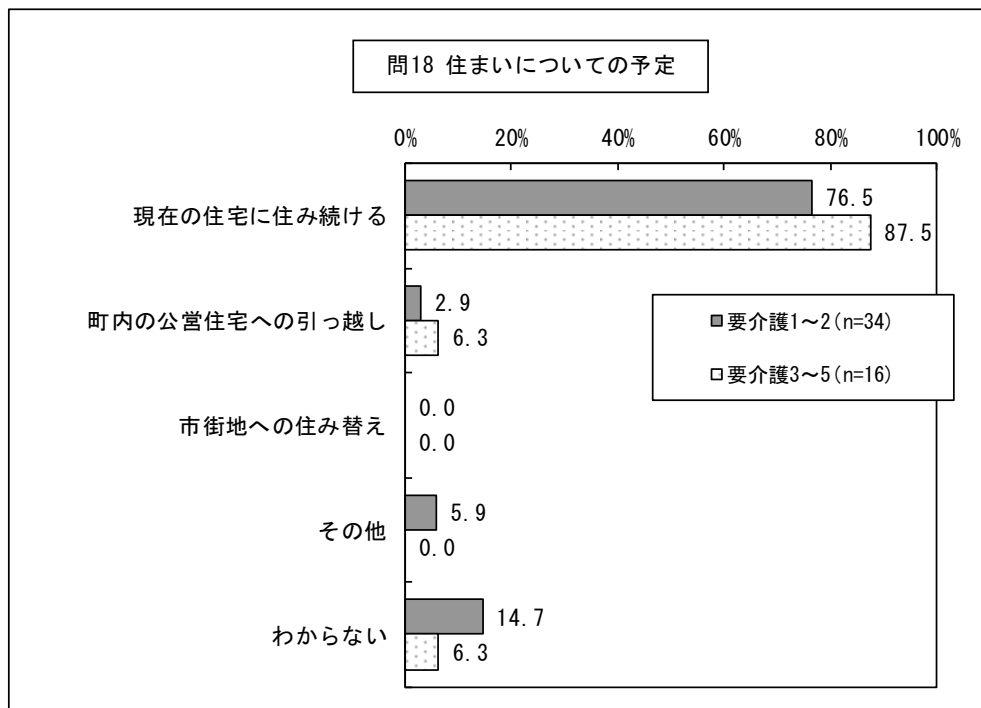
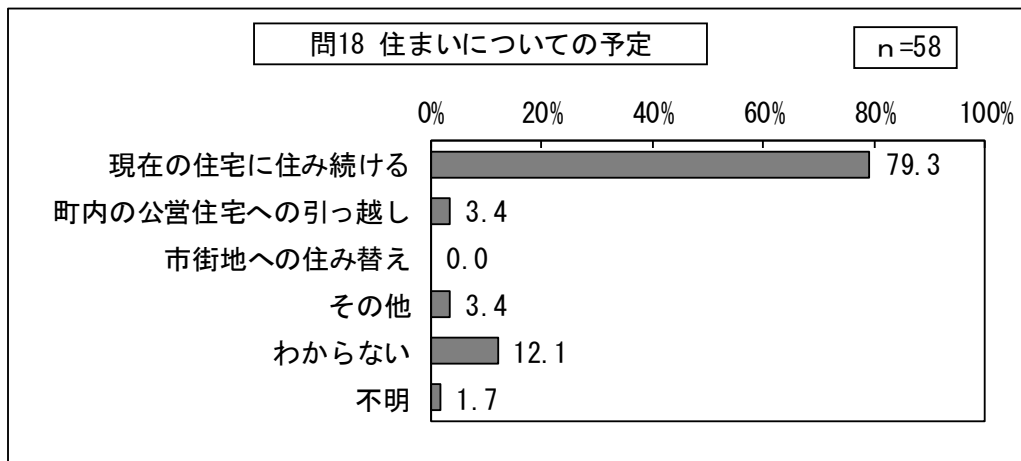
要介護度別で見ると、要介護3～5は「介護保険制度で利用できるサービスを利用しながら、自宅で生活したい」が47.1%で、一方、要介護1～2は72.3%と25.2ポイント差となります。



問18 お住まいについての今後の予定をお聞かせください。

問17で「介護保険制度で利用できるサービスを利用しながら、自宅で生活したい」と回答した58人に今後の住まいについて聞きました。

「現在の住宅に住み続ける」予定の人が、79.3%です。



『その他』

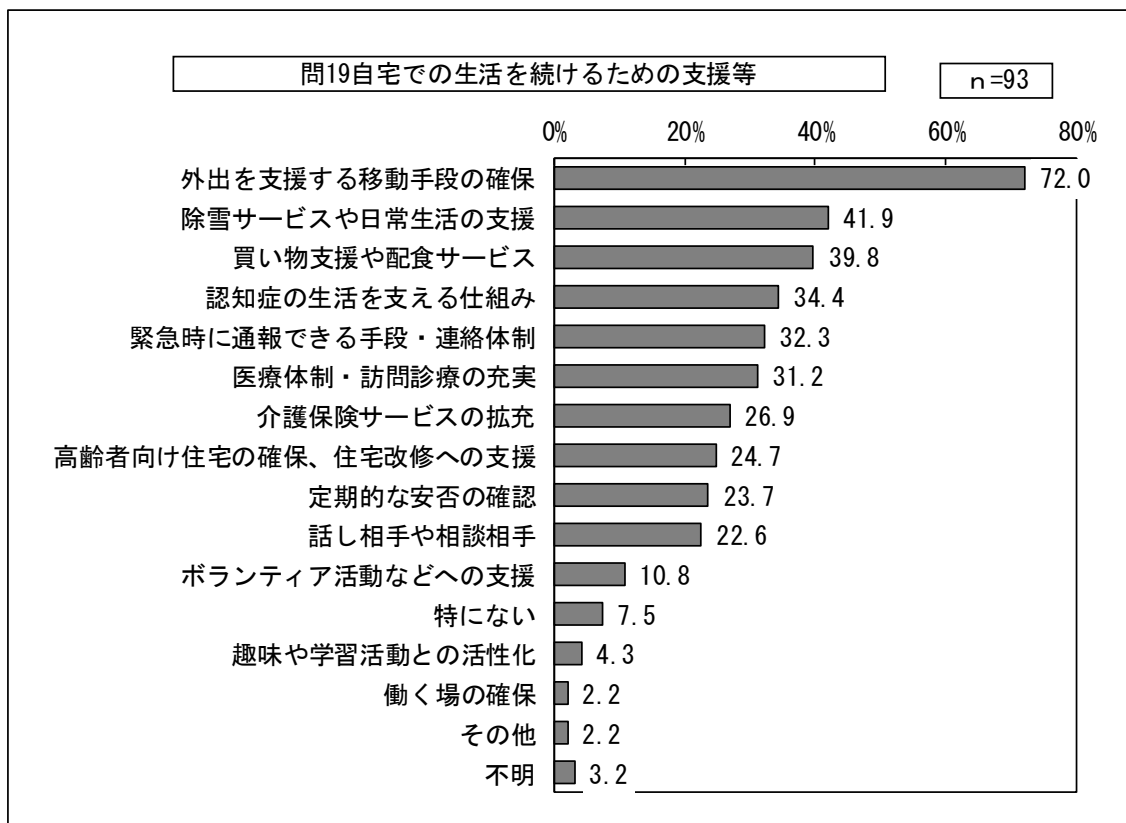
- 老人ホームに入居

問19 高齢者が身近な地域や自宅での生活を続けていくために、特に必要なのは何だと思われますか。

「外出を支援する移動手段の確保」が、他を大きく引き離して72%で第1位です。次いで「除雪サービスや日常生活の支援」(41.9%)、「買い物支援や配食サービス」(39.8%) 続いています。

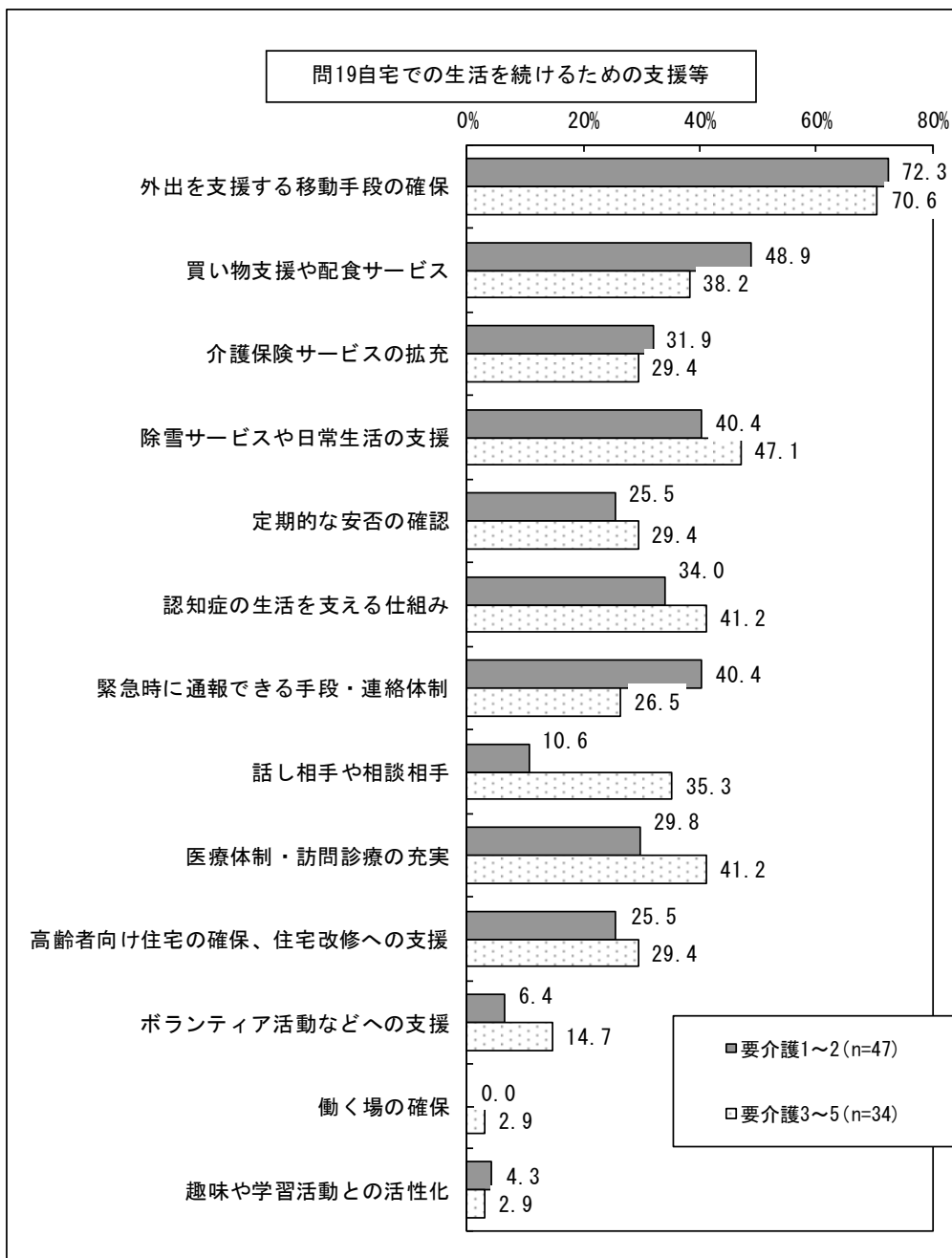
要介護度別にみると、要介護3~5では、第1位及び第2位は全体と同じですが、第3位に「認知症の生活を支える仕組み」、「医療体制・訪問診療の充実」が41.2%で続きます。

問6の介護の内容では、「認知症状への対応」や「医療面での対応」は要介護1~2より高くなっており、問11の現在抱えている傷病の認知症についても「認知症」の割合が要介護3~5では高くなっていました。このような状況を反映しての結果と思われます。



『その他』

- 病院通院の配車



問20 あなたは、標茶町が高齢者にとって暮らしやすいまちだと思いますか。

全体で見ると、「暮らしやすいと思う」(24%)、「どちらかといえばそう思う」(30%)の合計は54%となっており、【日常生活圏域ニーズ調査】の55%とほぼ同じです。

要介護度別、男女別、年齢別には大きな違いはみられません。

年齢別で「75歳未満」の暮らしやすい割合が低くなっていますが、母数が5なので比較するには無理があります。

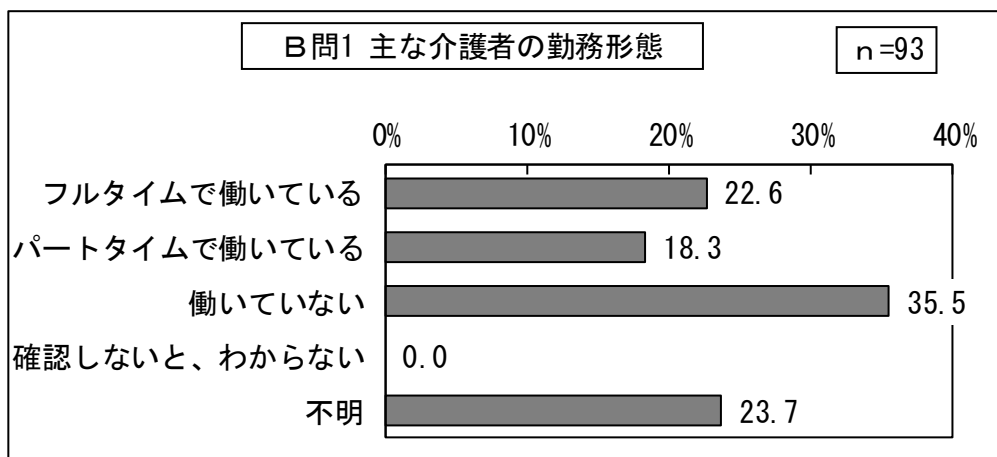
		問20標茶町への評価(%)						
		暮らし やすい と思う	どちら かとい えそう 思う	どちら かとい えそ う思 わな い	暮らし やすい とは思 わな い	わか らな い	不明	
全体		24	30	12	5	22	8	n 93
要介護1~2		19	34	13	6	23	7	47
要介護3~5		29	29	15	0	21	6	34
男		26	26	18	9	15	6	34
女		24	33	9	0	28	8	54
75歳未満		20	20	20	4	40	0	5
75歳以上85歳未満		22	35	16	0	22	5	37
85歳以上		25	29	10	6	21	8	48

		問20標茶町への評価(統合)(%)				
		くらしやすい	暮らしにくい	わからない	不明	
全体		54	17	22	8	n 93
要介護1~2		53	19	23	4	47
要介護3~5		59	15	21	6	34
男		53	26	15	6	34
女		57	13	28	2	54
75歳未満		40	20	40		5
75歳以上85歳未満		57	19	22	3	37
85歳以上		54	17	21	8	48

## B票 主な介護者の方について

問1 主な介護者の方の現在の勤務形態について、ご回答ください。

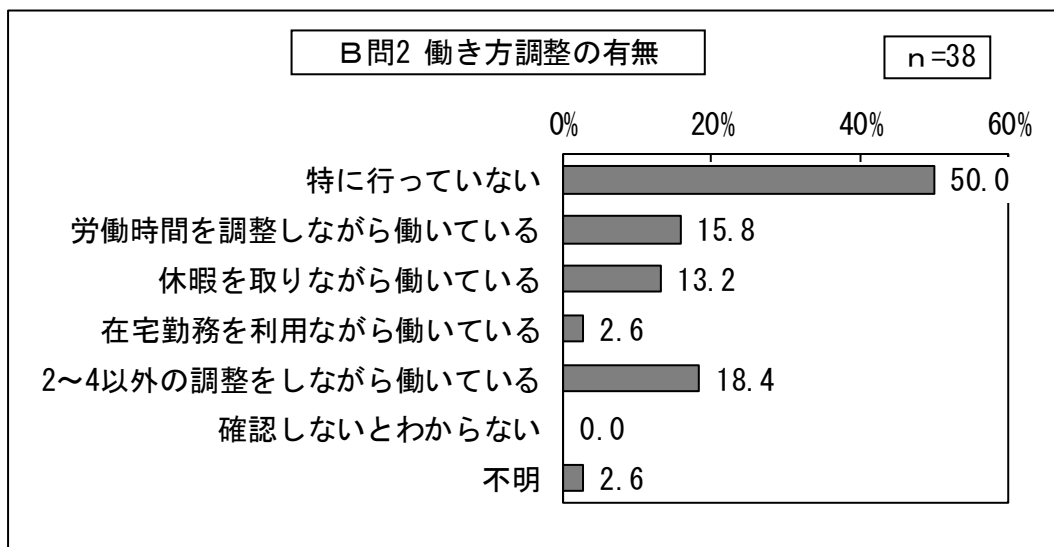
全体で見ると、「働いていない」が35.5%ですが、「フルタイムで働いている」(22.6%)と「パートタイムで働いている」(18.3%)の合計は40.9%で、働いている人の方が多くなっています。



問2 主な介護者の方は、介護をするにあたって、何か働き方についての調整等をしていますか。

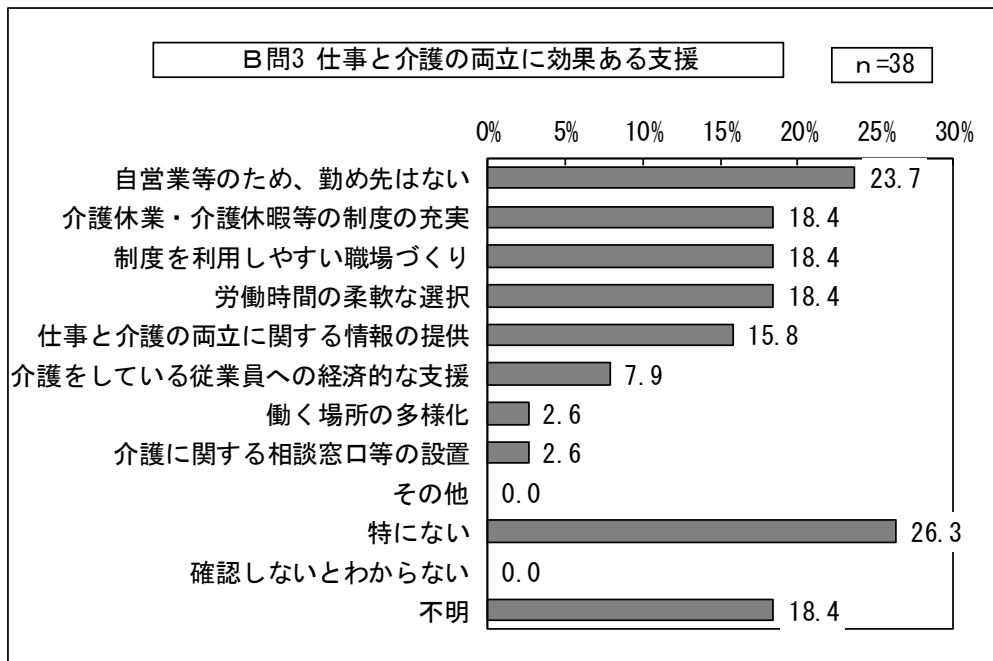
問1で働いていると回答した38人に聞きました。

50.0%は「特に行っていない」と回答していますが、他は労働時間の調整、休暇の取得、在宅勤務の形などいろいろな調整をしながら働いています。



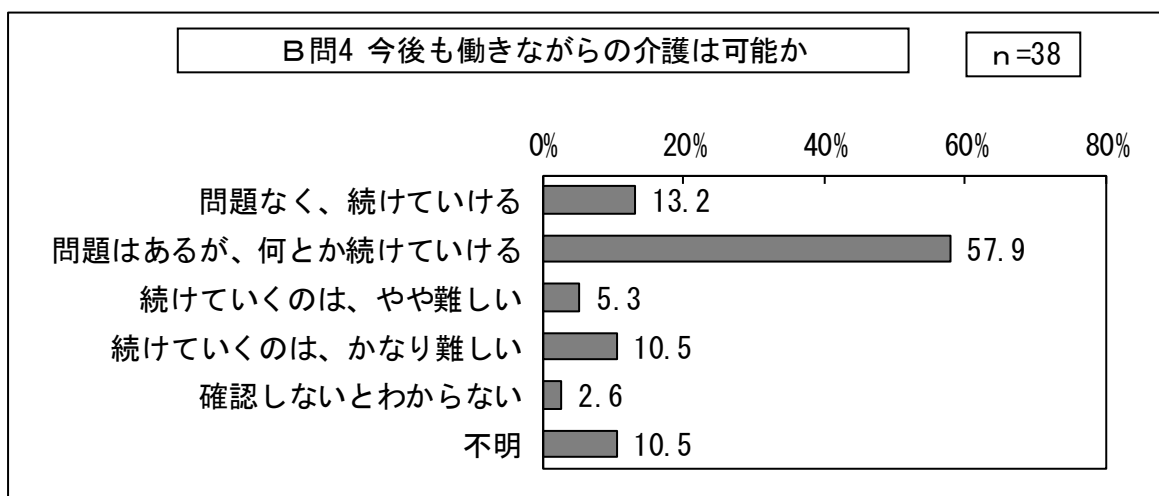
問3 主な介護者の方は、勤め先からどのような支援があれば、仕事と介護の両立に効果があると思いますか。

仕事と介護の両立に効果のある支援の中では、「介護休業・介護休暇等の制度の充実」、「制度を利用しやすい職場づくり」、「労働時間の柔軟な選択」が18.4%で並んでいます。



問4 主な介護者の方は、今後も働きながら介護を続けていけそうですか。

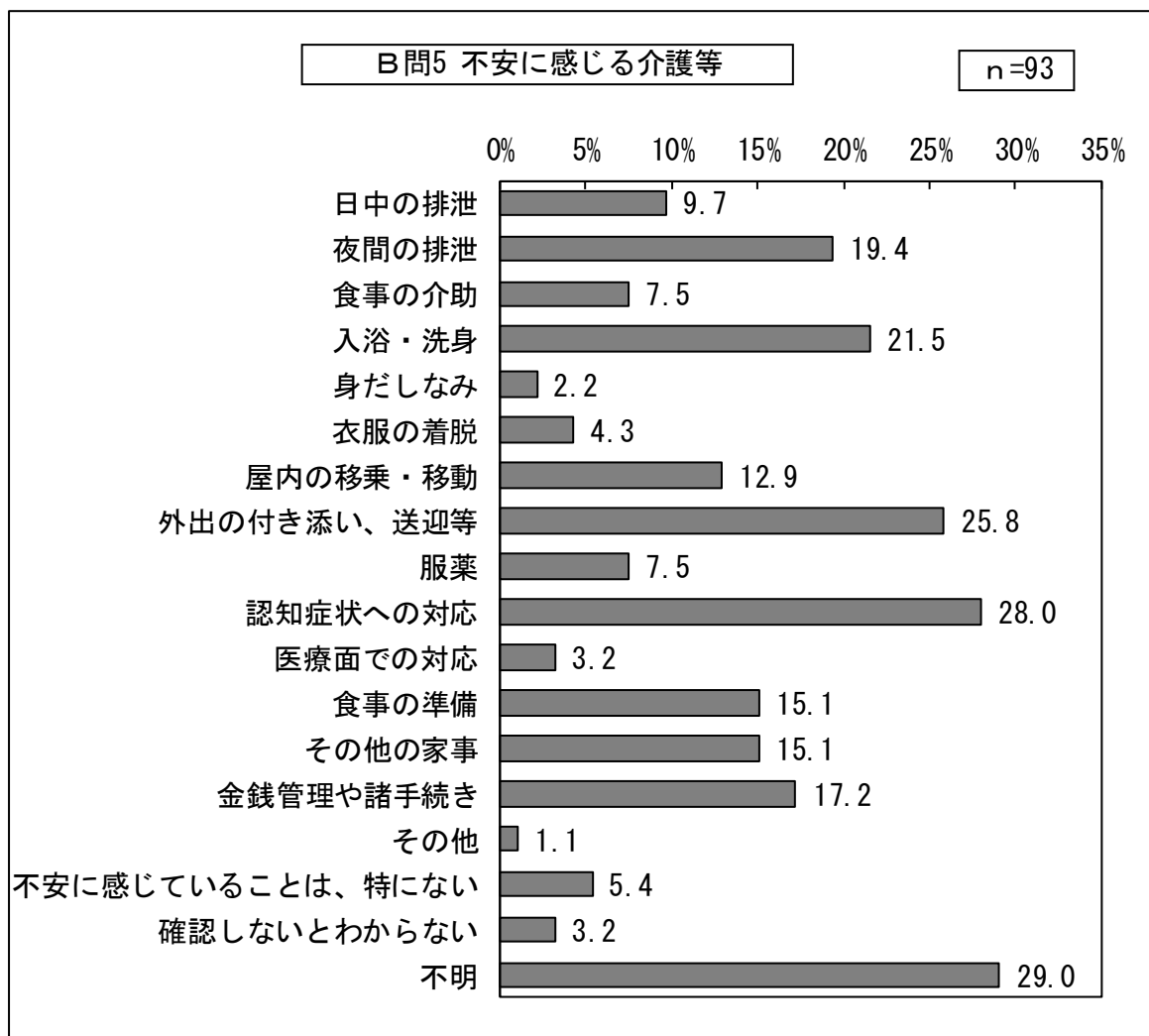
「問題なく、続けていける」(13.2%)と「問題はあるが、何とか続けていける」(57.9%)の合計71.1%が今後も就労を続けていけると回答している一方、「続けていくのは、やや難しい」(5.3%)と続けていくのは、かなり難しい」(10.5%)の合計15.8%は就労の継続に難しさを感じています。





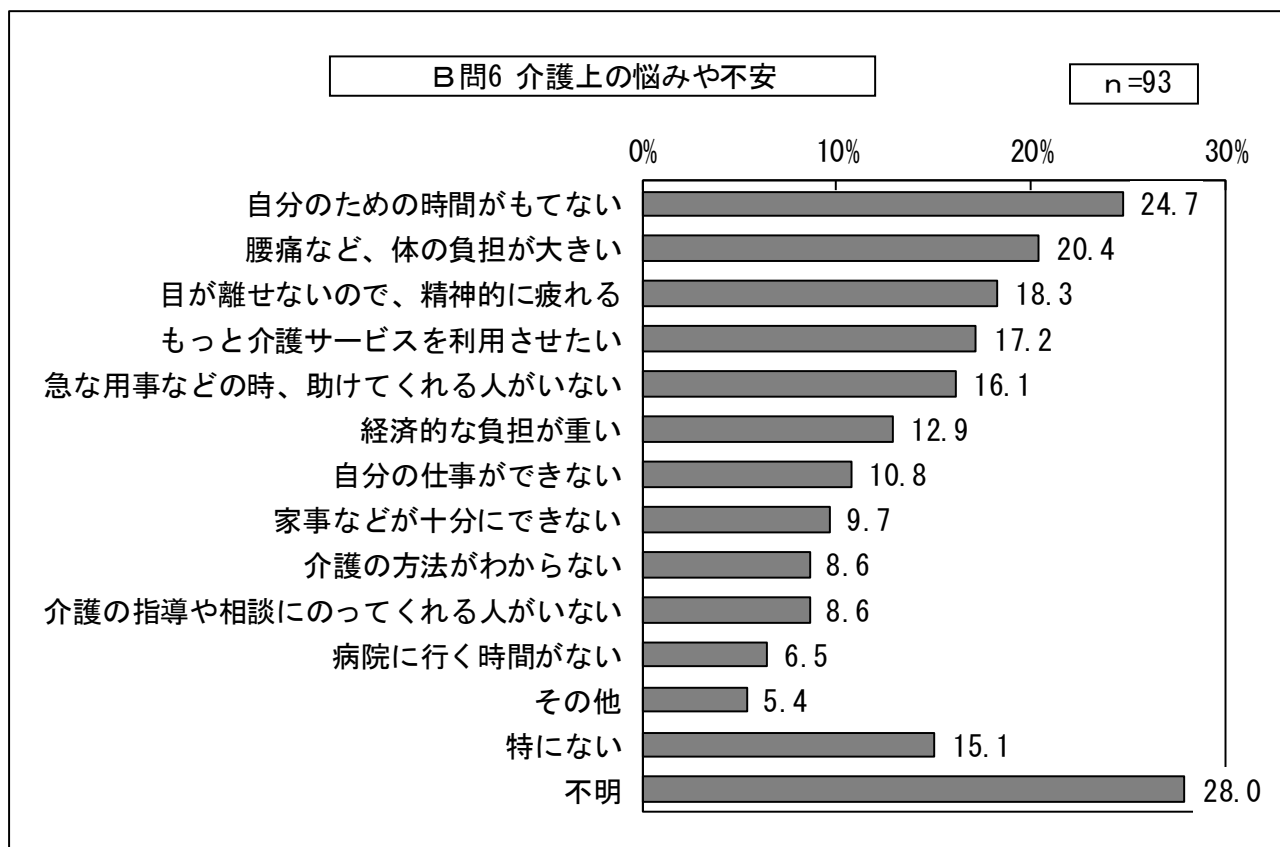
問5 現在の生活を継続していくにあたって、主な介護者の方が不安を感じる介護等について、ご回答ください。

全体でみると、「認知症状への対応」が28.0%で第1位、次いで「外出の付き添い、送迎等」(25.8%)、「入浴・洗身」(21.5%)、夜間の排泄(19.4%)など身体介護に不安を感じる割合が高くなっています。



問6 介護をする上で、どのようなことに悩んだり、不安に思われますか。

「自分のための時間がない」(24.7%)が第1位で、次いで、「腰痛など、からだの負担が大きい」(20.4%)、「目が離せないので、精神的に疲れる」(18.3%)となっています。  
 身体的。精神的に疲れている様子がうかがえます。



『その他』

- 精神的にも、身体的にも、介護する側のケアも必要と思う。心休まるときがない。今後、症状が悪化すれば共倒れが心配
- 介護者が町内に住んでいないので、認知症状が表われたとき、どのように対応したらいいのかわからず不安である。また、一人住いなので、急に具合が悪くなり電話をかけることができないとき、これからあるのではないかと不安になる
- 遠出の出張、泊りがけの外出ができない
- 食事のこと全般。作って持って行っても、食事の残りを冷蔵庫に入れたい、捨てない、腹をこわす、電子レンジが使えない、飲飯器は使えない、もちろん洗濯できない等もろもろだった
- 病院への送迎は良いが、付添いの待ち時間が長い

## IV. 自由意見

### 1. 日常生活圏域ニーズ調査

自由記述
アンケートでなく介護職員が事実確認をして少しでも老人に対して目を向けてほしい。
福祉施設入所の料金の助成を希望する（個人、法人経営等に入所時）。
本人は特に意見、要望等はないと申ししていますが、ないというよりも関心がありません。今回のアンケートについても、「自分は自分、他人は他人」「なってみないとわからない」「自分は誰にも迷惑をかけないから心配するな」と言っています。家族の考えと本人の考えが合わず、使えるサービスがあったとしても「使うつもりはない」とそればかりなので、家族としても何も言えません。選んでいただいた役所の方には誠に申し訳ありませんが、このような回答をお許しください。
町内の老人ホームに入れるようにしたい。
介護保険利用方法の便利帳みたいなのがほしい（知っていると便利だよね）。
自分は現在、健康で仕事もしているのでそれ程深く考えてはいないが、親の介護をした経験があり、高齢化による様々な問題を相談できる窓口、更にケア体制の充実等が必要と思った。特に家庭介護が難しい場合、入所できる施設が足りない。住民に福祉や介護に対する知識や行動について知ってもらおう。
交通利便性。町民に対して過去には温泉の施設を作る話もなくなり、是非、若い家族も入れる温泉を作ってほしい。防災対策にもなると思う。そして歯医者もほしい。
町内に長年住んでいて、町内の福祉施設に入所できないのは悲しい。
住みなれた地域で、安心していつまでも暮らせる虹別であってほしい。
標茶の小さな八百屋さんはなくなり、トラックの八百屋も今では来ない。買い物に不自由です。買い物に不自由でなければ、標茶は良い所である。介護保険等の意見でなくて申し訳ない。
サロン活動でも、何をやるにも市街地に出なければならぬ。そのときのバスとか考えてほしい。
町内コミュニティセンター利用充実。管理人にカギを借りに行くのが大変。
自分自身にはピンときてないのですが、義母が介護状態になり、現実まだ仕事を休む（やめる）ことができず、外の兄弟にお願いしています（何とか、自分のことはできる状態です）。また、伯母が認知症で、実の娘が介護しています。これが自分だとすると、どうしたものかにつくづく福祉サービスの有り難みを痛感しています。ただ、施設に入れられないのが悩みです。
現行の通院バスの利用について、市街地でも、病院から遠方で、タクシーを利用している者です。開発センター前で乗り降りさせていただきたいのですが、高校近辺、常盤橋東辺、桜地区、平和地区等々、乗り降り場を設定すると、利用される方々はいると思います。週に複数回、買物、循環バスの運行も実現させていただきたいのですが（町市街地と周辺地の商店を結ぶ路線）。
Q & A方式で、介護保険用語の質疑応答で広報標茶等活用して、対象者などの意識の高揚を図ってほしい。
福祉サービスの充実も重要だが、介護、介護だけでなく、その前の個々の自立できる体制を作っていくことも必要と思われる。
標茶町も高齢化率が右肩上りの状態は今後も続く。自身も80歳を目前に控え、何時介護保険の対象になるかもしれない。妻と時々語らいの中で、しっかり保険料を支払い、他人のために尽くし、自分らは少しでも日々健康に留意し、明るく、楽しく、意義深い生活の創造を目指しています。

自由記述
保健福祉サービス等受けた経験がないので分かりませんが、知人が受けてるのをみると、いろいろ相談にも優しく応じてくれるようで、いいと思います。長いこと、年老いた父、母、姑の看護をしたので、自分は公的サービスを受けたいと考えてます。
老人福祉施設の整備（やすらぎ園への入所希望者待ちの解消）。
私は、6月からデイサービスコスモスに通っています。80歳。週1回ですが楽しいです。今一人暮らしですが外の仕事（ハウス）を楽しんでいます。これから、どうなっていくのか心配もあります。悪天の日は、一人ですらいます。
現役世代（40歳後半）から介護予防の重要性を認識し、予防（社会とのかかわり、下肢能力低下防止）のためのモチベーションを高める活動が一番求められる（行政への要望）。
介護保険の有りがたさ実感しています。
個人情報が大変になっておりますが、役所の人々が何もなくても一声掛けていただけたら（こんにちは、お元気ですか、ありがと、ご苦労様）老人が一番うれしいと思います。一番のサービスです、暑い中本当にご苦労様です。
高齢になって思うことは、自治体から届く書類の字が小さく、薄いため読んだり、記入に苦痛を感じている。字は大きく又は太く（濃く）改善してほしい。
いつまでも元気で、知人の皆様と楽しいお話が出き、福祉サービスを受けながら過ごせればと思います。
ラジオ体操の実施（時間は不問）、年に何回かの高齢者による体操会等、ウォーキング（町内別）歩数、週に1日とか車両を使用しないで歩いて行く日を。自分の若い頃は■■■2丁目（駅■）から役場まで歩いて行っていた。
高齢者が増えているのに、施設が足りない。
介護保険福祉サービスの質の向上と、介護士の質の向上、福祉施設の充実。何事にも相談でき、親身に行動できて、介護者に負担のかからない心遣いができるように！。
自分の家がある人はずーと住み続けたいと思いますが、同居してくれる人がいるかです。自力が長生きできると思いますが。
老いてきましたのでお世話かけることが多くなることでしょうか。家族の人が勉強する機会があったらどうでしょうか。
介護保険を支払った年代からの体作りと習慣を希望します。これからは100歳近い寿命だとか？高齢者のサービスを増やしてほしいです。例えば、春夏秋冬期ごとのサービスです。町内のコミュニティセンターを月2日、週1日くらい自由開放など希望します。
人生の最後まで自宅で終わりたいと思います。
移動手段の確保が切実。年齢的に車の運転ができなくなったとき、医療・買い物等早速生活に影響がでること必至。標茶町は高齢者に対して優しくないと思う。本町では巡回バス運行もありやと聞くが、タクシーもあり郡部（周辺）のことも考えてほしい。
まだ利用していないので良いか悪いかわからない。特に奥に住んでいると敬老パスを貰っても、乗り場まで行くには歩いては遠くて役にたたない。
「してもらいたいこと」と「してくれること」の差が余りにも違い過ぎる。

自由記述
今現在即思いつかない！。
今のところまだ介護される実感がないので、なかなか思いつきません。
介護保険や福祉サービスについては余りよく分かりませんが、亡くなる方の最後が（自殺）という現実は大変重く感じているのは私だけでしょうか。
民生委員の人に相談しにくい。介護保険料がつみ重なると払うのが大変になる。お年寄りが集まってお茶のみしたり、ゲームをして遊ぶ場所がほしい（虹別）。
標茶町虹別の大自然の中に生き長らえている私は、子供たち家族と暮らしていることを大きな幸せとと思います。アンケート調査ご苦労さんです。
高齢者ところに除雪してほしい。
年金の減り、介護保険料の上がり、1か月もらえるお金がだんだん減り、病院代毎月、2、3回の病院に行くとか小遣いなど幾らも残らず、だんだん年をとって、それこそどこにも遊びに行くこともできない。好きな物だって買って食べれない。服など買えない。これからが不安です。
やはり高齢者医療福祉政策三原則の実践～我が家で一生過ごしたい生活をなるべく変えないですむよう、サポート。補助器具や住宅環境を整えることによる残存能力の引き出し。自分の人生の在り方は高齢者自身が決め、まわりはそれを尊重する。
高齢者向けの住宅があると、町外の施設に行かなくても良いのですが。また、年金で入所できると安心なのです。
母親が要介護2～3の頃10年前に居住。その後要介護5まで進み寝たきりになりましたが、自宅にて私が介護。また、ヘルパー、訪看、病院への月1回通院等々で10年間、昨年3月身納りましたが、その間、町の介護に関するいろいろな支援、気遣いに大変感謝しています。今後、私かと思うと不安になりますが、ヘルパーの質の向上と訪問看護師の充実、固定電話をもっと利用する方法など、効果的な介護あるいはようすみ支援に活用すると良いと考えます。
町内の福祉施設に入所したいと思っていますが年金が少ないので、どのくらいなら入所できるのか知りたいです。
私は昭和15年生まれです。今日の生活は、これ以上は望みません。
超高齢化社会となりつつあり、より一層の介護保険事業が重要になり、必要と思うが、介護保険料がどんどん上がり、生活が苦しくなっているから、これ以上保険料を上げないでほしい。国の予算でもまかなえるように働きかけてほしい。
家の中の清掃ができなくなった。
70歳時からもらえるバス利用券、入浴券は町内（市街）の人だとほとんど使うことがない。代わりや選択制で、年に1度、ゴミのシールなどにしてほしい。また、標茶町の介護保健料が高すぎる。
札幌のように人口が密集していないので暮らしやすいが、商店がだんだん少なくなってきている。交通の便が悪い。買い物に行っても配達していないので不便になってきている。今のところ手にもって帰れる分だけにしてはいる。それも体調のいいときに。時々歩いていて、車がきていても、わからないときもあるし、信号機があるのもわからなくなり、無視して渡ってしまうこともある。気をつけてはいるのですが、病院では、そのうち介護を頼んだ方がいいよとされている。

## 2. 在宅介護実態調査

自由記述
特でない。欲を言えばきりがない。超高齢社会を迎えるに当たり、人口減少時代に突入し、財政的にも人間的にも破綻しない範囲でのサービスが望ましいと思う。
私は足が元気なので自分のことは自分でやります。アンケートありがとうございました。
今のままでいいと思う。
町内、町外へのバスやハイヤーを安く利用できるようにしてください。ヘルパーさんに頼めないことを、安く頼めると良い。
別件ですが、父親が町立病院に入院したとき、通常より長く入院させていただき助かりました。
介護用具の利用については大変便利に利用できて、助かっています。
開運〇丁目に有る水間の所の除雪について。以前はきれいに除雪していたのに、昨年と今年は●●さん側はきれいにしていくのに、■側は固雪を残していくのです。今年、みぞれが降ったとき、量が少ないから除雪にこないと思ったら、●●さん方だけ1度おして行って、半分はそのままになっていました。リハビリのため介護の車が8:30分に迎えにくるので、それまでに開けておかななくてはならず、役場に電話するひまもなかったので食事もせず除雪しました。リハビリは週2回ですのでこのときだけでもきれいにしてほしいです。
恥ずかしいけれど、主人が亡くなってから、自由ならず寂しくて寂しくて。8人家族です。私は毎日外に出て畑をやったり家の周りの草取り。外で家の周りの掃除をやっています。日中は1人です。ひ孫3人は学校。まだ動けるから自分のことは全部1人でやります。買い物はハイヤーを使ったりします。娘が2人釧路に嫁いでいます。毎日のように暑いから電話や小遣いをくれます。87歳（昭和5年生まれ）、もうわずかな人生だから、外に出て大きな声で歌っています。楽しいです。息子の帰りを待っています。
何年間も待機せず6か月～1年以内で入所できる施設を増してほしい。
一般生活に対する不安がある。
私自身もガンになり夫の世話をするのが大変ですが、できる限りやっっていこうと思います。
介護付有料老人ホームがあるとよいと思う。



# SHIBECHA

標茶町高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画  
(第7期) 別冊資料編

平成 30 年3月

発行 標茶町

編集 標茶町保健福祉課

〒088-2312

川上郡標茶町川上4丁目2番地

TEL 015-485-2111

FAX 015-485-4111